marantz® AV Surround Receiver

SR7005

取扱説明書

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意
禁止

付属の電源コードを使用する
他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施
禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない
電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは
電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する
電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施
禁止

電池を交換するときは
- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する
放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない
内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない
機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは
まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは
安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

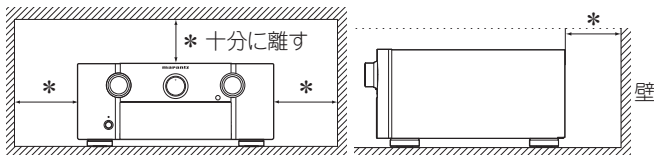
5 年に一度は内部の掃除を
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、「保証書」とともに大切に保存してください。
なお、お買い上げいただきました製品は、厳重な品質管理のもとに生産されておりますが、ご不審な箇所などありましたら、お早めにお買い上げ店、当社お客様ご相談センター、または最寄りの当社営業所 / サービスセンターにお問い合わせください。

目次

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

＊30cm 以上

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

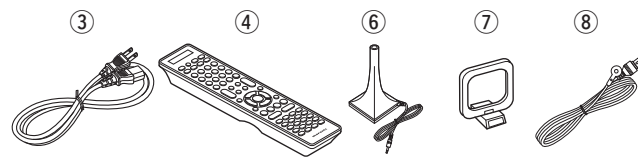
ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）............1
② 保証書（梱包箱に貼り付けています）............1
③ 電源コード【本機専用】............1
④ リモコン（RC011SR）............1
⑤ 単4形乾電池............2
⑥ セットアップマイク（ACM1H）............1
⑦ AMループアンテナ............1
⑧ FM室内アンテナ............1
⑨ ワイヤレスレシーバー（RX101）............1

③ ④ ⑥ ⑦ ⑧

本書について

❑操作説明のボタンについて

本書の操作説明は、リモコンの操作ボタンをメインに説明しています。

❑マークについて

☞ このマークは、関連情報を記載している参照先のページをあらわします。

このマークは、補足説明や操作上のアドバイスをあらわします。

ご注意 このマークは、操作時に留意していただきたい注意点や、機能の制約などをあらわします。

❑イラストについて

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

本機の特長

ディスクリート回路構成による全7チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載
（実用最大出力 195W、6 Ω）

本機には、オリジナル音源を忠実にサラウンド再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位なサラウンド再生を実現しています。

電流帰還アンプ搭載

プリアンプには高速の電流帰還方式の増幅回路を採用し、ブルーレイディスクプレーヤーなどの HD オーディオ対応機器からの信号を忠実に増幅します。また、高速の電流帰還アンプは自然な音場空間を再現します。

HDMI Ver. 1.4a 対応（3D、ARC、Deep Color、x.v.Color、Auto Lipsync、HDMI コントロール機能対応）

本機は、ブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D 映像信号を、3D 対応テレビに出力することができます。また、本機とテレビ ＊1 を接続している HDMI ケーブルを経由してテレビの音声を本機で再生する ARC（Audio Return Channel）機能にも対応しています。

＊1 テレビも ARC 機能に対応していることが必要です。

インターネットラジオやパソコンに保存された音楽ファイルを楽しめるネットワーク機能搭載 ＊2

ネットワークの技術を利用して、お手持ちのパソコンやハードディスク（NAS）に保存した音楽ファイルや、インターネットラジオを楽しむことができます。また、デジタルカメラで撮影した写真データをプレビューしながら音楽を楽しむこともできます。

＊2 インターネットへの接続環境が必要です。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備（入力：6 系統、出力 2 系統）

本機は、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどの様々な HDMI 端子搭載機器との接続に対応するために、6 系統の HDMI 入力端子を装備しています。
また、6 つある入力端子のうち 1 つはフロントパネルにあり、デジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラに記録された画像や映像を手軽に楽しむことができます。

ブルーレイディスクプレーヤーの HD オーディオに対応

本機には、ブルーレイディスクプレーヤーの音声フォーマットである Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio などの高品位デジタル音声フォーマットに対応したデコーダーを搭載しています。

Audyssey DSX

本機には Audyssey DSX デコーダーを搭載しています。
本機にフロントハイトスピーカーを接続して Audyssey DSX 再生をおこなうことにより、より上下の空間表現力を持った再生をお楽しみいただけます。また、フロントワイドスピーカーを接続することで、よりワイドな左右の空間表現力をもった再生をお楽しみいただけます。

操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース

本機には、メニュー表示や階層ディレクトリーを視覚的にわかりやすくした“グラフィカル・ユーザー・インターフェース”を搭載しています。階層を表示させることで、自分が何処にいて、何を設定しようとしているのかが分かり易くなり、操作性を向上させています。

アナログ映像信号（SD 解像度）を 1080p(HD 解像度）の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサー搭載

本機には、本機に入力されるアナログ映像信号を 1080p（HD 解像度）信号にアップスケーリングして HDMI 端子からテレビに出力できる「HDMI ビデオアップスケーリング機能」を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも HD 画質に迫る精細な映像を再現することができます。

iPhone® や iPod® の再生に対応した USB 端子搭載

本機の USB 端子に、iPod に付属の専用 USB ケーブルを接続することで、iPod の再生や、本機のリモコンで iPod を操作することができます。

M-XPort（Marantz-eXtension Port）

拡張性に優れたマランツ独自の M-XPort を搭載しました。付属のワイヤレスレシーバーRX101 を接続して Bluetooth 機器（デジタルオーディオプレーヤー、携帯電話など）の音楽ファイルを本機で再生することができます。

フロントハイトチャンネル専用スピーカーターミナル

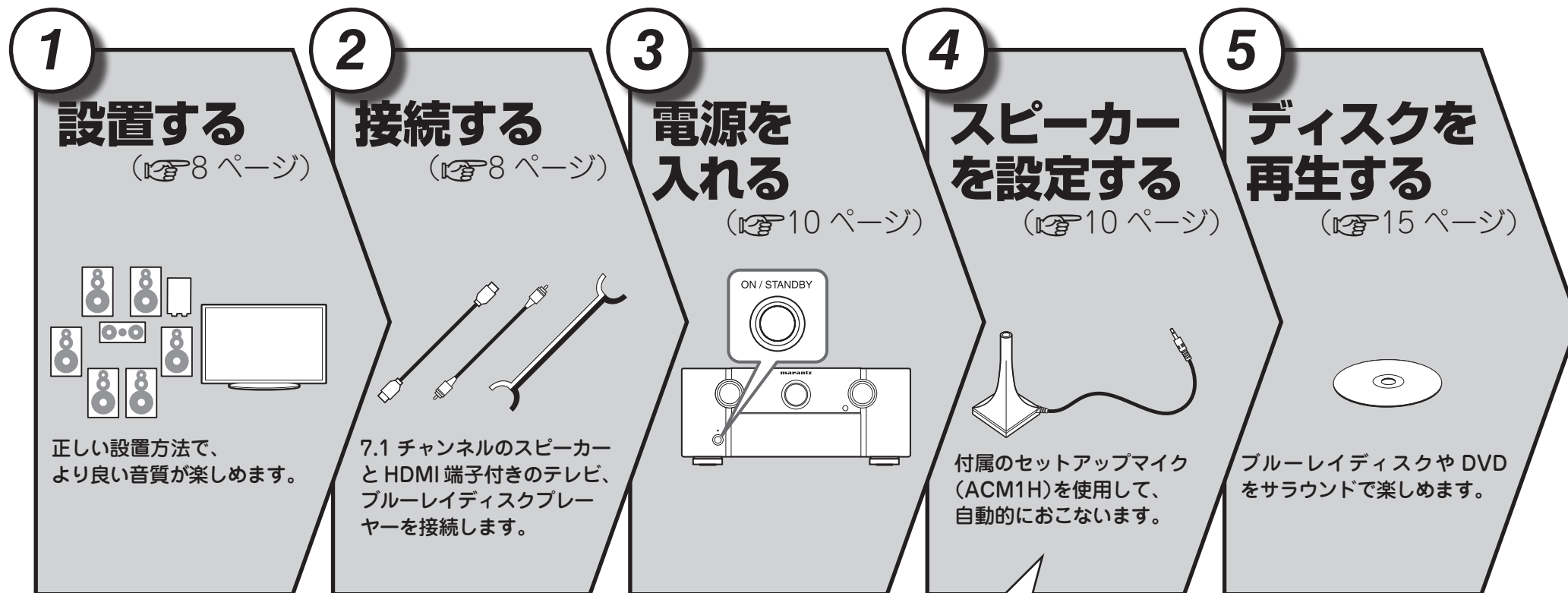
本機背面にフロントハイトチャンネル専用スピーカーターミナルを装備しました。これによりスピーカーの設置をやり直すことなく、フロントハイトチャンネルを使用した 7.1 チャンネル再生とサラウンドバックチャンネルを使用した 7.1 チャンネル再生をお楽しみいただけます。

その他

- ドルビーバーチャルスピーカー（☞43 ページ）
- ドルビーヘッドホン（☞43 ページ）
- DTS Neural Surround（☞40 ページ）

Simple version 入門編（かんたんセットアップガイド）

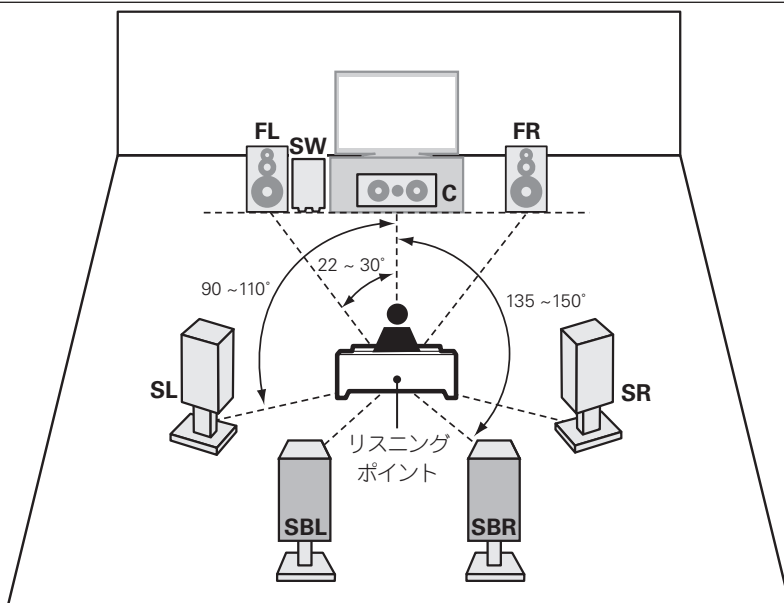
ここでは、ホームシアターを簡単にお楽しみいただくための手順を説明しています。
「入門編」ではサラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
その他のスピーカーの設置 / 接続 / 設定方法については、45 ページをご覧ください。

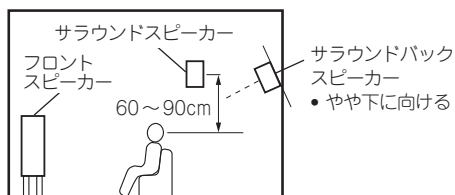
- ❑ **接続するときは、各機器の電源を切ってください。**
- ❑ **接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。**

スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）

ステップ 1（Step 1） **準備 (Preparation)** → ステップ 2（Step 2） **スピーカー検出 (Speaker Detection)** → ステップ 3（Step 3） **測定 (Measurement)** → ステップ 4（Step 4） **解析 (Calculation)** → ステップ 5（Step 5） **解析結果 (Check)** → ステップ 6（Step 6） **保存 (Store)** → **完了**

1 設置する

本機では、2.0/2.1 ～ 7.1 チャンネルのサラウンド再生ができます。このページでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生のスピーカー設置を例に説明しています。

本機のお買い上げ時の設定は、7.1 チャンネルです。
5.1 チャンネルで再生することもできます。5.1 チャンネルで再生する場合は、5.1 チャンネルのスピーカーのみ接続してください。
本機の Audyssey Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

FL　フロントスピーカー(L)
FR　フロントスピーカー(R)
C　センタースピーカー
SW　サブウーハー
SL　サラウンドスピーカー(L)
SR　サラウンドスピーカー(R)
SBL　サラウンドバックスピーカー(L)
SBR　サラウンドバックスピーカー(R)

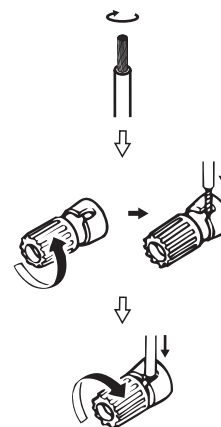
- サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60～90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

【 側面から見た図 】

2 接続する

スピーカー

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、＋(赤)、－(黒)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

スピーカーケーブルを接続する

スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

ご注意

- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します(☞108 ページ「保護回路」)。
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- 次のインピーダンスのスピーカーをご使用ください。

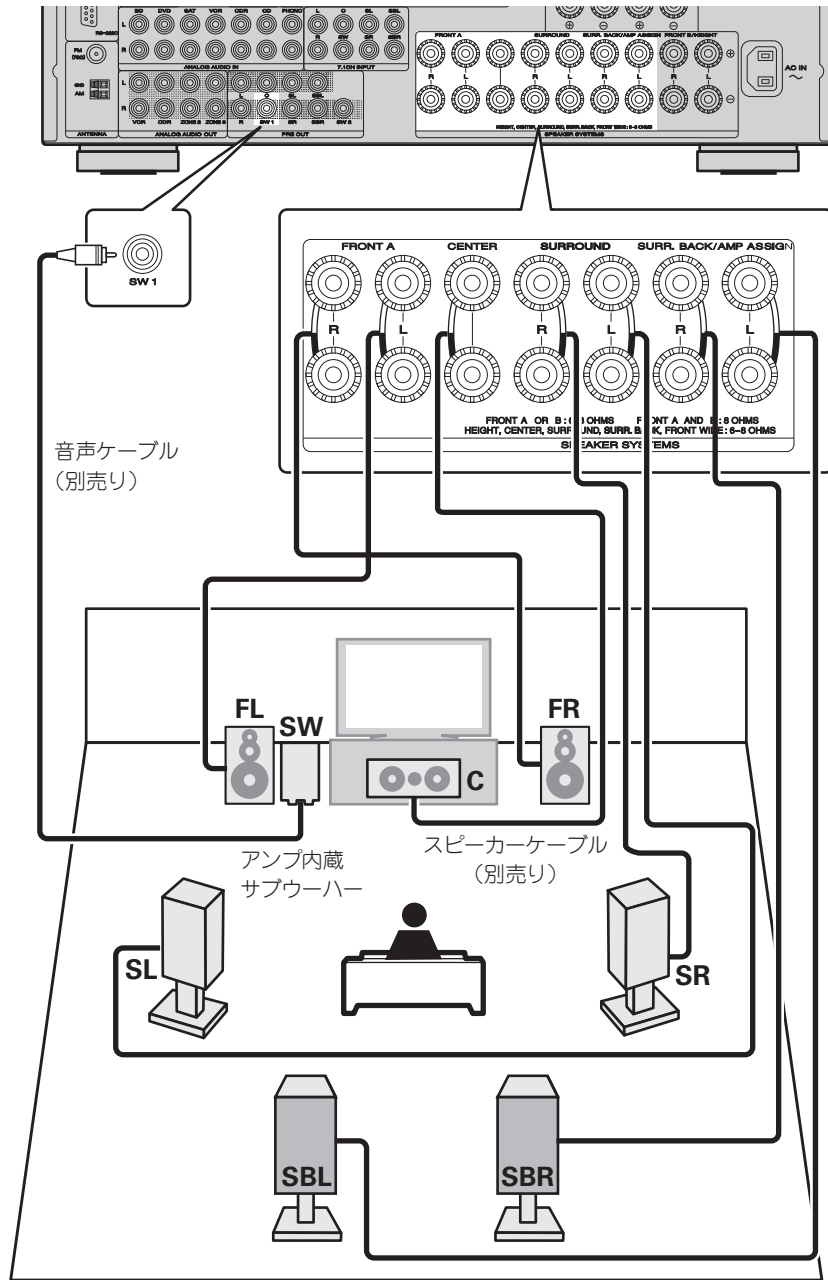
ご使用になるスピーカー端子	スピーカーインピーダンス
FRONT A	6～8 Ω
FRONT A + FRONT B	8 Ω
CENTER	6～8 Ω
SURROUND	
SURR. BACK / AMP ASSIGN	
FRONT B/HEIGHT	
FRONT WIDE	

「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
その他のスピーカーの設置 / 接続 / 設定方法については、45 ページをご覧ください。

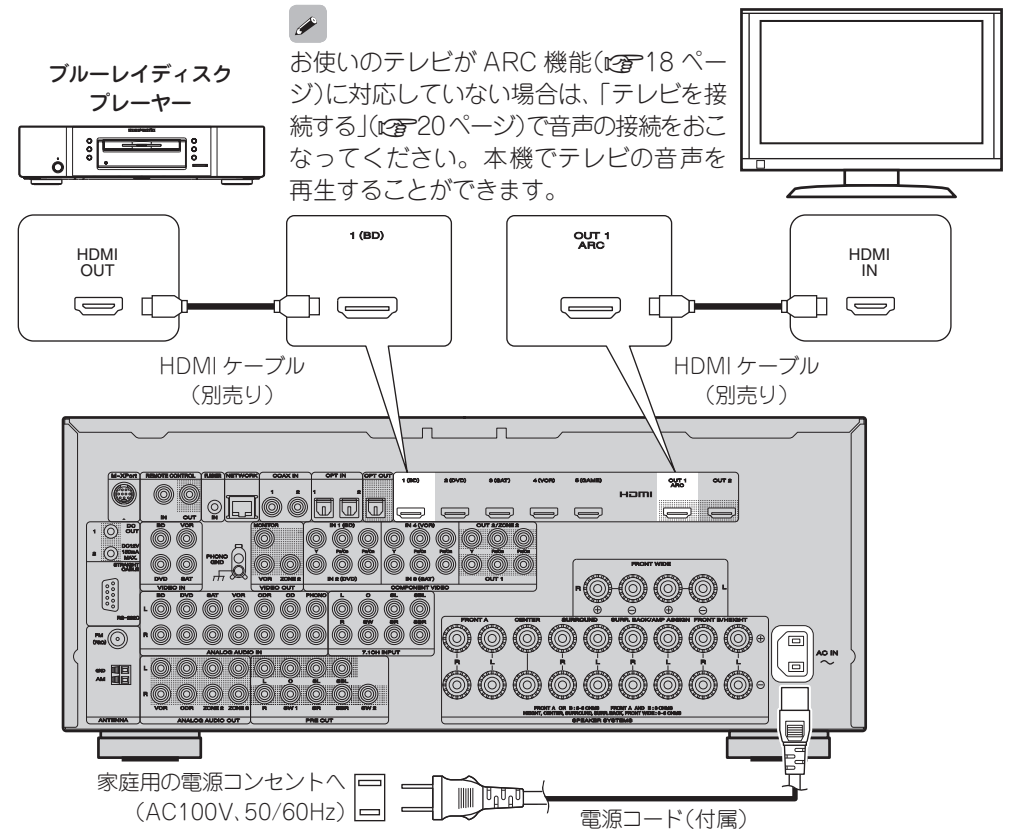
音声ケーブル
（別売り）

FL
SW
FR
C
SL
SR
SBL
SBR

アンプ内蔵
サブウーハー

スピーカーケーブル
（別売り）

ブルーレイディスクプレーヤーとテレビ

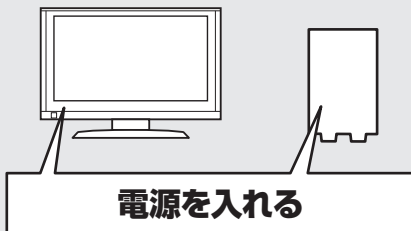
HDMI（High-Definition Multimedia Interface）ケーブルは、HDMI ロゴのついたケーブル（HDMI 認証品）を使用してください。HDMI ロゴのないケーブル（HDMI 非認証品）を使用した場合、正しい再生ができないことがあります。
Deep Color または 1080p などの信号を伝送する場合は、高音質再生のために“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。

お使いのテレビが ARC 機能（☞18 ページ）に対応していない場合は、「テレビを接続する」（☞20 ページ）で音声の接続をおこなってください。本機でテレビの音声を再生することができます。

ご注意

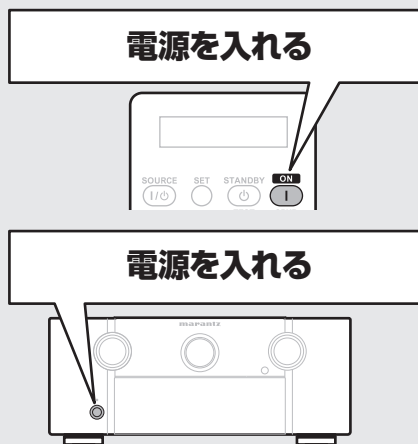
- **すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。**
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
その他のスピーカーの設置 / 接続 / 設定方法については、45 ページをご覧ください。

3 電源を入れる

1 テレビとサブウーハーの電源を入れる。

2 本機から出力する映像がテレビに映るように、テレビの入力を切り替える。

- 入力の切り替えかたは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 **ON** を押して、本機の電源を入れる。
電源表示が消灯して、電源が入ります。

ご注意

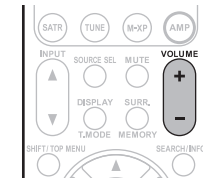
はじめてリモコンをご使用になる場合は、乾電池を入れてからお使いください（☞98 ページ「乾電池の入れかた」）。

4 スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を"Audyssey Auto Setup"と呼びます。
測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。
最善の結果を得るために、6ポイント以上（最大で8ポイント）の測定することをおすすめします。

- Audyssey Auto Setup をおこなうと、MultEQ® XT/Dynamic EQ®/Dynamic Volume® の機能（☞71、72 ページ）が有効になります。
- 手動でスピーカーを設定したい場合は、メニューの"Speaker Setup"（☞75 ページ）でおこなってください。

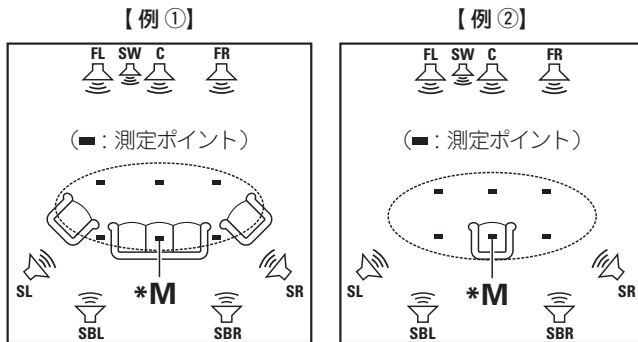
ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品（テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など）の電源を切ってください。測定の際、これらの騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、Audyssey Auto Setup が完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中に **VOLUME +**、**–** を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey Auto Setup をおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例 ①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように 6 ポイントまたはそれ以上（最大で 8 ポイント）で測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例 ②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例 ①】

【例 ②】

FL SW C FR
（▬ : 測定ポイント）
SL *M SR
SBL SBR

FL	フロントスピーカー（L）	SL	サラウンドスピーカー（L）
FR	フロントスピーカー（R）	SR	サラウンドスピーカー（R）
C	センタースピーカー	SBL	サラウンドバックスピーカー（L）
SW	サブウーハー	SBR	サラウンドバックスピーカー（R）

メインリスニングポイント（* M）について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置、または一人で視聴するときに座る位置です。Audyssey Auto Setup をはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® XT は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

1 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❑ **ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合**

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❑ **ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合**

次のように設定してください。

- **音量の設定**：“12 時”の位置
- **クロスオーバー周波数の設定：**“最大 / 最高周波数”
- **ローパスフィルターの設定**：“オフ”
- **スタンバイモードの設定**：“オフ”

ご注意

サブウーハーを 2 本使用する際には、Audyssey Auto Setup を開始する前に、個々のサブウーハーの音量を調整する必要があります。テストトーンを再生して、個々のサブウーハーの音量がメインリスニングポイントでほぼ同じになるように、サブウーハー本体の音量レベルを調節してください。

3 リモコンの設定をする

❑ **操作モードの設定**

AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

AMP を押す。

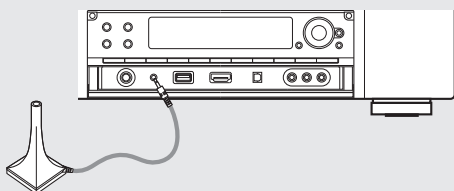
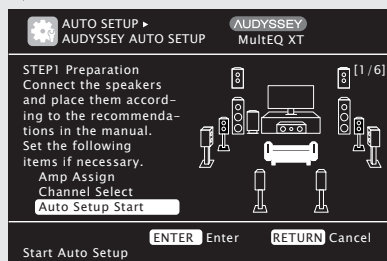
入門編
基本編
応用編
情報編

**「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
その他のスピーカーの設置 / 接続 / 設定方法については、45 ページをご覧ください。**

ステップ 1（STEP 1）
準備
（Preparation）

ステップ 2（STEP 2）
スピーカー検出
（Speaker Detection）

ステップ 3（STEP 3）
測定
（Measurement）

4 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。

セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生の設定方法について説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定のしかたは、“Amp Assign” を選び、「“Amp Assign” の設定」（☞49 ページ）の手順 3 と 4 の操作をおこなってください。
また、“Channel Select”で、あらかじめ使用しないチャンネルを設定すると、測定時間を短縮することができます。操作のしかたは、「“Channel Select”の設定」（☞49 ページ）の手順 5 ～ 10 の操作をおこなってください。

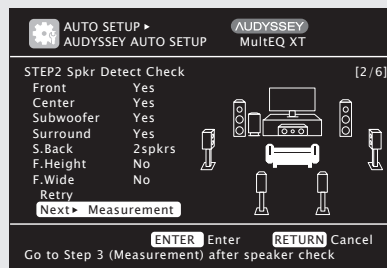
5 △▽ を押して“Auto Setup Start”を選び、ENTER を押す。

- STEP 2 では、メインリスニングポイントの測定をします。
- ここでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。

6 “Measure”を選び、ENTER を押す。

測定がはじまり、各スピーカーからテストトーンを出力します。

- 測定には数分間かかります。

7 検出されたスピーカーを表示します。

ご注意

接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

8 △▽ を押して“Next ► Measurement”を選び、ENTER を押す。

ご注意

テレビ画面に“Caution!” が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞14 ページ）をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。問題点を処理した後、再び“Audyssey Auto Setup” をおこなってください。

再び Audyssey Auto Setup をおこなうとき

△▽ を押して“Retry”を選び、**ENTER** を押す。

測定を中止するとき

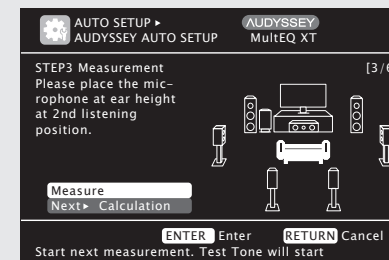
RETURN を押すと“Cancel Auto Setup?” が表示されます。
◁ を押して“Yes” を選び、**ENTER** を押してください。

再度スピーカーを設定するとき

STEP1 Preparation の手順 4 以降の操作をおこなってください。

- STEP 3 では、メインリスニングポイント以外の複数のポイント（2 ～ 8 ポイント）を測定します。
- 複数のポイントを測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

9 2 ポイント目にセットアップマイクを移動させ、△▽ を押して“Measure”を選び、ENTER を押す。

2 ポイント目の測定をはじめます。 最大 8 箇所まで測定できます。

次のポイント以降の測定を省略する場合には“Next ► Calculation”選びます。
（**STEP4 Calculation** へ進みます。）

10 手順 9 をくり返して 3 ～ 8 箇所のポイントを測定する。

8 ポイント目の測定が完了すると、“Measurements finished.”を表示します。

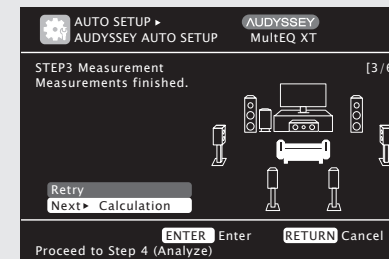
リモコンの操作ボタン
カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）
ENTER 設定を確定する
RETURN ひとつ前のメニューに戻る

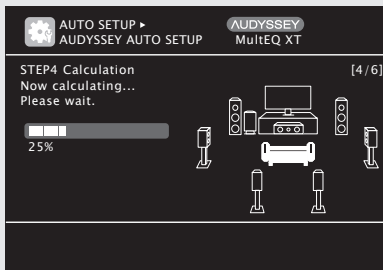
ステップ 4（STEP 4）
解析
（Calculation）

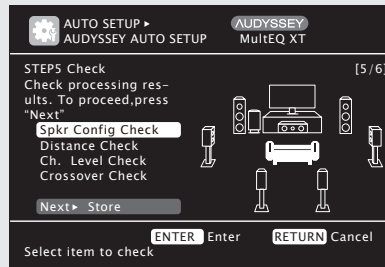
ステップ 5（STEP 5）
解析結果
（Check）

ステップ 6（STEP 6）
保存
（Store）

完了

入門編 基本編 応用編 情報編

11 STEP 3 の画面で △▽ を押して“Next ► Calculation” を選び、**ENTER を押す。**

測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

• 解析には数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。
接続するスピーカーの数と測定ポイントが多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

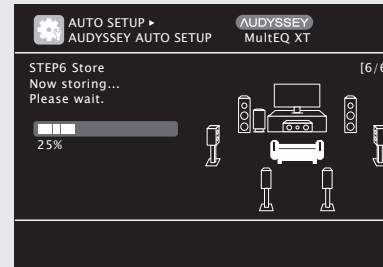
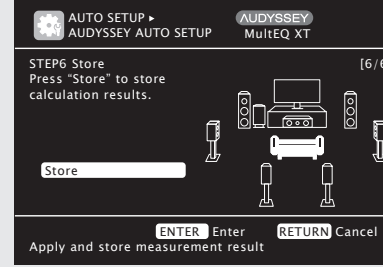
12 △▽ を押して確認したい項目を選び、**ENTER を押す。**

• サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
• 他の項目を確認したいときは、**RETURN** を押してください。

13 △▽ 押して“Next ► Store” を選び、**ENTER を押す。**

ご注意

• 接続している状態と異なる結果や“Caution!”が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞14 ページ）をご覧ください。その後、再度 Audyssey Auto Setup をおこなってください。
• 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
• スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

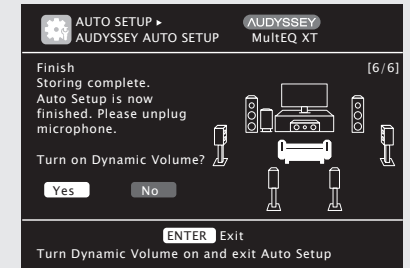
14 “Store”を選び、**ENTER を押す。**

測定結果を保存します。

• 保存には 10 秒程度かかります。
• 測定結果を保存しないときは、**RETURN** を押してください。“Cancel Auto Setup?” を表示しますので、◁ を押して“Yes” を選んでください。すべての Audyssey Auto Setup の測定結果を消去します。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

15 本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。

16 Dynamic Volume® の設定をする。

• Dynamic Volume 設定の詳細については、72 ページをご覧ください。

❏ Dynamic Volume の設定をするとき

• ◁ を押して“Yes”を選び、**ENTER** を押す。
自動的に“Heavy”モードになります。

❏ Dynamic Volume の設定をしないとき

• ▷ を押して“No”を選び、**ENTER** を押す。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより、Audyssey® Auto Setup を完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。その後、再び“Audyssey Auto Setup”をおこなってください。

ご注意

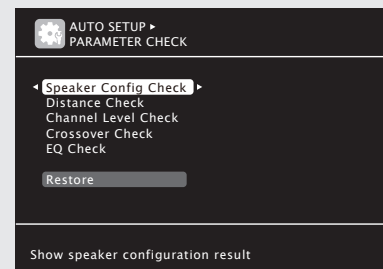
スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
AUTO SETUP ▸ AUDYSSEY AUTO SETUP AUDYSSEY MultEQ XT Caution! No microphone or Speaker Retry RETURN Cancel Check cause of problem!	•接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 •接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 •フロントスピーカー(L)が正しく検出されない。	•付属のセットアップマイクを、本体のSETUP MIC 端子に接続してください。 •スピーカーの接続を確認してください。
AUTO SETUP ▸ AUDYSSEY AUTO SETUP AUDYSSEY MultEQ XT Caution! Ambient noise is too high or Level is too low Retry RETURN Cancel Check cause of problem!	•部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 •スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	•騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 •周囲がより静かなときに再度おこなってください。 •スピーカーの設置や向きを確認してください。 •サブウーハーの音量を調節してください。
AUTO SETUP ▸ AUDYSSEY AUTO SETUP AUDYSSEY MultEQ XT Caution! Front R None Retry RETURN Cancel Check cause of problem!	•表示されたスピーカーが検出されない。	•表示されたスピーカーの接続を確認してください。
AUTO SETUP ▸ AUDYSSEY AUTO SETUP AUDYSSEY MultEQ XT Caution! Front L Phase Retry Skip RETURN Cancel Check cause of problem!	•表示されたスピーカーの位相が逆である。	•表示されたスピーカーの極性を確認してください。 •スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、△▽ を押して“Skip”を選び、**ENTER** を押してください。

パラメーターを確認する (Parameter Check)

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

1 **△▽ を押して“Parameter Check”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

2 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。**

Speaker Config. Check	スピーカーの構成を確認します。
Distance Check	スピーカーの距離を確認します。
Channel Level Check	スピーカーのチャンネルレベルを確認します。
Crossover Check	スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。
EQ Check	イコライザーの補正カーブを確認します。

- 手順 2 で、“EQ Check”を選んだ場合は、△▽ を押して確認したい補正カーブ(“Audyssey”または“Audyssey Flat”)を選んでください。
  ◁ ▷ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。

3 **RETURN を押す。**
確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

Audyssey Auto Setup の設定値に戻すとき

“Restore”を“Yes”に設定すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey Auto Setup の測定結果(MultEQ® XT が当初計算した値)に戻すことができます。

リモコンの操作ボタン

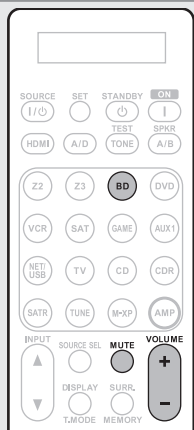
△ ▽ ◁ ▷ カーソルを移動する(上 / 下 / 左 / 右)	ENTER 設定を確定する	RETURN ひとつ前のメニューに戻る

5 ディスクを再生する

1 **BD を 2 回続けて押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。**

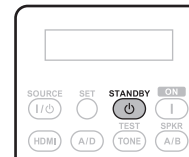
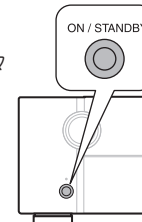
2 **本機と接続した機器を再生する。**
あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

3 **音量を調節する。**

VOLUME +……音量を上げる
VOLUME –……音量を下げる
MUTE……消音

4 **リスニングモードを設定する。**
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください（☞40 ページ「リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）」）。

電源をスタンバイ状態にするとき

STANDBY を押す。

【 スタンバイ時の電源表示 】
- 通常スタンバイ時：赤色
- メニューの“HDMI Control”の設定（☞78 ページ）が“ON”のとき：オレンジ色
- メニューの“Network Standby” の設定（☞80 ページ）が“ON”のとき：オレンジ色

本体の **ON/STANDBY** を押しても、電源をスタンバイ状態にできます。

ご注意

電源がスタンバイ状態のときは、微量な電力を消費します。すべての電力を完全に遮断するときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

Basic version

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

- **接続のしかた　（☞17 ページ）**
- **再生のしかた（基本操作）（☞28 ページ）**
- **リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）（☞40 ページ）**

❏それぞれのメディアや外部機器の接続と再生のしかたは、以下のページをご覧ください。

音声および映像	接続のしかた	再生のしかた
テレビ	☞19、20 ページ	–
ブルーレイディスクプレーヤー	☞19、20 ページ	☞29 ページ
DVD プレーヤー	☞19、21 ページ	☞29 ページ
ビデオデッキ	☞19、22 ページ	–
セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）	☞19、21 ページ	–
ゲーム機	☞18 ページ	–
ビデオカメラ	☞22 ページ	–
音声	**接続のしかた**	**再生のしかた**
iPod®	☞23 ページ	☞30 ページ
USB メモリー	☞23 ページ	☞31 ページ
CD プレーヤー	☞23 ページ	☞29 ページ
CD レコーダー	☞24 ページ	–
レコードプレーヤー	☞24 ページ	–
ラジオ	☞25 ページ	☞33 ページ
ワイヤレスレシーバー（RX101）	☞25 ページ	–
ネットワーク	**接続のしかた**	**再生のしかた**
ネットワーク	☞27 ページ	☞34 ページ

スピーカーの接続については、8 ページをご覧ください。

接続のしかた

知っておいてほしいこと

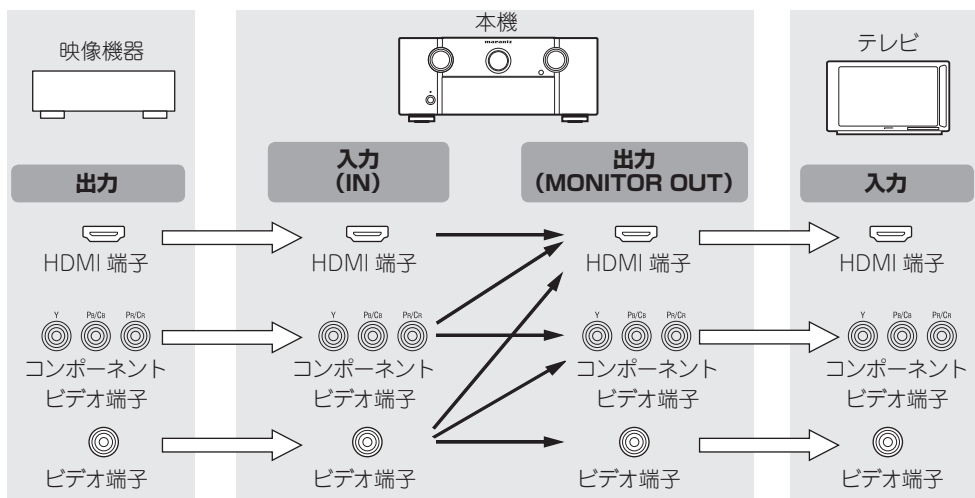
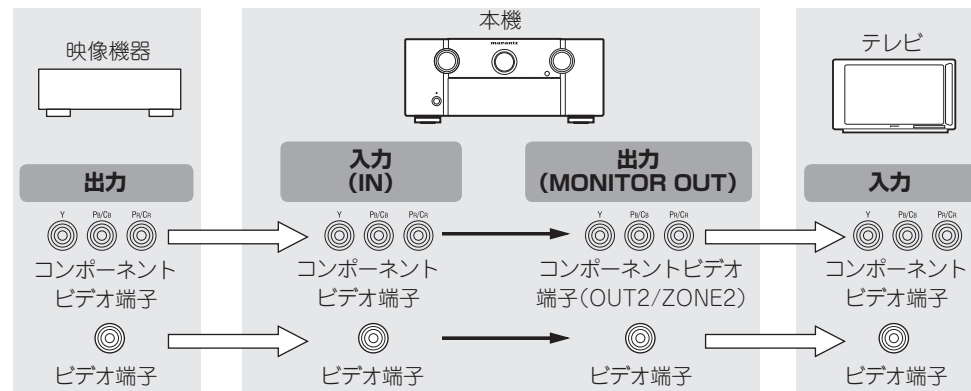
- **この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法を選んでください。**
- **接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。**
- **ご使用になる機器に合わせて、別売りのケーブルをご用意ください。**

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には 3 種類（HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ）の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からテレビに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

【 メインゾーンでの映像信号の流れ 】

【 ゾーン 2 での映像信号の流れ 】

必要に応じて設定してください

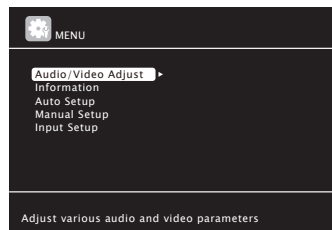
- ビデオコンバージョン機能を使用しないときに設定します。
  “Video Convert”（☞67 ページ）
- 映像信号の解像度を変更するときに設定します。
  “Resolution”（☞67 ページ）

- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- 本機の HDMI 端子への映像入力信号の解像度は、メニューの“Resolution”（☞67 ページ）で設定します。（1080p の HDMI 信号と 1080p コンポーネントビデオ信号は、解像度の設定に関係なく、1080p で出力します。）
- HDMI 対応テレビの解像度は、“HDMI Monitor 1 Information”または“HDMI Monitor 2 Information”（☞85 ページ）で確認することができます。

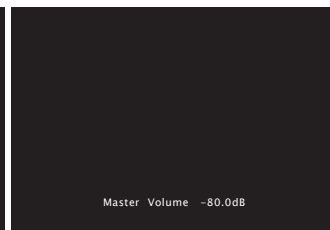
ご注意

- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しないことがあります。
- コンポーネントビデオ入力信号は、ビデオ信号には変換できません。
- メニューは HDMI 端子またはコンポーネントビデオ端子より出力します。
- コンポーネント出力端子 2 をゾーン 2 のビデオ信号出力用としてご使用の場合は、メニューの“Manual Setup”⇨“Option Setup”⇨“Component2 Output”（☞83 ページ）を“ZONE2”に設定してください。

画面表示の例

- メニュー画面

- 状態表示画面

入力ソース切り替え時

音量調節時

状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時、一時的に画面に操作状態を表示します。

ご注意

- 3D ビデオ信号を再生中にメニューの操作をおこなうと、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 3D ビデオ信号の再生中は、状態表示画面を表示しません。

HDMI 端子付きの機器を接続する

本機は HDMI 対応機器を 6 台まで接続できます。

HDMI 機能

本機は以下の HDMI 機能に対応しています。

- 3D
- Deep Color（☞106 ページ）
- Auto Lip Sync（☞78 ページ）
- x.v.Color、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601color（☞105、108 ページ）
- HD オーディオフォーマット
- ARC（Audio Return Channel）
- Content Type
- CEC（HDMI コントロール）

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビ、プレーヤーと AV アンプなどの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。

- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力しません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI ケーブルについて

- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- ARC 機能を使用するときは、HDMI1.4a 対応の“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”で接続してください。

HDMI コントロール機能（☞52 ページ）

本機で外部機器を操作したり、外部機器から本機を操作することができます。

ご注意

- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

3D 機能について

本機は、HDMI1.4 規格の 3D（3 次元）映像信号の入力 / 出力に対応しています。3D 映像の再生には本機の他に、HDMI1.4a 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。

ご注意

- 3D ビデオ信号を再生中にメニューの操作をおこなうと、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 3D ビデオ信号の再生中は、状態表示画面を表示しません。

ARC（Audio Return Channel）機能について

HDMI 1.4a の ARC 機能では、テレビからの音声信号を HDMI ケーブル経由で伝送することができます。

ご注意

- ARC 機能は、メニューの“HDMI Control”設定（☞78 ページ）が“ON”のときに設定できます。
- HDMI MONITOR OUT 1 端子のみ ARC 機能に対応しています。ARC 機能をご使用になる場合は、テレビを HDMI MONITOR OUT 1 端子に接続してください。
- ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルの他に音声ケーブルが必要になります。このときの接続方法は、「テレビを接続する」（☞20 ページ）をご覧ください。

Content Type 機能について

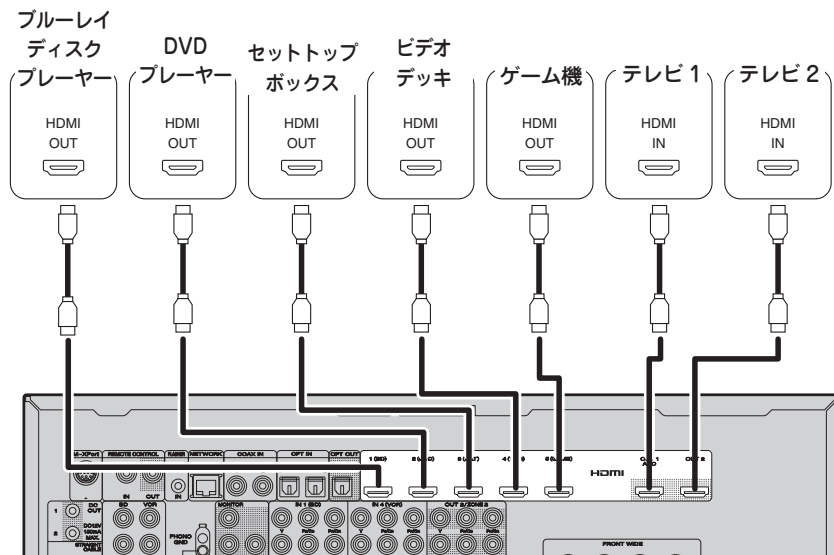
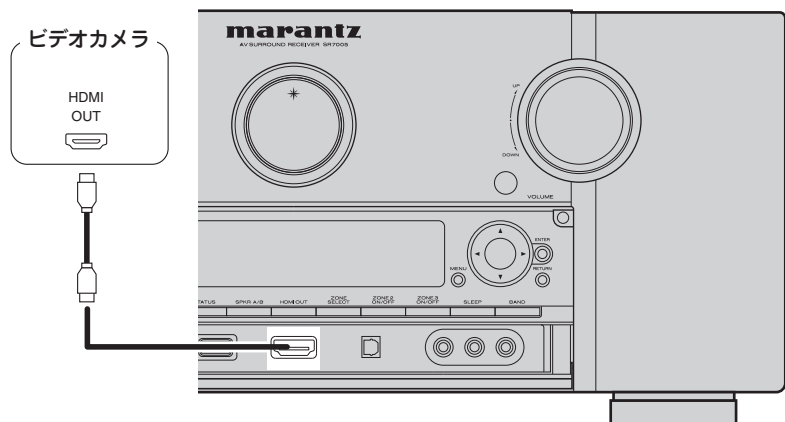
HDMI 1.4a 規格で追加された機能です。この機能は、出力映像に適した設定を自動でおこないます。

ご注意

Content Type 機能は、メニューの“Video Mode”設定（☞67 ページ）が“Auto”のときに動作します。

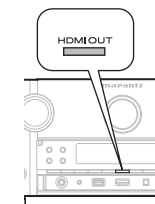
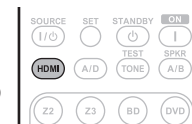
接続に使用するケーブル

音声＆映像ケーブル（別売り）
HDMI ケーブル

- デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。

【 リアパネル 】

【 フロントパネル 】

- 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- プレーヤーの解像度は、テレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。

ご注意

- HDMI 信号は、HDMI 1 と HDMI 2 端子から同時に出力できません。あらかじめメニューの“Monitor Out”（☞78 ページ）またはリモコンの **HDMI** か本体の **HDMI OUT** で、ご使用になる端子を選んでください。
- HDMI MONITOR OUT 1 端子のみ HDMI コントロール機能に対応しています。HDMI コントロール機能をご使用になる場合は、テレビを HDMI MONITOROUT 1 端子に接続してください。
- HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。
- フロントパネルの HDMI 入力端子は、メニューの“Input Setup” ⇨ “Input Assign”設定（☞66 ページ）では、“HDMI6”と表示します。

DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

- DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

❑HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

Input Assign（☞66 ページ）

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定してください。

HDMI Setup（☞78 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- RGB Range
- Auto Lip Sync
- HDMI Audio Out
- Monitor Out
- HDMI Control
- Standby Source
- Power Off Control

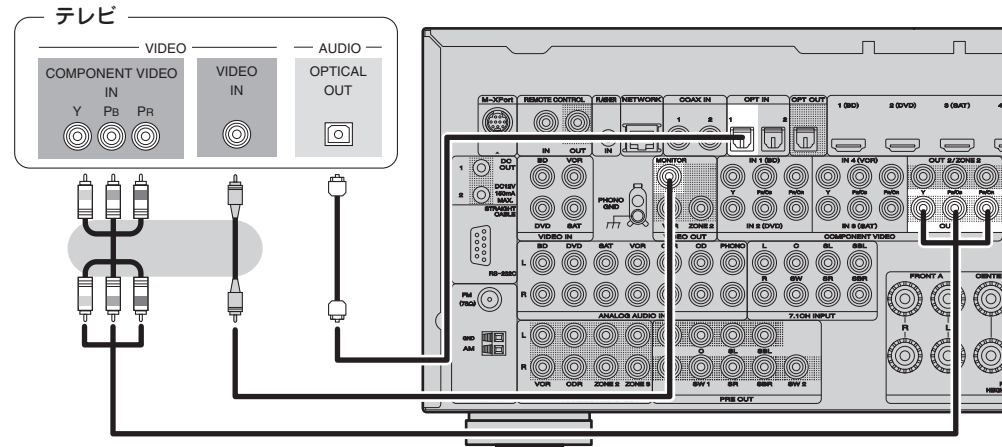
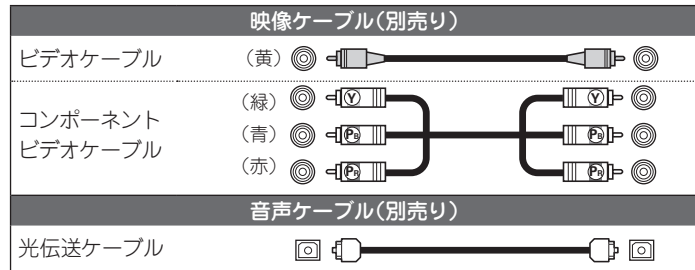
ご注意

HDMI 入力端子から音声信号が入力された場合のみ、HDMI モニター出力端子から音声を出力します。

テレビを接続する

ご注意

本機に ARC（HDMI 1.4a 標準機能）対応のテレビを接続した場合、この接続は不要です。詳しくは、「ARC（Audio Return Channel）機能について」（☞18ページ）またはテレビの取扱説明書をご覧ください。

- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- 映像機器を接続する際には、「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞17 ページ）をご覧ください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
コンポーネントビデオケーブル	（緑）（青）（赤）
音声ケーブル（別売り）	
光伝送ケーブル	

必要に応じて設定してください

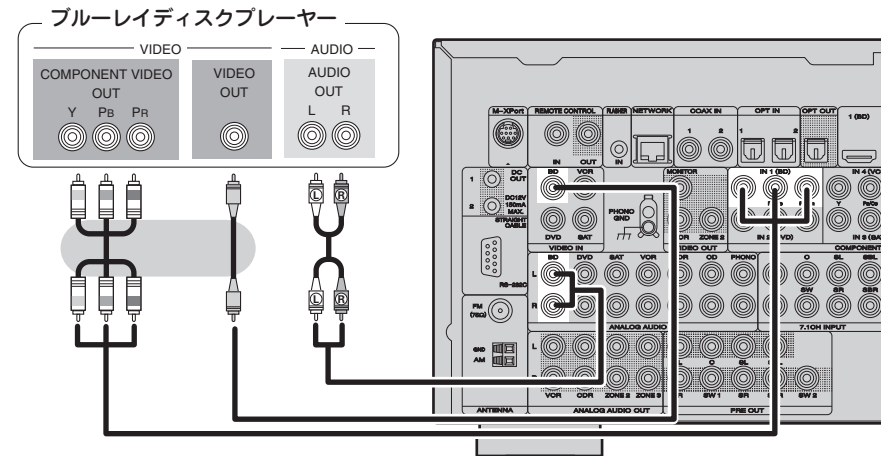
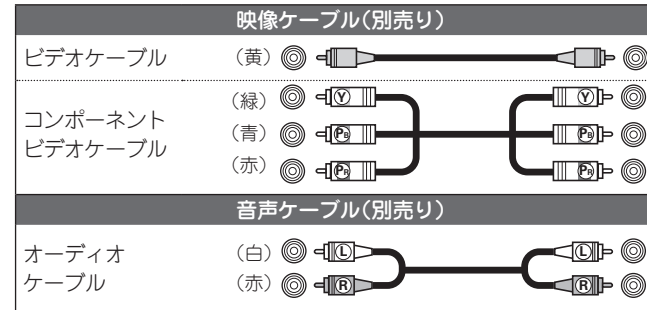
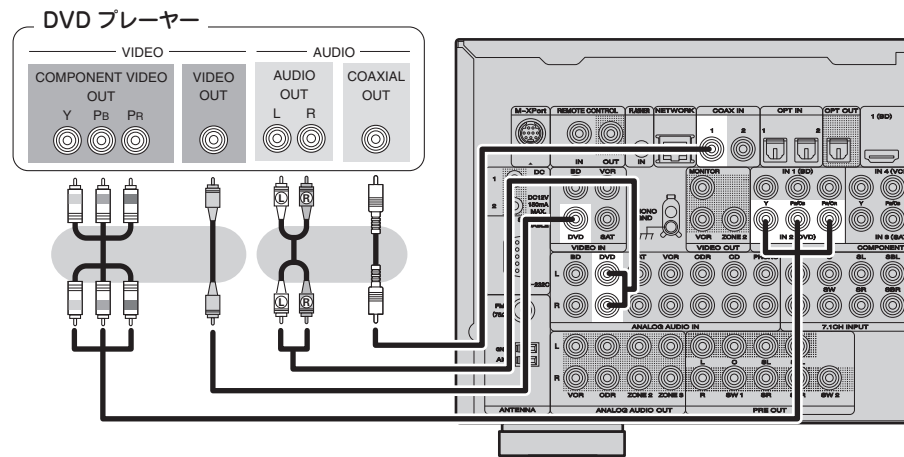
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。

"Input Assign"（☞66 ページ）

ブルーレイディスクプレーヤーを接続する

- ブルーレイディスクの映像や音楽を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
コンポーネントビデオケーブル	（緑）（青）（赤）
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）（赤）

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。

"Input Assign"（☞66 ページ）

HD オーディオ（Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express）を再生する場合は、HDMI で接続してください（☞18 ページ「HDMI 端子付きの機器を接続する」）。

DVD プレーヤーを接続する

- DVD の映像や音楽を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
コンポーネントビデオケーブル	（緑）Y （青）PB （赤）PR
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）L （赤）R
同軸デジタルケーブル	（黒）

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞66 ページ）

セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）を接続する

- 衛星チューナーやケーブルテレビチューナーの映像を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
コンポーネントビデオケーブル	（緑）Y （青）PB （赤）PR
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）L （赤）R
同軸デジタルケーブル	（黒）

必要に応じて設定してください

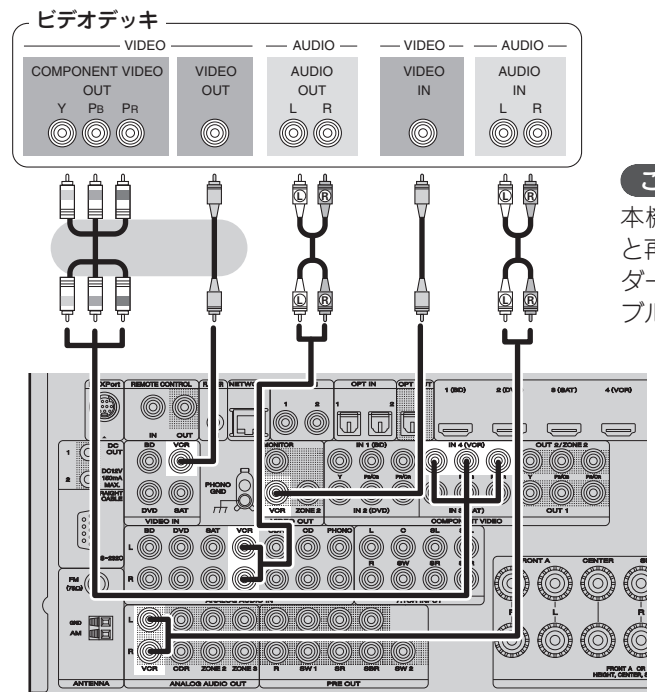
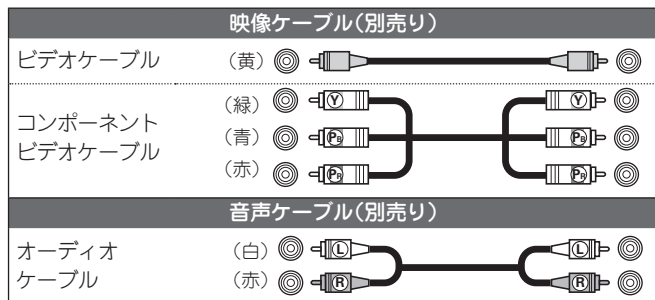
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞66 ページ）

ビデオデッキを接続する

- 映像をビデオテープに録画することができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。
- HDMI 接続のしかたは､「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
コンポーネントビデオケーブル	（緑）Y（青）PB（赤）PR

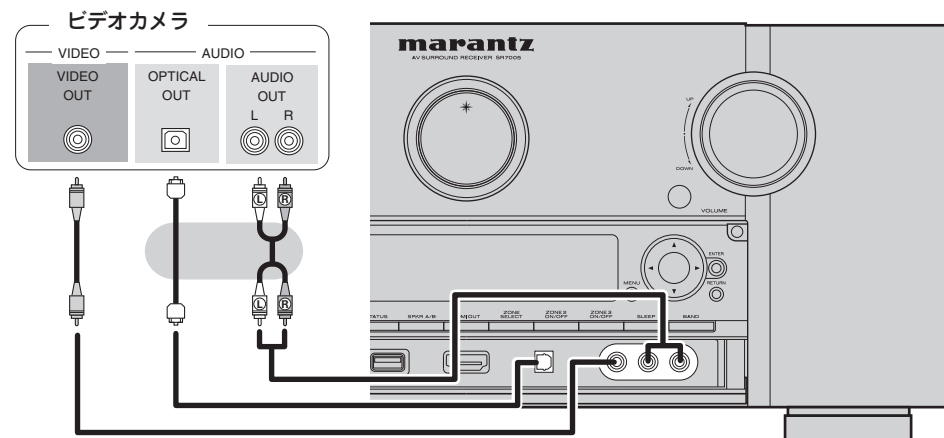
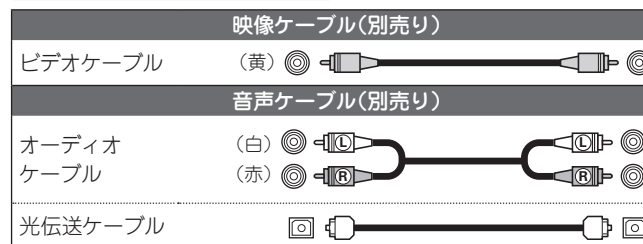
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）L（赤）R

ご注意

本機を通して録画するときは、本機と再生機器の接続と、本機とレコーダーの接続に、同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。
“Input Assign”（☞66 ページ）

ビデオカメラを接続する

- ビデオカメラの映像や音声を楽しむことができます。
- 本機の AUX1 入力端子にゲーム機を接続してもゲームを楽しむことができます。このような場合は、入力ソースを“AUX1”に設定してください。
- HDMI 接続のしかたは､「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞18 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）

音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）L（赤）R
光伝送ケーブル	

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。
“Input Assign”（☞66 ページ）

フロントパネルの OPTICAL 入力端子は、メニューの“Input Setup”⇨“Input Assign”の設定（☞66 ページ）では､“OPT3”と表示します。

ご注意

ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能がはたらかない場合があります。このような場合は、入力と同じ端子のモニター出力をご使用ください。

USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

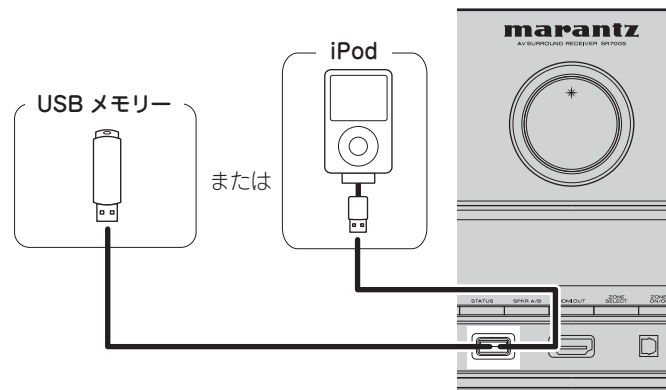
iPod や USB メモリー内の音楽を楽しむことができます。

接続に使用するケーブル

本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルをご使用ください。

すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。

対応 iPod

Made for
- iPod touch（第 2 世代）
- iPod touch（第 1 世代）
- iPod classic
- iPod with video
- iPod nano（第 5 世代）
- iPod nano（第 4 世代）
- iPod nano（第 3 世代）
- iPod nano（第 2 世代）
- iPod nano（第 1 世代）
- iPhone
- iPhone 3G
- iPhone 3GS

iPod touch
2nd generation
8GB 16GB 32GB 64GB

iPod classic
80GB

iPod nano
4th generation (video)
8GB 16GB

iPhone
4GB 8GB 16GB

iPod touch
1st generation
8GB 16GB 32GB

iPod
5th generation
(video)
60GB 80GB

iPod nano
3rd generation
(video)
4GB 8GB

iPhone 3G
8GB 16GB

iPod classic
120GB 160GB (2009)

iPod
5th generation
(video)
30GB

iPod nano
2nd generation
(aluminum)
2GB 4GB 8GB

iPhone 3GS
16GB 32GB

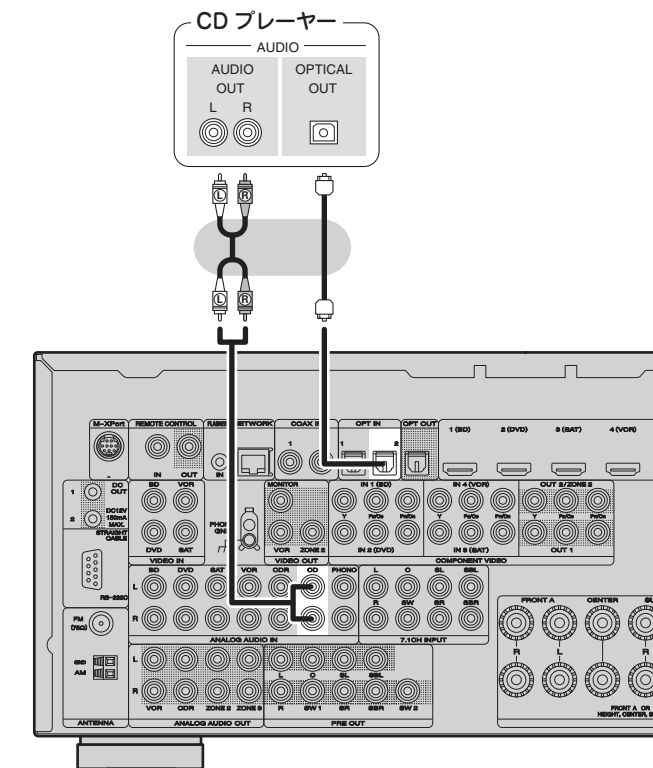
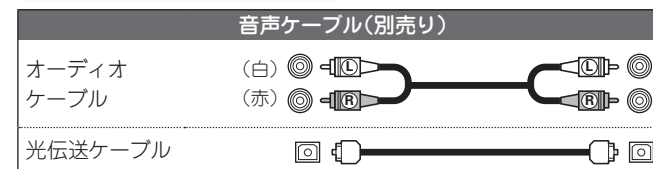
iPod classic
160GB (2007)

iPod nano
5th generation (video camera)
8GB 16GB

iPod nano
1st generation
1GB 2GB 4GB

CD プレーヤーを接続する

- CD を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。

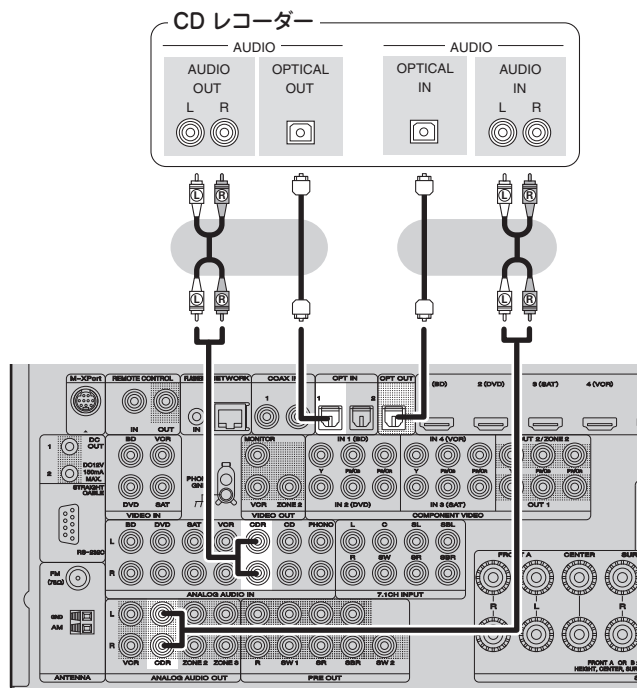
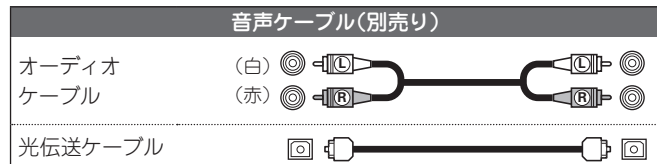
接続に使用するケーブル

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。

“Input Assign”（☞66 ページ）

CD レコーダーを接続する

- 音声を CD やカセットテープに録音することができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- アナログ音声を録音するときは、アナログ接続をしてください。

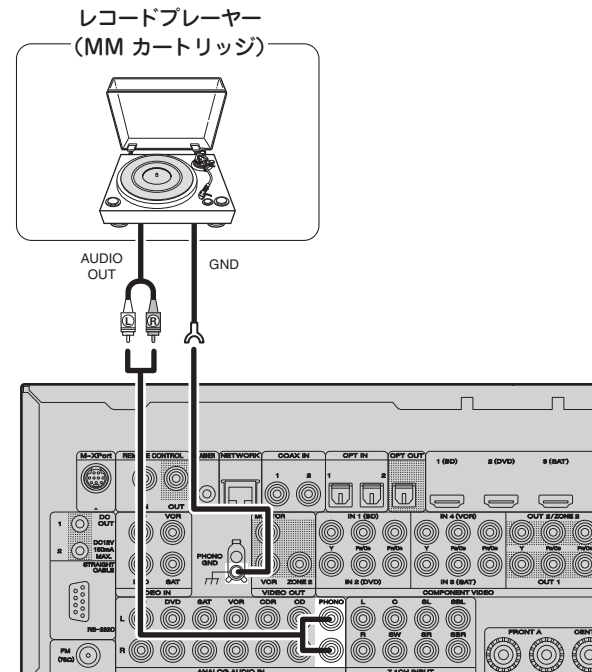
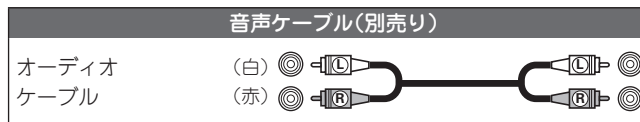
接続に使用するケーブル

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。
“Input Assign”（☞66 ページ）

デジタル端子（OPT OUT）を使用して、デジタル録音をおこなう場合は、メニューの“Input Setup”⇨“Input Assign”設定（☞66 ページ）で、デジタル入力端子のいずれかを“CDR”に割り当ててください。
上図は、OPT1 端子の割り当てを“CDR”に変更した場合の例です。

レコードプレーヤーを接続する

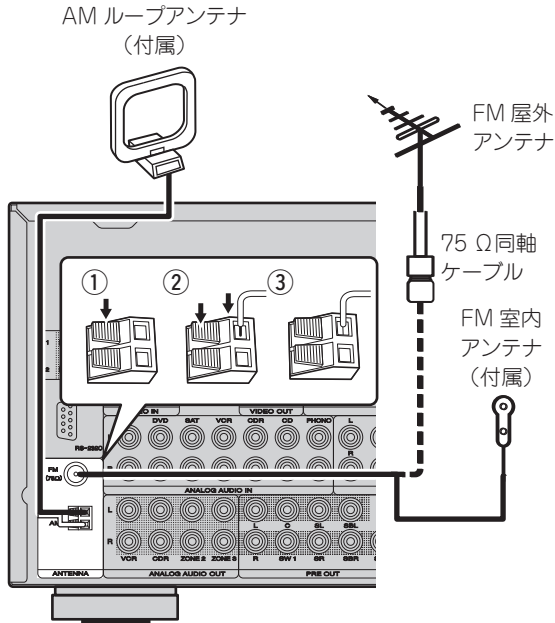
レコードを楽しむことができます。

接続に使用するケーブル

- 本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続される場合は、市販の MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスをご使用ください。
- レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン” という雑音がスピーカーから出力される場合があります。

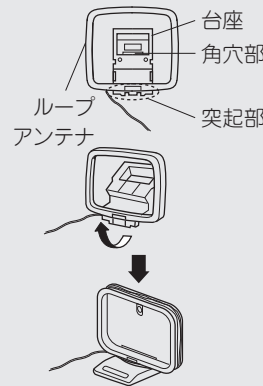
ご注意

本機の PHONO GND 端子は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなることがあります。このような場合は、アース線を接続する必要はありません。

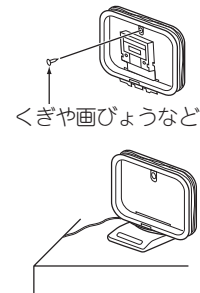
アンテナを接続する

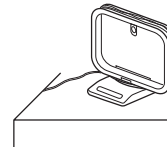
- 本機に付属の FM アンテナや AM ループアンテナを接続すると、ラジオ放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続した後に放送を受信し（☞33 ページ「FM/AM 放送局を聴く」）、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。

❑AM ループアンテナの組み立てかた

1 **台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。**

2 **突起部を台座の角穴部に、差し込む。**

❑AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

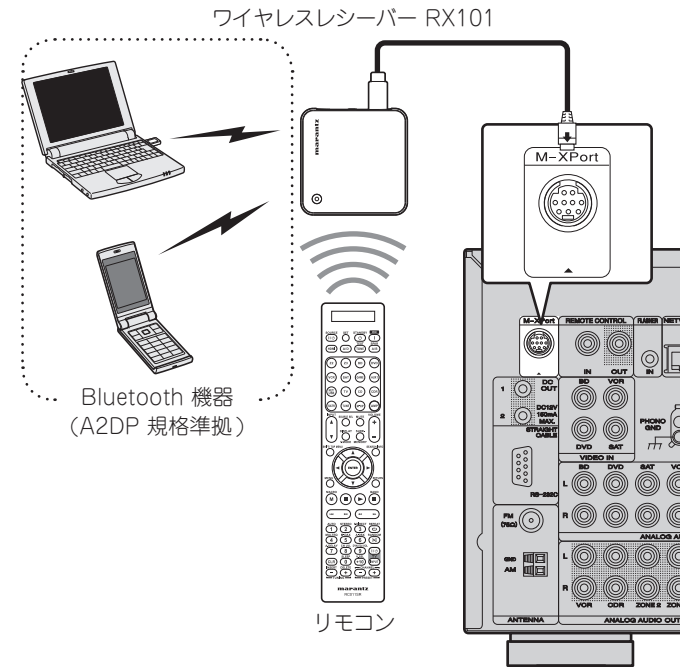
組み立てずにそのままお使いください。

置いて使う

図のように組み立ててお使いください。

ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないかご確認ください。
- AM や FM の受信感度はアンテナの設置場所や設置方向によって変わります。最もよく受信できるところに設置してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスレシーバー(RX101)を接続する

本機にワイヤレスレシーバーRX101 を接続すると、Bluetooth 通信機能により、本機は他の機器の音声信号を受信して再生します。

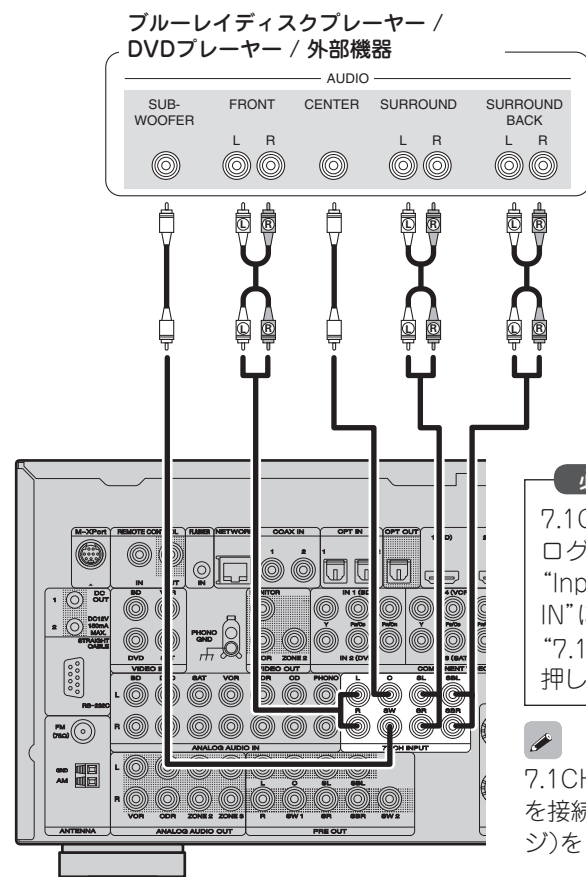
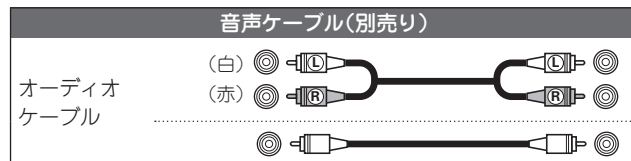
- A2DP 規格に準拠した Bluetooth 機器をお使いください（☞105 ページ「A2DP 規格」）。
- ワイヤレスレシーバーRX101 は外部の赤外線受光器としても使用することができます。
- ワイヤレスレシーバー側の設定も必要です。詳しくは、ワイヤレスレシーバーRX101 の取扱説明書をご覧ください。

本機の M-XPort 入力端子にワイヤレスレシーバーを接続して音楽を楽しむ場合は、入力ソースを“M-XPort” に設定してください。

ご注意

ワイヤレスレシーバーRX101 を外部の赤外線受光器としてお使いになる場合、本機のリモコン信号受光機能を“Remote Lock:ON”に設定してください（☞86 ページ「リモートコントロールの設定」）。

マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

- マルチチャンネル音声出力端子を持つ機器を接続して、音楽や映画を楽しむことができます。
- 映像信号はブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーと同じ方法で接続することができます（☞20 ページ「ブルーレイディスクプレーヤーを接続する」）。

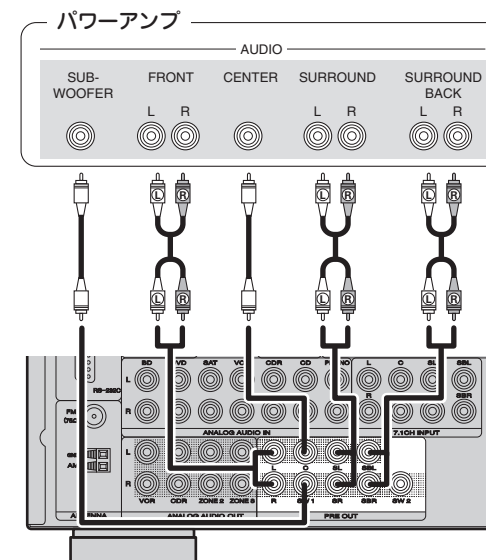
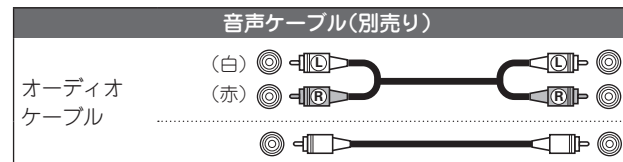
接続に使用するケーブル

必要に応じて設定してください

7.1CH INPUT 端子から入力されたアナログ信号を再生する場合は、メニューの "Input Mode"（☞68 ページ）を "7.1CH IN" に設定してください。
"7.1CH IN" は、リモコンの **A/D** ボタンを押しても選択できます。

7.1CH INPUT 端子の SBL/SBR 端子に機器を接続するときは、"Amp Assign"（☞75 ページ）を "Normal" に設定してください。

外部のパワーアンプと接続する

- 市販のパワーアンプを本機の PRE OUT 端子に接続すると、本機をプリアンプとして使用することができます。各チャンネルにパワーアンプを追加することで、さらにサウンドの臨場感を高めることができます。
- ご使用になる端子を選んで接続してください。

接続に使用するケーブル

- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル（L）に接続してください。
- サブウーハーの音量は、ご使用のサブウーハー側で調節してください。
- サブウーハーの音量が小さく感じられる場合は、サブウーハーに装備されている音量調節機能を使用して音量を調節してください。

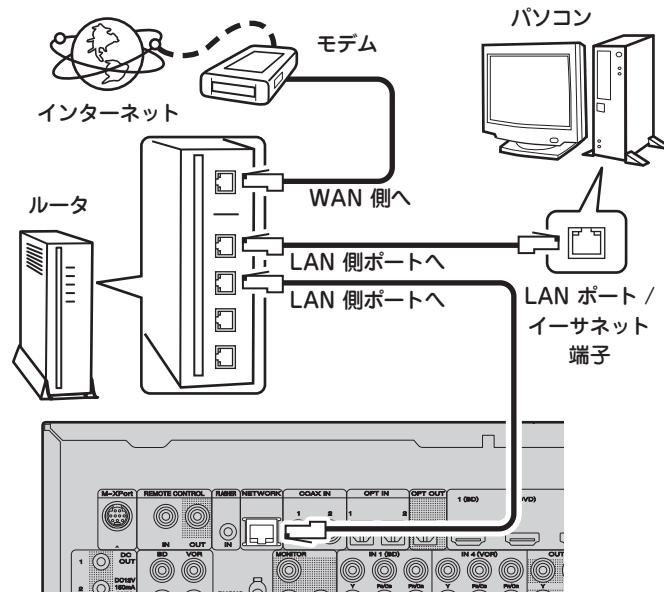
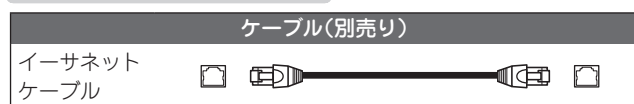
ご注意

PRE OUT 端子から出力されるチャンネルは、メニューの "Amp Assign"（☞75 ページ）の設定やリスニングモードの設定によって変わります。

ホームネットワーク（LAN）に接続する

- 本機をホームネットワークに接続すると、パソコンに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオの音声などをお楽しみいただけます。また、パソコンからウェブブラウザを使用して本機をコントロールすることができます。
- 当社のホームページから最新のファームウェアをダウンロードしてアップデートできます。
  詳しくは、メニューの“Firmware Update”（☞84 ページ）をご覧ください。
- ネットワーク設定のしかたは、メニューの“Network Setup”（☞79 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

ケーブル（別売り）	
イーサネットケーブル	

インターネットの接続については、ISP（インターネット・サービスプロバイダ）またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

必要なシステム

❑ブロードバンド回線によるインターネット接続

❑モデム

ブロードバンド回線と接続して、インターネットと通信をおこなうための機器です。
ルータと一体型のものもあります。

❑ルータ

本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルータをおすすめします。

- DHCP サーバー内蔵
  LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
- 100BASE-TX スイッチ内蔵
  複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。

❑イーサネットケーブル（CAT-5 以上を推奨）

- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルをお使いください。
- イーサネットケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルをご使用になると、ノイズが他の機器に影響をおよぼす可能性があります。

✎

- ネットワークの設定を手動でおこなうタイプの回線で、プロバイダ契約を結んでいる場合は、メニューの“Network Setup”（☞79 ページ）をおこなってください。
- 本機は DHCP 機能や Auto IP 機能を使用して、自動的にネットワークの設定をおこなうことができます。
- ブロードバンドルータ（DHCP 機能）をご使用の場合は、本機が自動的に IP アドレスなどの設定をおこないます。DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してご使用になる場合は、メニューの“Network Setup”（☞79 ページ）で、IP アドレスなどの設定をおこなってください。
- 手動で設定する場合は、設定内容をネットワーク管理者に確認してください。

ご注意

- インターネットに接続するには、ISP と契約する必要があります。
  すでにブロードバンド回線を利用してインターネットに接続されている場合は、新たに契約する必要はありません。
- ISP 業者によって使用できるルータの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 当社では、お客様のネットワーク環境および接続機器に関する通信エラーや不具合については一切責任を負いかねます。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルータが必要です。
- NETWORK 端子は、直接パソコンの LAN ポート / イーサネット端子と接続しないでください。

再生のしかた（基本操作）

知っておいてほしいこと

再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

ご注意

再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

入力ソースを選ぶ

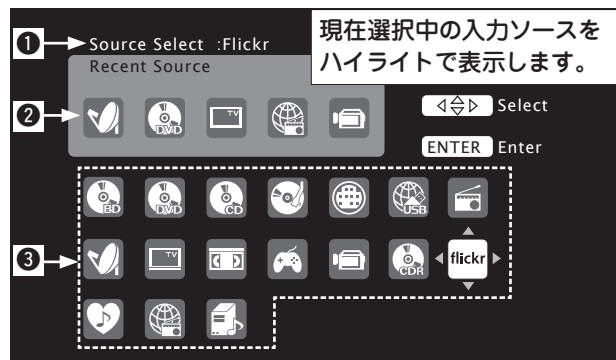
再生する入力ソース選択ボタン（BD、DVD、VCR、SAT、GAME、AUX1、NET/USB、TV、CD、CDR、TUNE、M-XP）を 2 回続けて押す。

入力ソースをダイレクトに選べます。

以下の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

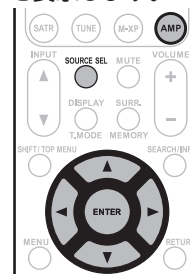
- 入力ソースの“PHONO”は PHONO 入力端子に接続したレコードプレーヤーを再生するときに選んでください。
- 入力ソースの“PHONO”は以下の方法で選択してください。
  ① “Source select” メニュー（下記「“Source Select” メニューを使用する」）
  ② リモコンの **INPUT ▲▼** ボタン（右記「リモコンのボタンで操作する」）
  ③ 本体の **INPUT SELECTOR** ノブ（右記「本体で操作する」）

❑“Source Select” メニューを使用する

① **AMP**を押してから**SOURCE SEL**を押す。
“Source Select”メニューを表示します。

❶ **入力ソース**
ハイライト表示されている入力ソース名を表示します。

❷ **履歴**
最近使用した入力ソースの履歴を 5 つまで表示します。

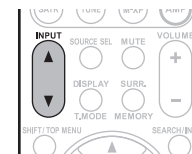
❸ **各カテゴリーの入力ソースのアイコンを表示します。**

② △▽◁ ▷を押して入力ソースを選び、**ENTER**を押す。
入力ソースを確定し、“Source Select”メニューを終了します。

- 本機の USB 端子に直接 iPod を接続してご使用になる場合は、入力ソースの“(NET/USB)”を選んでください。
- 使用しない入力ソースをあらかじめ設定することができます。“Source Delete”（☞82 ページ）で設定してください。
- 入力ソースを選ばずに“Source Select” メニューを終了させる場合は、もう一度 **SOURCE SEL** を押してください。

❑リモコンのボタンで操作する

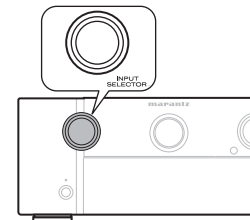
INPUT ▲▼ を押す。

- **INPUT ▲▼** を押すと、入力ソースが以下の順序で切り替わります。

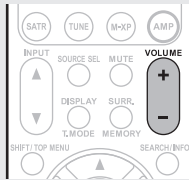
→ BD ↔ DVD ↔ VCR ↔ SAT ↔ GAME ↔ AUX1 ↔ NET/USB ↔ TV ↔ CD ↔ CDR ↔ PHONO ↔ TUNER ↔ M-XPort ←

❑本体で操作する

INPUT SELECTOR を回す。

- **INPUT SELECTOR** を回すと、入力ソースが以下の順序で切り替わります。

→ BD ↔ DVD ↔ VCR ↔ SAT ↔ GAME ↔ AUX1 ↔ NET/USB ↔ TV ↔ CD ↔ CDR ↔ PHONO ↔ TUNER ↔ M-XPort ←

主音量を調節する

VOLUME を押して、音量を調節する。

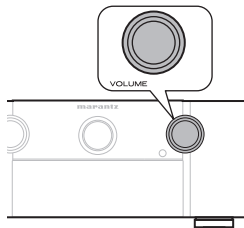
- メニューの“Volume Display”（☞82ページ）の設定により、音量の表示値が異なります。

❏ **“Volume Display”の設定（☞82 ページ）が“Relative”のとき**

【調節できる範囲】 – – – –80.5dB ~ 18.0dB

❏ **“Volume Display”の設定（☞82 ページ）が“Absolute”のとき**

【調節できる範囲】 0.0 ~ 99.0

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

本体の **VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

一時的に音を消す（ミューティング）

MUTE を押す。

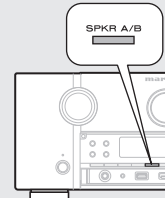
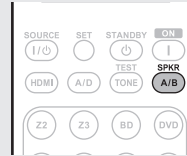
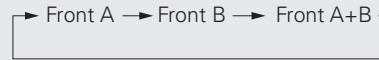
メニューの“Mute Level”（☞82 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。

ミューティングを解除するときは、もう一度 **MUTE** を押してください。主音量を調節しても解除できます。

使用するフロントスピーカーを設定する

SPKR A/B を押す。

- **SPKR A/B** を押すたびに、フロントスピーカーの設定が以下のように切り替わります。

→ Front A → Front B → Front A+B

ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する

1 **再生の準備をする。**
① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を、本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 **ON を押して、本機の電源を入れる。**

3 **BD または DVD を 2 回続けて押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。**

4 **ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを再生する。**

- あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

CD プレーヤーを再生する

1 **再生の準備をする。**
① サブウーハーやプレーヤーの電源を入れる。
② プレーヤーにディスクを入れる。

2 **ON を押して、本機の電源を入れる。**

3 **CD を 2 回続けて押して、入力ソースを“CD”に切り替える。**

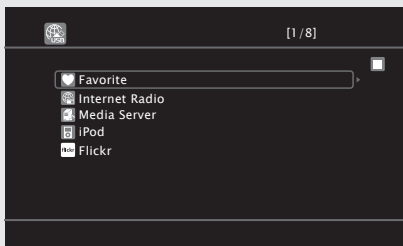
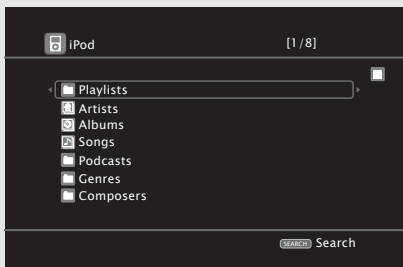
4 CD プレーヤーを再生する。

iPod® を再生する

iPod® に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。

1 **iPod® に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続する（☞23 ページ「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。**

2 **ON を押して、本機の電源を入れる。**

3 **NET/USB を 2 回続けて押して、入力ソースを“NET/USB” に切り替える。**

4 **△▽ を押して“iPod” を選び、ENTER または ▷ を押す。**

ご注意

画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

5 **SEARCH/INFO を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。**

- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

リモートモード iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。

- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。
  対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
- “リモートモード”のとき、iPod の画面表示は右図のようになります。

ダイレクトモード iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。

- 本機のディスプレイに“Direct iPod”を表示します。

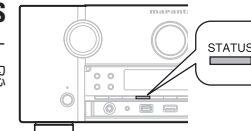
表示モード		リモートモード	ダイレクトモード
再生できるファイル	音声ファイル	✓	✓
	動画ファイル		＊
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod®		✓

＊ 音声のみ再生します。

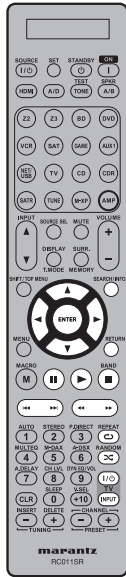
6 **△▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。**

7 **ENTER、▷ または ▶ を押す。**

再生をはじめます。

- メニューの“NET/USB”（☞83 ページ）で、iPod画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- M-DAX モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます（☞74 ページ）。お買い上げ時は、“OFF”に設定しています。
- リモートモードで再生中に **STATUS** ボタンを押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

❑iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
△▽◁ ▷	カーソル操作 / オートサーチ(頭出し、△▽)/ マニュアルサーチ(長押し、△▽)
ENTER (短押し)	確定 / 一時停止
ENTER (長押し)	停止
SEARCH (短押し)	ページ検索モード *1 / キャラクターサーチ *2
SEARCH (長押し)	ブラウズモードとダイレクトモードの切り替え
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶ (長押し)	マニュアルサーチ(早戻し / 早送り)
▶	再生 / 一時停止
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ(頭出し)
II	一時停止
■	停止
REPEAT	リピート再生
RANDOM	ランダム再生
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ (お買い上げ時の設定:Marantz)
TV INPUT	テレビの入力切り替え (お買い上げ時の設定:Marantz)

*1 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を押して、◁(前のページ)または ▷(次のページ)を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を 2 回押してください。

*2 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を 2 回押して、◁ ▷ で検索したい頭文字を選ぶ。
検索できないリストの場合は、“Unsorted list.”を表示します。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を押してください。

- リピート再生およびランダム再生は、メニューの“Input Setup”⇨“Playback Mode”(☞69 ページ)でも設定できます。
- リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

USB メモリーを再生する

USB メモリーに保存されている音楽ファイルや静止画像を再生することができます。

知っておいてほしいこと

❑USB メモリーについて

本機の USB 端子に USB メモリーを接続すると、USB メモリーに保存された音楽ファイルや静止画像ファイルを再生することができます。また、本機の USB 端子に iPod を直接接続しても、iPod に保存されたファイルを再生することができます。詳しくは、「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」(☞23 ページ)をご覧ください。

- 本機は、マスストレージクラスおよび MTP(Media Transfer Protocol)に対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーのフォーマットは、FAT16 または FAT32 に対応しています。

アルバムアート機能

MP3 形式の音楽ファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中に、アルバムアートを表示させることができます。

スライドショー機能

USB メモリー内に保存された静止画像(JPEG)ファイルを、スライドショーで再生することができます。また、再生するときの表示時間を設定することもできます。

本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像(JPEG)ファイルを再生します。

【再生できるフォーマット】

	USB メモリー *1
WMA (Windows Media Audio)	✓*2
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓
WAV	✓
MPEG-4 AAC	✓*3
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	✓
JPEG	✓

*1 USB メモリーについて
- MP3 ID3 タグ(バージョン 2)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示することができます。
- WMA META タグに対応しています。
- WAV フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットです。
- FLAC フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットまたは 24 ビットです。

*2 MTP に対応した一部のポータブルプレーヤーは、著作権保護のあるファイルを再生できます。

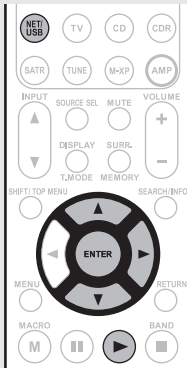
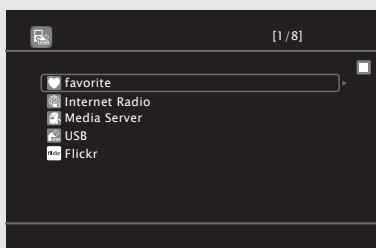
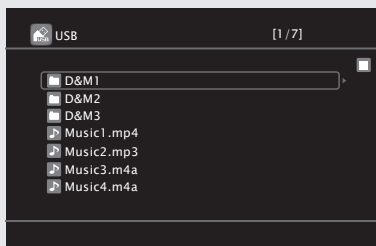
*3 著作権保護の無いファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

【再生できるフォーマット】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48 kHz	48~192 kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48 kHz	32~320 kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48 kHz	–	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48 kHz	16~320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/ 88.2/96 kHz	–	.flac

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

1 USB メモリーを USB 端子に接続する（☞23 ページ「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。

2 **NET/USB を 2 回続けて押して入力ソースを“NET/USB”に切り替える。**

3 **△▽ を押して“USB”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

- “Source Select”メニューで、USB を選択すると、“USB”をダイレクトに選択できます。

4 **△▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

5 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER、▷ または ▶ を押す。**
再生をはじめます。

- メニューの“NET/USB”（☞82 ページ）で、表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。△▽◁▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- M-DAX モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞74 ページ）。お買い上げ時の設定は“OFF”です。
- USB メモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭のパーティションのみ選べます。
- 本機で対応している MP3 ファイルの規格は、「MPEG-1 Audio Layer-3」です。

ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、弊社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。

❑USB メモリー再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
PRESET +, –	プリセットチャンネルの選択
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER（短押し）	確定 / 一時停止
ENTER（長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード ＊1 / キャラクターサーチ ＊2
RETURN	リターン
▶	再生 / 一時停止
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
1 ~ 8	プリセットチャンネルの選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
REPEAT	リピート再生
RANDOM	ランダム再生 ＊3
TV POWER	テレビ電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビ入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

＊1 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を 2 回押してください。
＊2 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を 2 回押して、◁ ▷ で検索したい頭文字を選ぶ。
検索できないリストの場合は、“Unsorted list.”を表示します。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を押してください。
＊3 USB メモリーに保存しているファイルをランダム再生すると、曲の再生が終わるたびにすべての曲からランダム再生する曲を選びます。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。

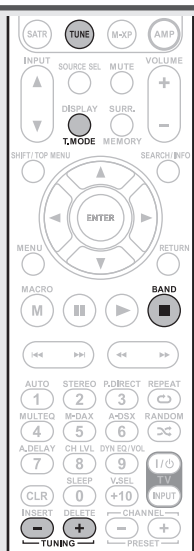
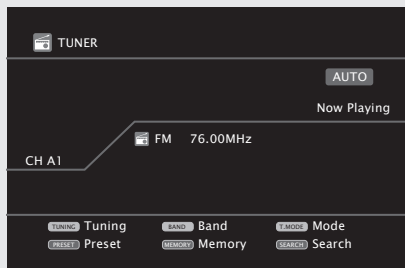
- リピート再生およびランダム再生は、メニューの“Input Setup”⇨“Playback Mode”（☞69 ページ）でも設定できます。
- リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

ラジオ放送局を受信する

FM/AM 放送局を聴く

1 **TUNER を 2 回続けて押して、入力ソースを“TUNER” に切り替える。**

2 **BAND を押して、“FM” または“AM”を選ぶ。**

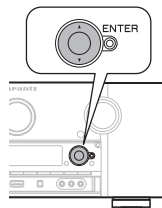
FM	FM 放送局を聴くときに選びます。
AM	AM 放送局を聴くときに選びます。

3 **放送局を受信する。**

オートチューニング 自動で放送局を受信します。

① **T.MODE** を押して、ディスプレイの“AUTO” 表示を点灯させる。
② **TUNING +** または **TUNING –** を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

マニュアルチューニング 手動で放送局を受信します。

① **T.MODE** を押して、ディスプレイの“AUTO” 表示を消灯させる。
② **TUNING +** または **TUNING –** を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

- オートチューニングで聴きたい放送局を受信できない場合は、マニュアルチューニングで放送局を受信してください。
- マニュアルチューニング中に **TUNING +** または **TUNING –** を押し続けると、連続的に受信周波数が変わります。
- メニューの“TUNER”（☞83 ページ）で、TUNER 画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- 本体で操作する場合は、次のようにおこなってください。
  △▽ を押して、放送局を選ぶ。

❑手動でラジオ放送を選局しプリセットする（マニュアルプリセット）

手動でお好みの放送を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

- **メニューの“Auto Preset”（☞65 ページ）をおこなうと、自動で放送局をプリセットできます。** ただし、マニュアルプリセット後に“Auto Preset” をおこなった場合、マニュアルプリセットで設定した放送局は上書きされます。

1 **プリセットしたい放送局を受信する。**

2 **MEMORY を押す。**

3 **SHIFT/TOP MENU を押して、プリセットしたいブロック（A ～ G）とチャンネル（1 ブロックあたり 1 ～ 8）を選ぶ。その後、PRESET +, PRESET – または 1 ~ 8 でプリセット番号を選ぶ。**

4 **もう一度 MEMORY を押して、設定を確定する。**

- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1 ～ 4 をおこなってください。

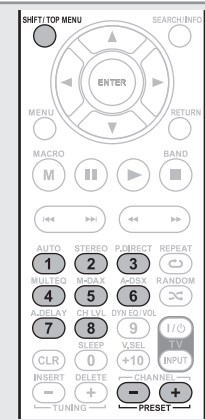
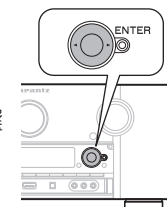
お買い上げ時の設定

ブロック（A ～ G）および チャンネル（1 ～ 8）	お買い上げ時の設定
A1 ～ A8	76.0/83.0/89.0/90.0/90.0/90.0/90.0/ 90.0MHz
B1 ～ B8	522/603/999/1404/1629kHz, 90.0/90.0/90.0MHz
C1 ～ C8	90.0MHz
D1 ～ D8	90.0MHz
E1 ～ E8	90.0MHz
F1 ～ F8	90.0MHz
G1 ～ G8	90.0MHz

プリセットした放送局に名前をつける（Preset Name）（☞65 ページ）

❑プリセットした放送局を聞く

1 **SHIFT/TOP MENU を押して、プリセットしたブロック（A～G）を選ぶ。**

2 **PRESET +, PRESET – または 1 ~ 8 でプリセットしたチャンネルを選ぶ。**

本体で操作する場合は、次のようにおこなってください。
◁ ▷ を押して、プリセットした放送局を選ぶ。

❏ダイレクトに放送局を受信する

ダイレクトに周波数を入力し、放送局を受信します。

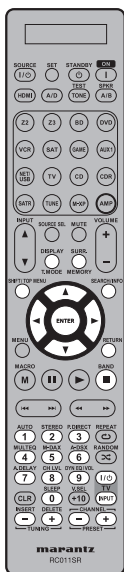
1 **SEARCH/INFO を押す。**

2 **0 ~ 9 を押して、周波数を入力する。**

• ◁ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。

3 **入力が完了したら、ENTER を押す。**

放送局を受信します。

❏FM/AM 放送を受信時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
PRESET +, –	プリセットチャンネルの選択
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH	ダイレクト選局
RETURN	リターン
BAND	FM/AM 受信バンドの切り替え
T.MODE	サーチモードの切り替え
TUNING +, –	選局（アップ / ダウン）
0 ~ 9	プリセットチャンネルの選択（1 ～ 8）/ ダイレクト選局（0 ～ 9）
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	プリセットチャンネルの登録
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

ネットワークオーディオを再生する

インターネットラジオやパソコンに保存されている音楽ファイルや静止画像（JPEG）ファイルを再生することができます。

知っておいてほしいこと

❏インターネットラジオ機能について

- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
- 本機には、次のインターネットラジオ機能があります。
  - ジャンル別、地域別に選べます。
  - 最大 56 曲のインターネットラジオ局をプリセット登録できます。
  - MP3 や WMA（Windows Media Audio）フォーマットのインターネットラジオ放送を聴くことができます。
  - パソコン上の Web ブラウザから弊社のインターネットラジオ用の URL にアクセスすると、お気に入りのラジオを登録することができます。
- お客様の機器ごとに管理をしますので、MAC アドレスや E-mail アドレスの登録が必要になります。
  専用 URL：http://www.radiomarantz.com
- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。
- 本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス（vTuner）を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集および作成されたリストです。

❏メディアサーバー機能について

ネットワークを経由して、本機に接続されたパソコン（メディアサーバー）に保存された音楽ファイルまたはプレイリスト（m3u、wpl）を再生することができます。

本機のネットワークオーディオ再生機能には、次の技術を利用してサーバーに接続できます。

- Windows Media Player Network Sharing Service
- Windows Media DRM10

アルバムアート機能

WMA（Windows Media Audio）、MP3、MPEG-4AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。

WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player（バージョン 11）を使用することで表示できます。

スライドショー機能

メディアサーバーのフォルダ内に保存された静止画像（JPEG）ファイルを、スライドショーで再生することができます。また、再生するときの表示時間を設定することもできます。

本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像（JPEG）ファイルを再生します。

【 再生できるフォーマット 】

	インターネットラジオ	メディアサーバー ＊1
WMA (Windows Media Audio)	✓	✓
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓	✓
WAV		✓
MPEG-4 AAC		✓＊2
FLAC (Free Lossless Audio Codec)		✓
JPEG		✓

ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

＊1 メディアサーバーについて
- MP3 ID3 タグ(バージョン 2)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示することができます。
- WMA META タグに対応しています。
- WAV フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットです。
- FLAC フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットまたは 24 ビットです。

＊2 著作権保護の無いファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

【 再生できるフォーマット 】

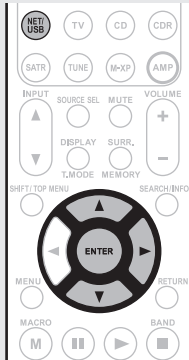
	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48 kHz	48～192 kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48 kHz	32～320 kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48 kHz	–	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48 kHz	16～320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/ 88.2/96 kHz	–	.flac

❑Flickr について

2004 年に開始されたオンラインの写真共有サービスです。本機では、Flickr ユーザーが公開した写真を閲覧することが可能です。アカウントは必要ありません。
自分で撮影した写真を閲覧したい場合には、写真を Flickr のサーバーにアップロードするためにアカウントが必要です。
詳しくは、Flickr のホームページをご覧ください。
http://www.flickr.com/

インターネットラジオを聴く

1 **再生の準備をする。**
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞27ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、“Network Connecting”（☞79ページ）をおこなう。

2 **NET/USB を 2 回続けて押して、入力ソースを“NET/USB”に切り替える。**

3 **△▽ を押して“Internet Radio”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

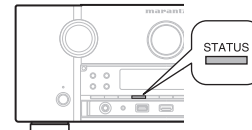
- “Source Select” メニューで、 を選択すると、“Internet Radio” をダイレクトに選択できます。

4 **△▽ を押して再生したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。**

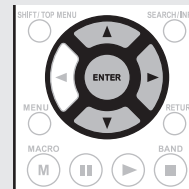
5 **放送局リストが表示されるまで、手順 4 をくり返す。**
放送局リストを表示します。

6 **△▽ を押して放送局を選び、ENTER または ▷ を押す。**
バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

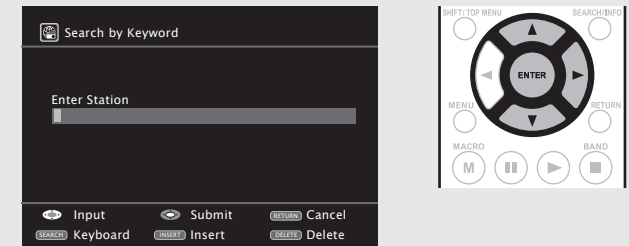
インターネット上には数多くのインターネットラジオ局があり、各ラジオ局から配信される放送や楽曲のビットレートには高低様々なものがあります。
一般的に、ビットレートが高いほど高音質になりますが、通信回線やサーバーの混雑具合によってはストリーミングしている音楽や音声が途切れやすくなります。逆にビットレートが低ければ音質は低下しますが、途切れにくくなります。

- 放送局が混雑している場合や放送されていないときには、“Server Full”または“Connection Down”を表示します。
- 本機ではフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。ディスプレイ表示に対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
- M-DAX モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞74ページ）。お買い上げ時の設定は“OFF”です。
- メニューの“NET/USB”（☞82ページ）で、表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。△▽◁▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- **STATUS** を押すと、タイトル名および放送局名を確認できます。

❑最近再生したインターネットラジオ局を選ぶとき

“Recently Played” から、最近再生したインターネットラジオ局を選ぶことができます。
最大 20 局まで“Recently Played” へ自動的に記憶されます。

1 **△▽ を押して “Recently Played”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

2 **△▽ を押して再生したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。**

❑キーワードでインターネットラジオ局を検索する

1 **△▽ を押して“Search by Keyword” を選び、ENTER または ▷ を押す。**

- 文字の入力方法については、63 ページをご覧ください。

2 **文字を入力して、ENTER を押す。**

❑インターネットラジオ局をプリセット登録する

インターネットラジオ局をダイレクトに選ぶことができます。

1 **登録したいインターネットラジオ局を再生中に、MEMORY を押す。**

2 **△▽ を押して“Preset” を選び、ENTER を押す。**

3 **SHIFT/TOP MENU を押した後に PRESET +、PRESET – または 1 ~ 8 を押してプリセット番号を選ぶ。**

4 **MEMORY を押して設定を終了する。**
インターネットラジオ局を登録します。

ご注意

すでにプリセットされている番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されます。

❏登録したインターネットラジオ局を聴く

SHIFT/TOP MENU を押した後に PRESET +、PRESET – または 1 ~ 8 を押して、登録したプリセット番号を選ぶ。
自動的にインターネットに接続して、再生をはじめます。

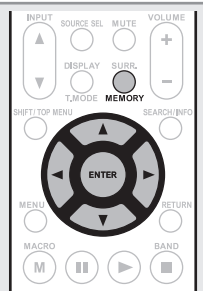
❏インターネットラジオ局をお気に入りに登録する

お気に入りに登録するとメニュー画面の先頭にリストアップされますので、選局が容易にできます。

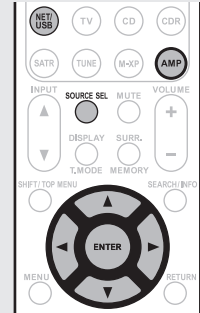
1 **登録したいインターネットラジオ局を再生中に、MEMORY を押す。**

2 **△▽ を押して"Favorites" を選び、ENTER を押す。**

3 **◁ を押して"Add"を選ぶ。**
インターネットラジオ局を登録します。

• 登録しない場合は、▷ を押してください。

❏お気に入りに登録したインターネットラジオ局を聴く

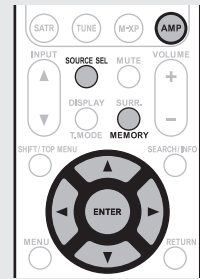
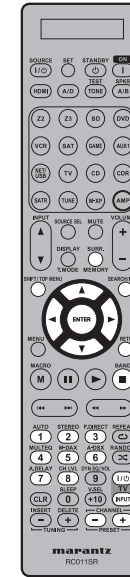
1 **AMP を押してから SOURCE SEL を押して"Source Select" メニューを表示させ、 を選ぶ（☞28 ページ）。**

2 **NET/USB を押してから △▽ を押してインターネットラジオ局を選び、ENTER または ▷ を押す。**
自動的にインターネットに接続して、再生をはじめます。

❏お気に入りに登録したインターネットラジオ局を削除する

1 **AMP を押してから SOURCE SEL を押して"Source Select" メニューを表示させ、 を選ぶ（☞28 ページ）。**

2 **NET/USB を押してから △▽ を押して削除したいインターネットラジオ局を選び、MEMORY を押す。**

3 **◁ を押して "Remove"を選ぶ。**
選んだインターネットラジオ局を削除します。

• 削除しない場合は、▷ を押してください。

❏インターネットラジオ受信時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
PRESET +, –	プリセットチャンネルの選択
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER （短押し）	確定
ENTER （長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード ＊1 / キャラクターサーチ ＊2
RETURN	リターン
■	停止
1 ~ 8	プリセットチャンネル選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	お気に入り登録 / プリセットチャンネルの登録
TV POWER	テレビ電源オン / スタンバイ （お買い上げ時の設定：Marantz
TV INPUT	テレビ入力切り替え （お買い上げ時の設定：Marantz）

＊1 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を 2 回押してください。

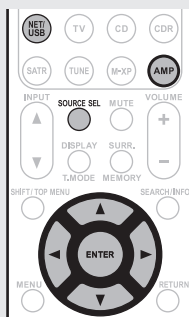
＊2 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を 2 回押して、◁ ▷ で検索したい頭文字を選ぶ。
検索できないリストの場合は、"Unsorted list."を表示します。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を押してください。

リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

パソコンに保存されているファイルを再生する

音楽ファイル、画像ファイルおよびプレイリストを再生できます。

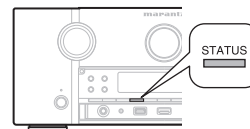
1 **再生の準備をする。**
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞27ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、"Network Connecting"（☞79ページ）をおこなう。
③ パソコンの準備をする（☞パソコンの取扱説明書）。

2 **AMP を押してから SOURCE SEL を押して"Source Select" メニューを表示させ、 を選ぶ（☞28 ページ）。**

3 **NET/USB を押してから △▽ を押して再生したいファイルのあるサーバーを選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **△▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

5 **ファイルが表示されるまで、手順 4 をくり返す。**

6 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。**
バッファリングが"100％"表示になると、再生がはじまります。

- 音楽ファイルの再生には、必要なシステムとの接続および設定が必要です（☞27 ページ）。
- あらかじめパソコンのサーバーソフトを起動し、ファイルをサーバーコンテンツとして設定してください。詳しくは、サーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。
- 静止画像（JPEG）ファイルのサイズによっては、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、曲の表示順がアルファベット順にならない場合は、頭文字での検索が正しく動作しないことがあります。
- Windows Media Player（バージョン 11）などのトランスコードに対応したサーバーをご使用になる場合は、WMA Lossless ファイルを再生できます。
- M-DAX モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞74 ページ）。お買い上げ時の設定は"OFF"です。
- メニューの"NET/USB"（☞82 ページ）で、表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。△▽◁▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- **STATUS** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

❑プリセットやお気に入りに登録して再生する

音楽ファイルについてもインターネットラジオと同様の操作で、プリセットやお気に入りに登録して再生することができます（☞36 ページ）。

ご注意

- すでにプリセットされている番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されます。
- 下記の操作をおこなうと、メディアサーバーのデータベースが更新され、プリセットやお気に入りに登録した音楽ファイルが再生できなくなる場合があります。
  - メディアサーバーを停止し、再起動した場合
  - メディアサーバーで音楽ファイルを削除または追加した場合

❑メディアサーバーに使用できるボタン

操作ボタン	機能
PRESET +, –	プリセットチャンネルの選択
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER（短押し）	確定 / 一時停止
ENTER（長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード ＊1 / キャラクターサーチ ＊2
RETURN	リターン
▶	再生 / 一時停止
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
1 ~ 8	プリセットチャンネルの選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	お気に入り登録 / プリセットチャンネルの登録
TV POWER	テレビ電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビ入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

- **リピート再生**（☞69 ページ "Repeat"）
- **ランダム再生**（☞69 ページ "Random"）＊3

＊1 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を 2 回押してください。

＊2 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を 2 回押して、◁ ▷ で検索したい頭文字を選ぶ。
検索できないリストの場合は、"Unsorted list."を表示します。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を押してください。

＊3 パソコンに保存しているファイルをランダム再生すると、曲の再生が終わるたびにすべての曲からランダム再生する曲を選びます。そのため、同じ曲を続けて再生する場合があります。

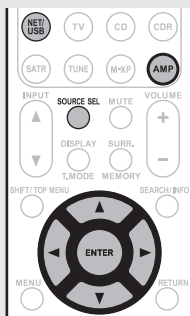
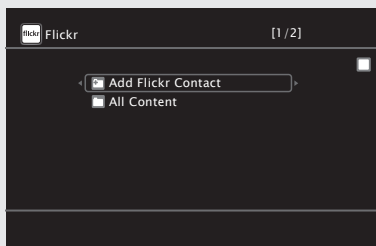
リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

Flickr サイト上の写真を閲覧する

任意のユーザーが共有している写真や Flickr 上のすべての写真を閲覧することができます。

❏任意のユーザーが共有している写真を閲覧する

1 **再生の準備をする。**
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞27ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、“Network Connecting”（☞79ページ）をおこなう。

2 **AMP を押してから SOURCE SEL を押して“Source Select”メニューを表示させ、flickr を選ぶ（☞28 ページ）。**

3 **NET/USB を押してから △▽ を押して“Add Flickr Contact”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **“Username（ユーザー名）”を入力する。**

• 文字の入力方法については、63 ページをご覧ください。

5 **“Username”を入力後、ENTER を押す。**
コンタクトに登録され、Flickr のトップ画面に手順 4 で入力したユーザー名を表示します。

• 存在しないユーザー名を入力すると、“The Flickr Contact you entered could not be found” が表示されます。ユーザー名を確認し、正しく入力してください。

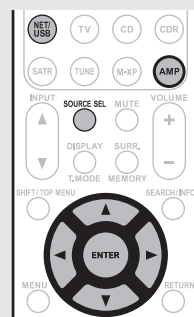
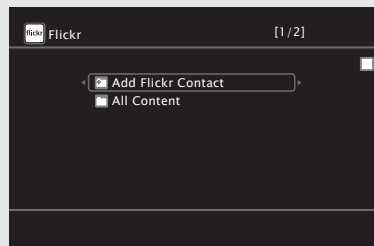
6 **△▽ を押してフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

Favorites	ご指定のユーザーのお気に入り写真を表示します。
Photostream	公開している写真一覧を表示します。
PhotoSets	フォルダ（写真アルバム）リストを表示します。
Contacts	ご指定のユーザーがコンタクト登録しているユーザー名を表示します。
Remove this Contact	ご指定のユーザーをコンタクトから削除します。

7 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。**
選択したファイルを表示します。

❏Flickr 上のすべての写真を閲覧する

1 **再生の準備をする。**
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞27ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、“Network Connecting”（☞79ページ）をおこなう。

2 **AMP を押してから SOURCE SEL を押して“Source Select”メニューを表示させ、flickr を選ぶ（☞28 ページ）。**

3 **NET/USB を押してから △▽ を押して“All Content”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

4 **△▽ を押してフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

Interestingness	コメントやお気に入り登録の履歴から、人気のある写真を表示します。
Recent	最近投稿された写真を表示します。
Search by text	キーワードで写真を検索します。

5 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。**
選択したファイルを表示します。

ご注意

写真のファイルフォーマットによっては、閲覧できないものがあります。

❏Flickr 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
PRESET +, –	プリセットチャンネルの選択
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER （短押し）	確定
ENTER （長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード ＊
RETURN	リターン
■	停止
1 ~ 8	プリセットチャンネルの選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
TV POWER	テレビ電源オン / スタンバイ （お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビ入力切り替え （お買い上げ時の設定：Marantz）

＊ メニュー画面が表示されているときに **SEARCH/INFO** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH/INFO** を押してください。

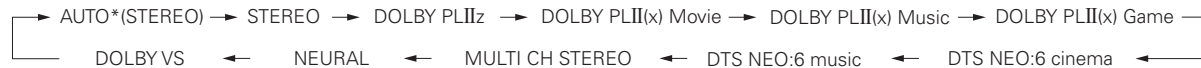
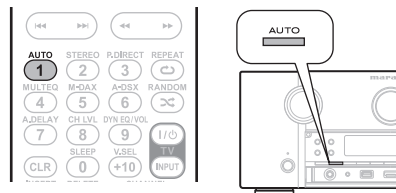
入門編　基本編　応用編　情報編

リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）

本機は、本機に入力される音声信号を、マルチチャンネルサラウンドやステレオで再生することができます。
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください。

リスニングモードについて

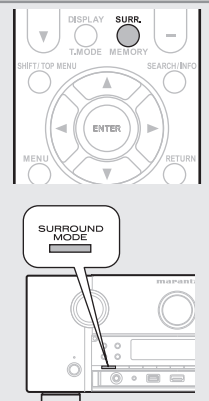
入力音声信号	再生	リスニングモード	
2チャンネル マルチチャンネル	サラウンド	マルチチャンネル再生（☞40ページ）	【2チャンネル信号を入力しているとき】 • サラウンドチャンネルの信号を生成してサラウンド再生をします。 【マルチチャンネル信号を入力しているとき】 • ソースに収録されているサラウンド信号のままサラウンド再生をします。（メニューの"Speaker Config."（☞75ページ）のスピーカーサイズの設定に合わせて再生します。） • ソースに収録されていないサラウンドバックチャンネルやフロントハイトチャンネルの信号を生成することもできます。
2チャンネル マルチチャンネル	ステレオ	ステレオ再生（☞42ページ）	• マルチチャンネル信号を入力しているときは、2チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。 • サブウーハー信号も出力します。
2チャンネル マルチチャンネル	ステレオ サラウンド	ダイレクト再生（☞42ページ）	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。 • サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。 • このモードのとき、以下の設定はできません。 • Tone（☞71ページ） • MultEQ® XT（☞71ページ） • Dynamic EQ®（☞72ページ） • Dynamic Volume®（☞72ページ） • M-DAX（☞74ページ）
2チャンネル マルチチャンネル	バーチャルサラウンド	ドルビーバーチャルスピーカー/ドルビーヘッドホン再生（☞43ページ）	2チャンネルまたはマルチチャンネルの入力信号に対して仮想サラウンド処理をおこない再生します。

• 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」（☞102ページ）をご覧ください。
• メニューの"Surround Parameter"（☞70ページ）で音場効果を調整すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。
• リスニングモードは、本体の **SURROUND MODE** ボタンを押しても選択できます。
SURROUND MODE を押すと、以下の順序でモードが切り替わります。

＊ "AUTO"は、本体またはリモコンの **AUTO** を押しても選べます。

マルチチャンネル再生

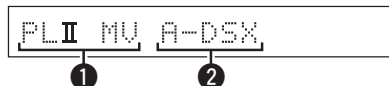
❑2チャンネルのソースをサラウンド再生する

1 機器を再生する（☞29〜31ページ）。

2 **SURR.** を押して、2チャンネル信号からマルチチャンネル音声を生成するためのサラウンドデコーダーを選ぶ。

• 本体の **SURROUND MODE** を押しても、リモコンと同じように操作できます。
• **SURR.** を押すたびに、サラウンドモードが切り替わります。
選択できるデコーダーは、メニューの"Amp Assign"（☞75ページ）または"Speaker Config."（☞75ページ）の設定によって異なります。

DOLBY PLIIz	＊1	フロントハイトスピーカーを使用して、7.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。 • "PLIIz Height"を表示します。
DOLBY PLIIx	＊2	サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1チャンネルまたは6.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。 • "PLIIx Movie"、"PLIIx Music" または"PLIIx Game"を表示します。
DOLBY PLII		5.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。フロントハイトスピーカーやサラウンドバックスピーカーを使用しないときに選びます。 • "PLII Movie"、"PLII Music"、"PLII Game"または"Pro Logic"を表示します。
DTS NEO:6		サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1チャンネル、6.1チャンネルまたは5.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。 • "DTS NEO:6 Cinema" または "DTS NEO:6 Music"を表示します。
MULTI CH STEREO		すべてのスピーカーでステレオサウンドの再生をおこなうモードです。
NEURAL	＊3	サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1チャンネル、6.1チャンネルまたは5.1チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。 • "NEURAL"を表示します。

＊1 メニューの“Amp Assign”設定（☞75 ページ）が“Normal”のとき、および“Speaker Config.”⇨“F.Height”設定（☞76 ページ）が“None”以外のときに選べます。
＊2 メニューの“Amp Assign”設定（☞75 ページ）が“Normal”のとき、および“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞76 ページ）が“None”以外のときに選べます。
＊3 アナログ 2 チャンネルの音声、リニア PCM の 2 チャンネル（44.1KHz、48KHz）音声に対応しています。

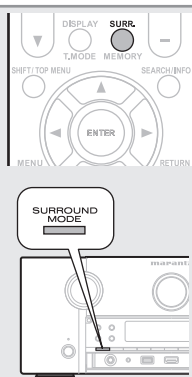
【 ディスプレイ表示について 】

❶ 使用するデコーダーをあらわします。
❷ Audyssey DSX™処理をあらわします。

❏マルチチャンネルのソースをサラウンド再生する（ドルビーデジタル、DTS、AAC など）

1 **機器を再生する（☞29〜31 ページ）。**

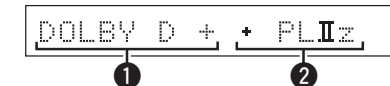
2 **SURR. を押して、マルチチャンネル音声を再生するためのサラウンドデコーダーを選ぶ。**

- 本体の **SURROUND MODE** を押しても、リモコンと同じように操作できます。
- ディスプレイ表示を見ながらサラウンドモードを選んでください（☞ 右表“再生中のサラウンドモードの表示”）。

- 選択できるデコーダーは、入力信号やメニューの“Amp Assign”（☞75 ページ）、“Speaker Config.”（☞75 ページ）の設定によって異なります。

再生中のサラウンドモードの表示

入力信号	サラウンドモード処理	ディスプレイ表示
DOLBY DIGITAL（2 チャンネル）	NEURAL	NEURAL
DOLBY DIGITAL（2 チャンネル以外）/DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL	DOLBY DIGITAL
	DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL EX
	DOLBY DIGITAL + PLⅡx MOVIE	DOLBY D + PLⅡx MV
	DOLBY DIGITAL + PLⅡx MUSIC	DOLBY D + PLⅡx MS
	DOLBY DIGITAL + PLⅡz	DOLBY D + PLⅡz
DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL +
	DOLBY DIGITAL Plus + EX	DOLBY D + + EX
	DOLBY DIGITAL Plus + PLⅡx MOVIE	DOLBY D + + PLⅡx MV
	DOLBY DIGITAL Plus + PLⅡx MUSIC	DOLBY D + + PLⅡx MS
	DOLBY DIGITAL Plus + PLⅡz	DOLBY D + + PLⅡz
DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD
	DOLBY TrueHD + EX	DOLBY HD +EX
	DOLBY TrueHD + PLⅡx MOVIE	DOLBY HD +PLⅡx MV
	DOLBY TrueHD + PLⅡx MUSIC	DOLBY HD +PLⅡx MS
	DOLBY TrueHD + PLⅡz	DOLBY HD +PLⅡz
DTS（5.1 チャンネル）/DTS-ES Discrete 6.1/DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND	DTS SURROUND
	DTS + PLⅡx MOVIE	DTS + PLⅡx MV
	DTS + PLⅡx MUSIC	DTS + PLⅡx MS
	DTS + PLⅡz	DTS + PLⅡz
	DTS + NEO:6	DTS + NEO:6
	DTS ES MTRX6.1＊1	DTS ES MTRX6.1
	DTS ES DSCRT6.1＊2	DTS ES DSCRT6.1
	DTS 96/24＊3	DTS 96/24
DTS-HD	DTS-HD HI RES	DTS-HD HI RES
	DTS-HD MSTR	DTS-HD MSTR
	DTS-HD + NEO:6	DTS-HD + NEO:6
	DTS-HD + PLⅡx MOVIE	DTS-HD + PLⅡx MV
	DTS-HD + PLⅡx MUSIC	DTS-HD + PLⅡx MS
	DTS-HD + PLⅡz	DTS-HD + PLⅡz
	DTS Express	DTS Express
MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC	MPEG2 AAC
	AAC + Dolby EX	AAC + Dolby EX
	AAC + PLⅡx MOVIE	AAC + PLⅡx MV
	AAC + PLⅡx MUSIC	AAC + PLⅡx MS
	AAC + PLⅡz	AAC + PLⅡz
PCM（マルチチャンネル）	MULTI CH IN	MULTI CH IN
	MULTI IN + Dolby EX	MULTI +Dolby EX
	MULTI IN + PLⅡx MOVIE	MULTI IN +PLⅡx MV
	MULTI IN + PLⅡx MUSIC	MULTI IN +PLⅡx MS
	MULTI IN + PLⅡz	MULTI IN +PLⅡz
	MULTI CH IN 7.1	MULTI CH IN 7.1
すべての信号	Dolby VIRTUAL SPEAKER	DOLBY VS
上記すべての信号	Audyssey DSX＊4	Audyssey DSX

＊1 入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1”のときに表示します。
＊2 入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1”のときに表示します。
＊3 入力信号が“DTS 96/24”のときに表示します。
＊4 “Audyssey DSX”（☞72 ページ）の設定が“ON-Height-”または“ON-Wide-”のときに表示します。

【 ディスプレイ表示について 】

❶ 使用するデコーダーをあらわします。
- DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは、“DOLBY D +”と表示します。

❷ サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成するデコーダーをあらわします。
- “+ PLⅡz”はフロントハイトスピーカーからのフロントハイト音声をあらわします。

各サラウンドモードのときに再生できる入力信号については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞100 ページ）をご覧ください。

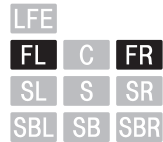
AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が"オフ"になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

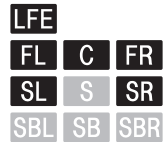
【入力信号チャンネル表示について】

プログラムソースにより、入力信号チャンネル表示が点灯します。

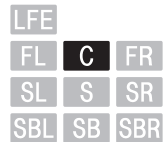
- **2 チャンネルソース**

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

SURR. を押すと、"DOLBY PLⅡx" モードと"DTS NEO:6" モードを切り替えることができます。

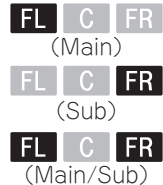
- **5.1 チャンネルソース**

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

SURR. を押すと、5.1 チャンネル再生ができます。
5.1 チャンネルで再生しているときは、"MPEG2 AAC"を表示します。

- **モノラルソース**

LFE
FL C FR
SL S SR
SBL SB SBR

SURR. を押すと、"MPEG2 AAC"を表示します。
音声は、センタースピーカーより出力します。フロントスピーカーで再生する場合は、サラウンドモード("STEREO" など)を選んでください。

- **二重音声ソース**

FL C FR
(Main)
FL C FR
(Sub)
FL C FR
(Main/Sub)

二重音声の情報がある AAC ソースを再生する場合は、主音声や副音声などの出力内容を選べます。
詳しくは、"Bilingual Mode"(☞79 ページ)をご覧ください。

✎

S は 2 チャンネルサラウンド信号 *(ドルビーサラウンド信号)が入力された場合に点灯します。

* 2 チャンネルサラウンド信号とは、4 チャンネル(フロント左 / フロント右 / センター / サラウンド)を 2 チャンネルに変換してある信号です。

ステレオ再生

音質調整ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。

- フロントスピーカー(左 / 右)とサブウーハーから音声を出力します。
- マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

1 **機器を再生する (☞29〜31 ページ)。**

2 **STEREO を押す。**
ステレオ再生をはじめます。

ダイレクト再生

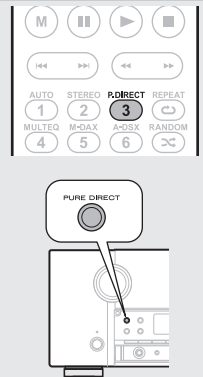
ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

- サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。
- このモードのとき、以下の設定ができません。
  - Tone(☞71 ページ)
  - MultEQ® XT(☞71 ページ)
  - Dynamic EQ®(☞72 ページ)
  - Dynamic Volume®(☞72 ページ)
  - M-DAX(☞74 ページ)

1 **機器を再生する (☞29〜31 ページ)。**

2 **P.DIRECT を押して、"DIRECT" を選ぶ。**

ダイレクト再生をはじめます。

- 本体の **PURE DIRECT** を押しても、リモコンと同じように操作できます。
- **PURE DIRECT** を押すたびにダイレクトモードが切り替わります。

Source Direct	音質調整回路を通さず、高音質で音楽再生をおこなうモードです。
Pure Direct *	最も原音に忠実な音楽再生をおこなうモードです。
Auto	入力されるデジタル信号の種類を検出し、自動的に対応するモードで音楽再生をおこないます。

* ピュアダイレクト表示が点灯し、音質に影響する次の回路の動作を停止します。
  - 本体のディスプレイ表示回路
    (ディスプレイが消灯します。)
  - アナログビデオ入出力回路

✎

- ピュアダイレクト再生モードを解除する場合は、もう一度リモコンの **P.DIRECT** または本体の **PURE DIRECT** を押してください。
- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。

ご注意

ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面を表示しません。

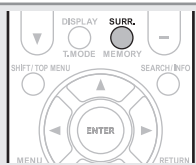
ドルビーバーチャルスピーカー / ドルビーヘッドホン再生

❑ドルビーバーチャルスピーカーモード

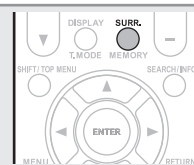
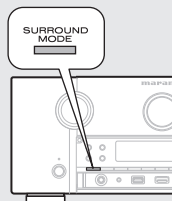
２本のステレオスピーカーでバーチャル化されたサラウンド音声を楽しむことができます。

- フロントスピーカー（左 / 右）から音声を出力します。
- マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

1 **機器を再生する（****29〜31 ページ）****。**

2 **SURR. を押して、"DOLBY VS" を選ぶ。**

❑ドルビーヘッドホンモード

ヘッドホンでマルチチャンネルサラウンド音声を楽しむことができます。

SURR. を押してドルビーヘッドホンモードを選ぶ。

- 本体の **SURROUND MODE** を押しても、リモコンと同じように操作できます。
- **SURR.** を押すたびにドルビーヘッドホンモードが切り替わります。

DOLBY HEADPHONE	ヘッドホン再生におけるサラウンドモードです。 サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生します。
DOLBY HP BYPASS	ヘッドホン再生時にサラウンド再生せずに、通常のステレオ再生をします。
DOLBY HP PLⅡ Movie	映画ソースに最適なモードです。
DOLBY HP PLⅡ Music	音楽ソースに最適なモードです。

ご注意

- ヘッドホンをヘッドホン端子から外すと、サラウンドモードは以前の設定に戻ります。
- 2 チャンネルソースを再生しているときのみ、Dolby HP PLⅡ Movie または Dolby HP PLⅡ Music を選択できます。

Advanced version

応用編

ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

スピーカーを設置 / 接続 / 設定する（応用接続）

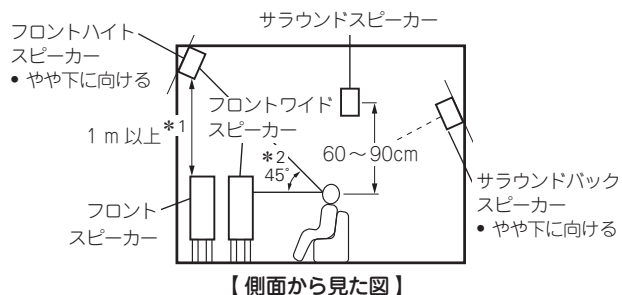
ここではさまざまなスピーカーの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法は、「入門編（かんたんセットアップガイド）」（☞7 ページ）をご覧ください。

本機の Audyssey® Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

設置

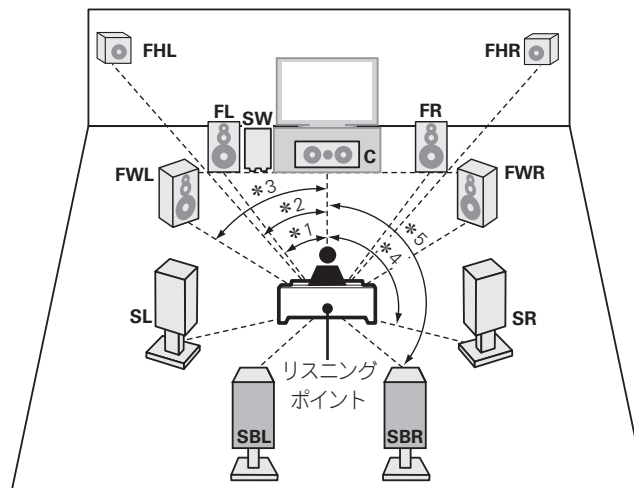
本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Audyssey DSX™（☞105 ページ）および Dolby Pro Logic IIz（☞106 ページ）に対応しています。
Audyssey DSX をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを設置してください。
Dolby Pro Logic IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

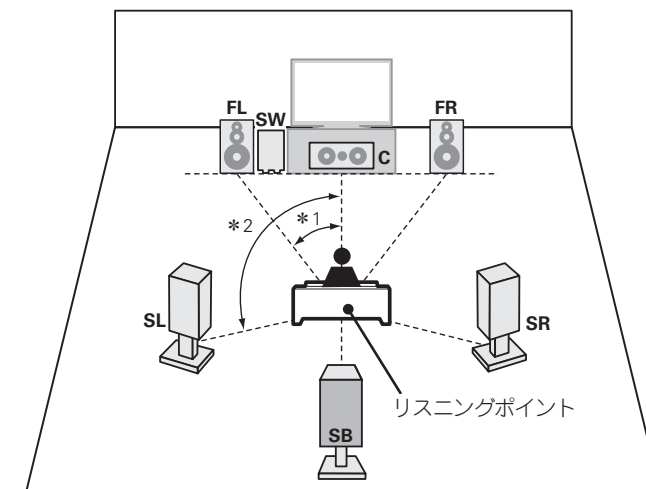
サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60～90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

【 側面から見た図 】

＊1 Dolby Pro Logic IIz 推奨
＊2 Audussey DSX 推奨

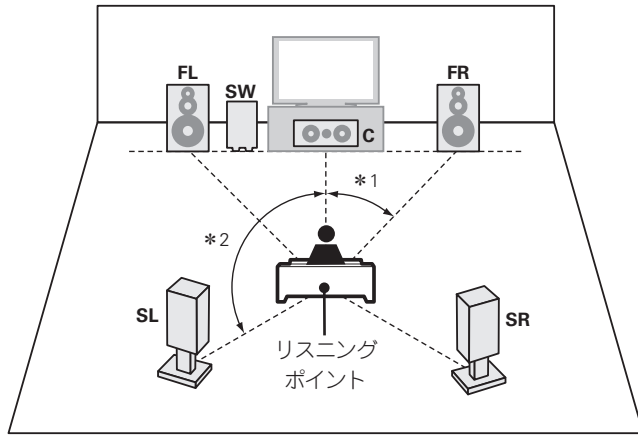
ご注意

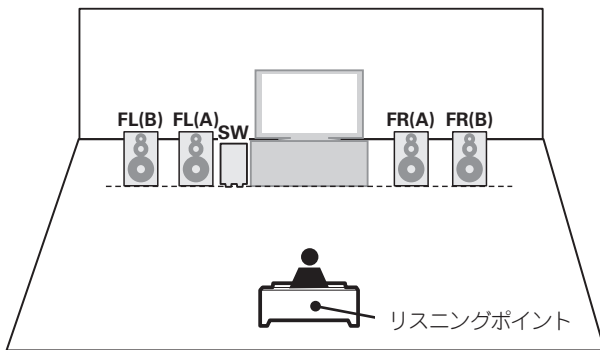
音声は、サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカー、フロントワイドスピーカーから同時に出力されません。サラウンドモードや Audyssey DSX の設定により、スピーカーを切り換えて使用することができます。

7.1 チャンネル（サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイドスピーカー）を設置するとき

＊1 22°~30°　＊2 22°~45°　＊3 55~60°
＊4 90°~110°　＊5 135~150°

6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき

＊1 22°~30°　＊2 90°~110°

FL	フロントスピーカー（L）	**SBL**	サラウンドバックスピーカー（L）
FR	フロントスピーカー（R）	**SBR**	サラウンドバックスピーカー（R）
C	センタースピーカー	**FHL**	フロントハイトスピーカー（L）
SW	サブウーハー	**FHR**	フロントハイトスピーカー（R）
SL	サラウンドスピーカー（L）	**FWL**	フロントワイドスピーカー（L）
SR	サラウンドスピーカー（R）	**FWR**	フロントワイドスピーカー（R）
SB	サラウンドバックスピーカー		

5.1 チャンネルを設置するとき

＊1 22°~30°　　＊2 120°

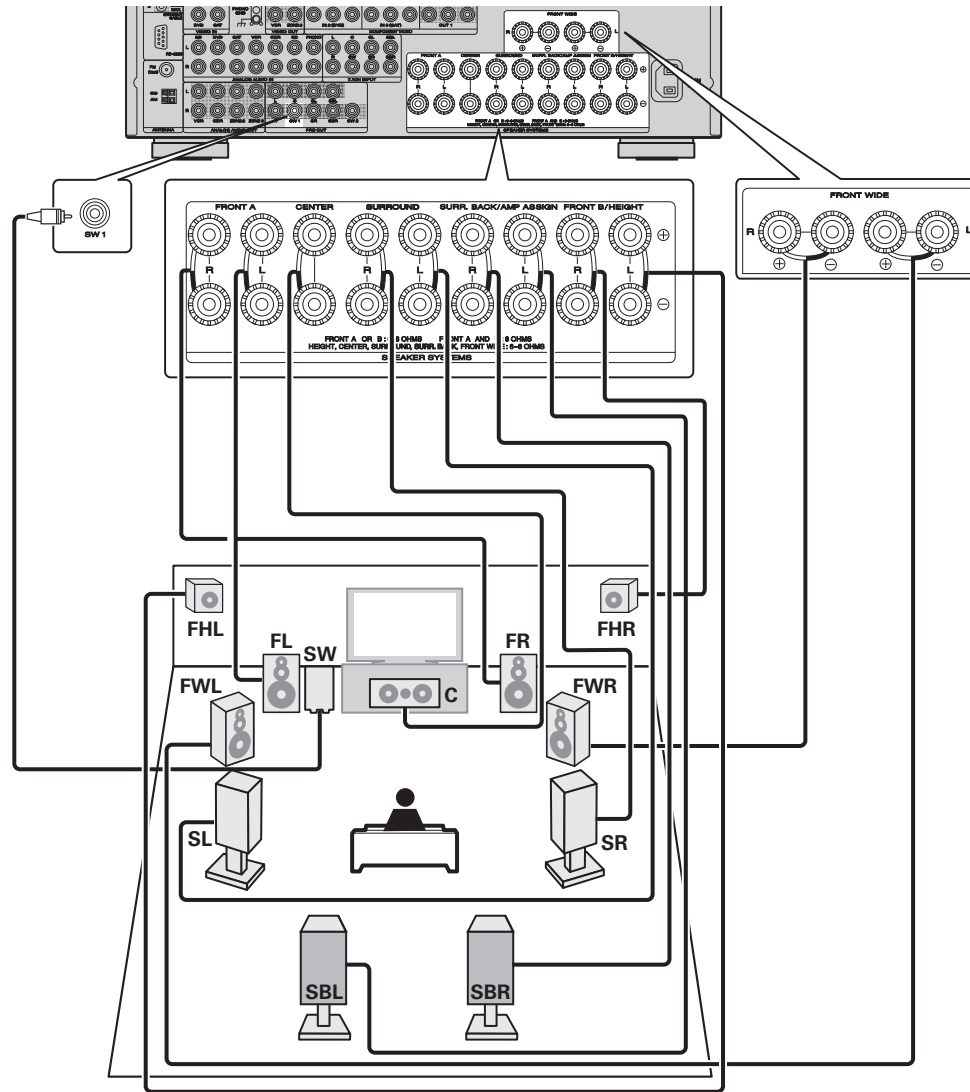
フロント A/B スピーカーを設置するとき

FL　フロントスピーカー（L）　**SW**　サブウーハー
FR　フロントスピーカー（R）　**SL**　サラウンドスピーカー（L）
C　センタースピーカー　**SR**　サラウンドスピーカー（R）

接続

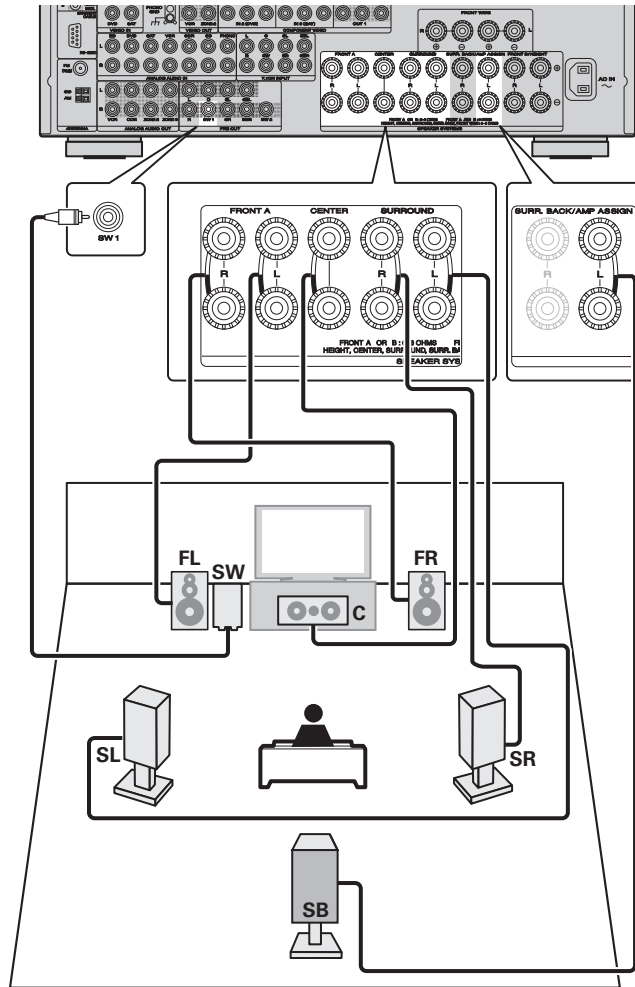
テレビの接続方法は、9 ページをご覧ください。

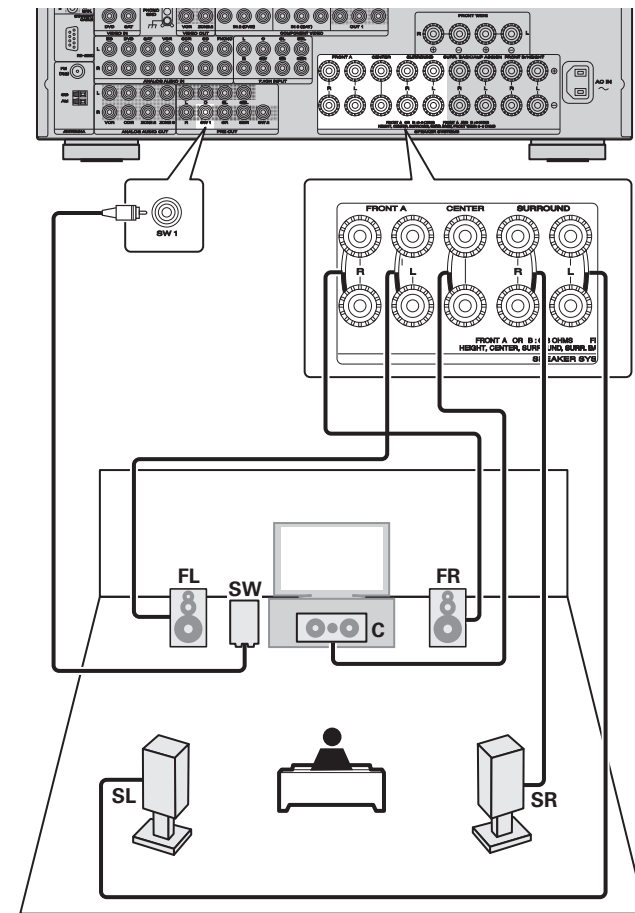
7.1 チャンネル（サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイドスピーカー）接続

7.1 チャンネルのサラウンドバック再生、フロントハイト再生またはフロントワイド再生をおこなう場合は、「"Amp Assign" の設定」（☞49 ページ）で "Normal" に設定してください。

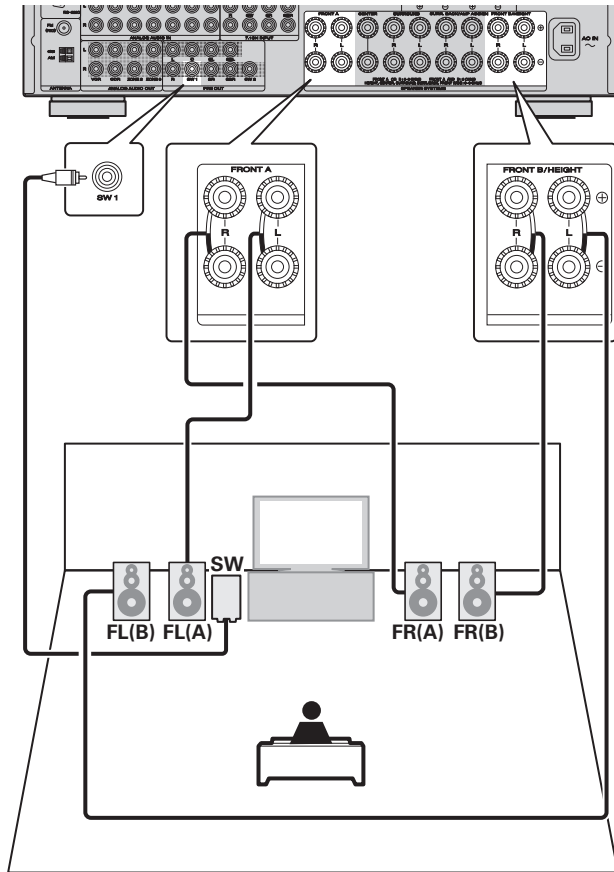
スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、8 ページをご覧ください。

6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続

サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合（6.1 チャンネル接続時）は、SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子の“L”側に接続してください。このときのスピーカー設置については、「6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき」（☞45 ページ）をご覧ください。

6.1 チャンネルのサラウンドバック再生をおこなう場合は、「“Amp Assign”の設定」（☞49 ページ）で“Normal”に設定してください。

5.1 チャンネル接続

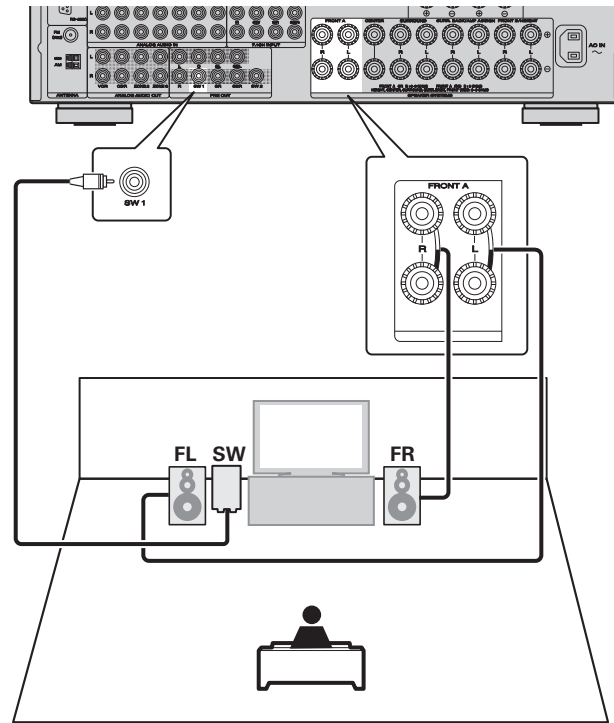
5.1 チャンネル再生をおこなう場合は、「“Amp Assign”の設定」（☞49 ページ）で“Normal”に設定してください。

スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、8 ページをご覧ください。

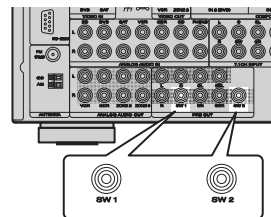
フロント A/B 接続

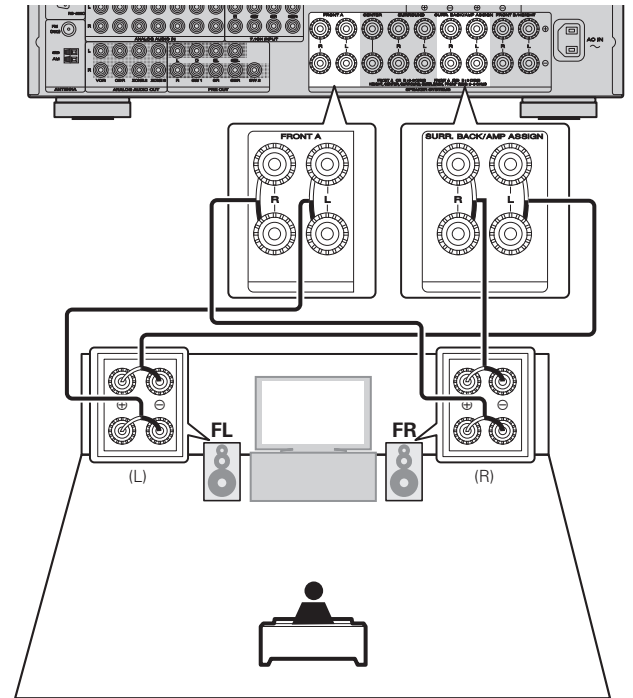
FRONT B/HEIGHT 端子に 2 組目のフロントスピーカーを接続して使用することができます。
この場合、リモコンまたは本体の **SPKR A/B** ボタンで設定をおこなってください(☞29 ページ「使用するフロントスピーカーを設定する」)。

マルチチャンネルソースをサラウンド再生する場合は、センタースピーカー、サラウンドスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。5.1 チャンネル再生ができます。
マルチチャンネル再生にはフロントスピーカー(A)を、2 チャンネル再生にはフロントスピーカー(B)を使用するなど、スピーカーの仕様や再生するソースによってフロントスピーカーを使い分けることができます。

ご注意

フロントスピーカー A とフロントスピーカー B を同時に使用する場合は、接続するスピーカーのインピーダンスにご注意ください(☞8 ページ)。

2.1 チャンネル接続

❏サブウーハーを 2 台接続する場合

本機はサブウーハーを 2 台接続することができます。
それぞれのサブウーハー端子からは、同じ信号を出力します。

バイアンプ接続

バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツィーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力(出力されずに戻ってくる電力)がツィーターに流れ込んでツィーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただくことができます。
このような場合は、「"Amp Assign"の設定」(☞49 ページ)で"SPKR-C"に設定してください。

バイアンプ接続では、フロントスピーカー端子と SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子から同じ信号を出力します。
マルチチャンネルソースをサラウンド再生するときは、センタースピーカー、サラウンドスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。5.1 チャンネル再生ができます。

ご注意

- バイアンプ接続に対応したスピーカーをご使用ください。
- バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、8 ページをご覧ください。

スピーカーを設定する

□ で囲まれている項目は、お買い上げ時の設定です。

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定方法を説明しています。
7.1 チャンネルのサラウンドバックスピーカーの設定方法は、入門編の「スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）」（☞10 ページ）をご覧ください。

あらかじめスピーカーを設置し、本機とスピーカーを接続してください。

"Audyssey Auto Setup"の測定前に、あらかじめ以下の設定をおこなうことができます。

- アンプの割り当てを変更する（Amp Assign）
  本機の SURR. BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子から出力する信号を、ご使用になるスピーカー環境に合わせて切り替えて出力することができます（☞49ページ「"Amp Assign"の設定」）。
- 使用するチャンネルを設定する（Channel Select）
  使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます（☞49 ページ「"Channel Select"の設定」）。

1 リモコンの設定

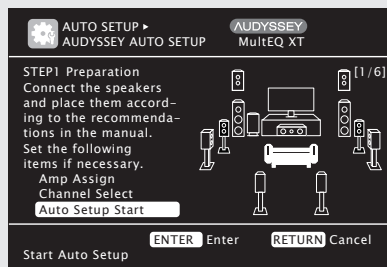
このリモコンは各ゾーンの操作と、本機以外の機器の操作ができるため、操作の前に操作するゾーンと機器の切り替えをしてください。
ここでは、メインゾーンのスピーカーの設定を本機を操作しておこなうため、次のとおりに設定してください。

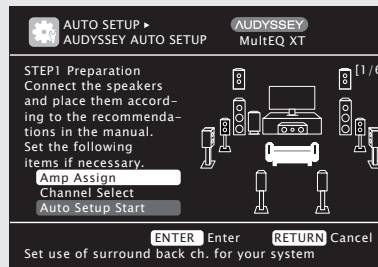
❑ 操作モードの設定

AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

AMP を押す。

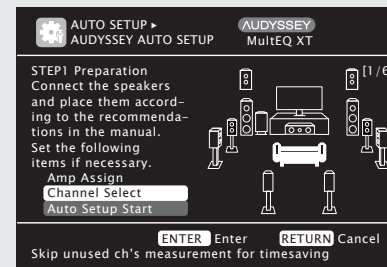
2 セットアップマイクを接続する。

セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

3 "Amp Assign"の設定

△▽ を押して"Amp Assign" を選び ENTER を押す。

4 ◁ ▷ 押して接続したスピーカーの設定を選び、RETURN を押す。

Normal	サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを使用するときに設定します。この場合、手順6へ進んでください。
ZONE2	SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子にゾーン２用スピーカーを接続して使用するときに設定します。
ZONE3	SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子にゾーン３用スピーカーを接続して使用するときに設定します。
SPKR-C	SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子にフロントスピーカーのツイーター部を接続し、FRONT 端子にフロントスピーカーのウーハー部を接続して使用するときに設定します。

5 "Channel Select"の設定

△▽ を押して"Channel Select" を選び ENTER を押す。

6 △▽ を押してチャンネルを選ぶ。

Subwoofer	サブウーハーを使用しないときに選びます。この場合、手順７へ進んでください。
Surround Back	サラウンドバックスピーカーを使用しないときに選びます。この場合、手順８へ進んでください。 • "Surround Back" は"Amp Assign" の設定が"Normal" のときに設定できます。
Front Height	フロントハイトスピーカーを使用しないときに選びます。この場合、手順９へ進んでください。 • "Front Height" は"Amp Assign" の設定が"Normal" のときに設定できます。
Front Wide	フロントワイドスピーカーを使用しないときに選びます。この場合、手順９へ進んでください。 • "Front Wide" は"Amp Assign" の設定が"Normal" のときに設定できます。

リモコンの操作ボタン	△ ▽ ◁ ▷ カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）	ENTER 設定を確定する	RETURN ひとつ前のメニューに戻る

7 【手順 6 で“Subwoofer”を選んだとき】
◁ ▷ を押して項目を選ぶ。

Measure	サブウーハーを測定するときに設定します。
Skip	サブウーハーを測定しないときに設定します。

8 【手順 6 で“Surround Back”を選んだとき】
◁ ▷ を押して項目を選ぶ。

Measure (2spkrs)	サラウンドバックスピーカーを 2 台測定するときに設定します。
Measure (1spkr)	サラウンドバックスピーカーを 1 台測定するときに設定します。
Skip	サラウンドバックスピーカーを測定しないときに設定します。

9 【手順 6 で“Front Height”または“Front Wide”を選んだとき】
◁ ▷ を押して項目を選ぶ。

Measure	フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを測定するときに設定します。
Skip	フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを測定しないときに設定します。

10 **RETURN を押す。**
12ページの STEP1 Preparation 手順 6 へ進む。

ご注意
Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

接続のしかた（応用接続）

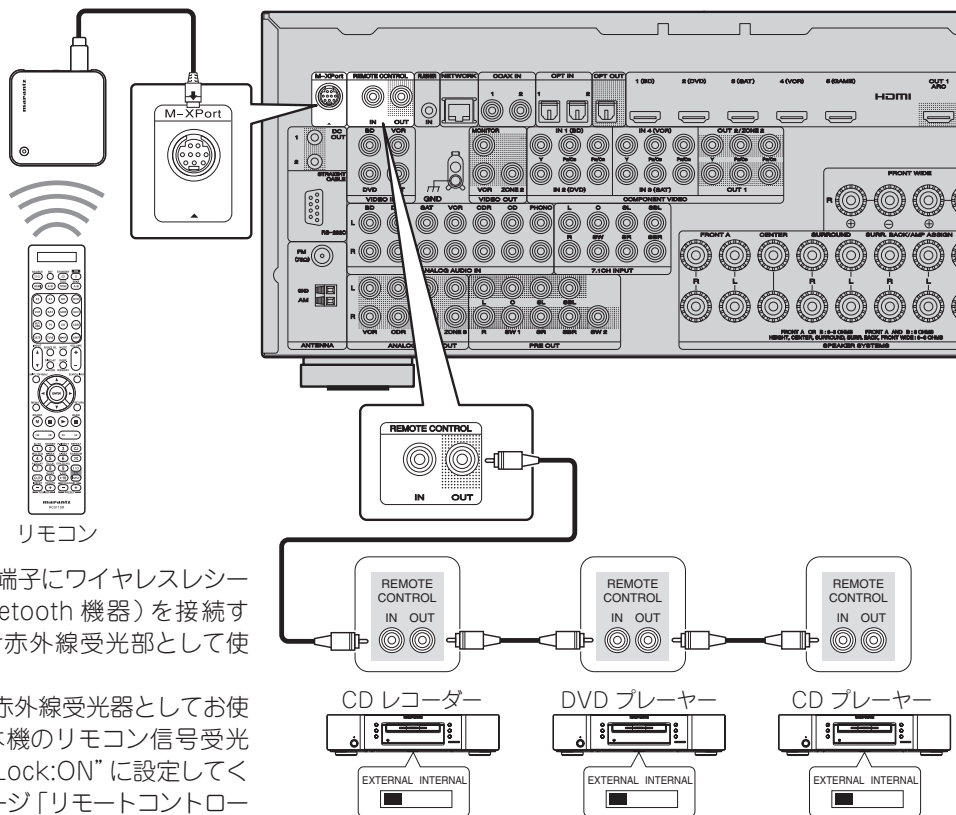
リモートコントロール端子

本機にマランツ製オーディオ機器を接続して、本機のリモコンでホームシアターシステムを集中コントロールできます。

❑接続

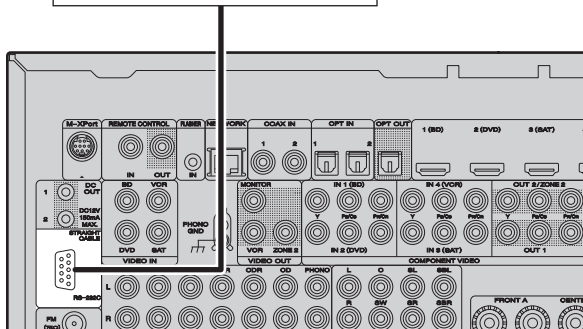
接続するマランツ製オーディオ機器に付属しているリモートケーブルで、本機のリモートコントロール出力端子と接続する機器のリモートコントロール入力端子を接続します。

❑設定

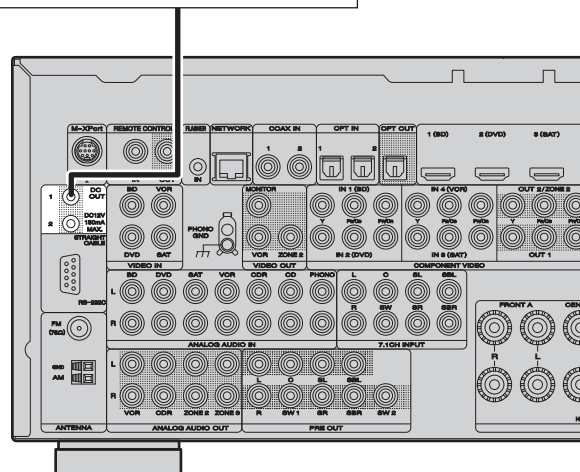
接続している機器の背面にあるリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”または“EXT.”にします。
- 接続している機器はリモコン受光部の受信を停止します。
- 接続している機器を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

本機の M-XPort 端子にワイヤレスレシーバー RX101（Bluetooth 機器）を接続することで、外付け赤外線受光部として使用できます。
RX101 を外部の赤外線受光器としてお使いになる場合、本機のリモコン信号受光機能を“Remote Lock:ON”に設定してください（☞86ページ「リモートコントロールの設定」）。

リモコンの操作ボタン	△ ▽ ◁ ▷ カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）	ENTER 設定を確定する	RETURN ひとつ前のメニューに戻る

RS-232C 端子

外部のシリアルコントローラーを接続することで、本機を制御できます。

あらかじめ次の確認をしてください。
① 本機の電源を入れる。
② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
③ 本機がスタンバイ状態になる。

DC OUT(トリガー出力)端子

本機に DC IN 端子がある機器を接続すると、本機の操作に連動させて、接続した機器の電源をオン / スタンバイすることができます。
DC OUT 端子から最大で 12V/150mA の電気信号を出力します。

必要に応じて設定してください

DC OUT1 または DC OUT2 端子の出力を連動させる条件を変更するときに設定します。
"Trigger Out 1"または**"Trigger Out 2"**(☞83 ページ)

ご注意

接続する機器のトリガー許容入力レベルが、12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、DC OUT 端子を使用できません。
このような場合は、本機の電源を切り、接続を外してください。

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI 接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定をすると、次の操作ができます。

- ❑ **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**
- ❑ **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- ❑ **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**
- ❑ **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**
- ❑ **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**

ご注意

- HDMI コントロール機能は、HDMI MONOTOR OUT1 端子のみ対応しています。HDMI コントロール機能をご使用になる場合は、テレビを HDMI MONITOR OUT 1 端子に接続してください。
- **メニューの“HDMI Control”を“ON”に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの“Power Off Control”を“OFF”(☞78 ページ)に設定している場合は、接続している機器の電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- メニューの“HDMI Control”を“ON”に設定している場合は、“Input Assign”(☞66 ページ)の設定で、“TV”に HDMI 端子を割り当てることはできません。

1 **本機の HDMI コントロール機能を有効にする。**
メニューの"HDMI Control"(☞78 ページ)を"ON"に設定してください。

2 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。**

3 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**

- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 **テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。**

5 **本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るか確認する。**

6 **テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。**

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。

- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの"HDMI Control"の設定(☞78 ページ)が"ON"になっているか。
- メニューの"Power Off Control" の設定(☞78 ページ) が"OFF"になっていないか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。
- テレビを HDMI MONITOR OUT 1 端子に接続しているか。

ご注意

以下の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。

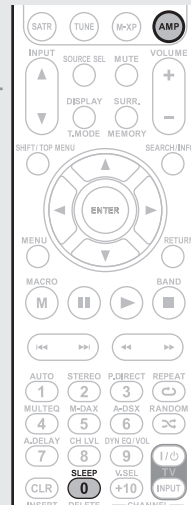
- メニューの"Input Assign"⇨"HDMI"設定(☞66 ページ)の変更
- "Monitor Out"(☞78 ページ) の設定変更
- HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

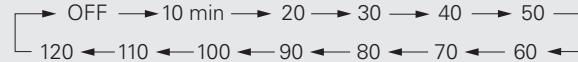
スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。
視聴しながら、おやすみになるときに便利です。

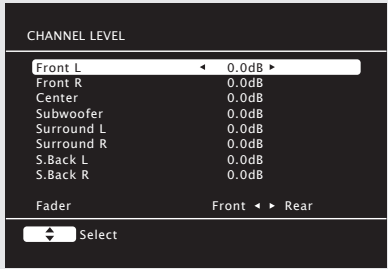
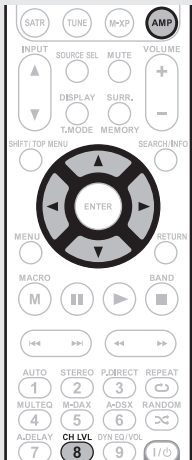
1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。**
ディスプレイの 表示が点灯します。

- 本体の **SLEEP** を押しても、リモコンと同じように操作できます。

- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が以下の順序で切り替わります。

OFF → 10 min → 20 → 30 → 40 → 50 → 60 → 70 → 80 → 90 → 100 → 110 → 120 → OFF

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、"OFF"を選ぶ。
ディスプレイの SLEEP 表示が消灯します。

- 本機の電源がスタンバイまたはオフになると、スリープタイマーの設定は解除されます。
- スリープタイマーでメインゾーンの電源が切れると、ゾーン 2 およびゾーン 3 の電源も同時に切れます。

チャンネルレベルを調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節ができます。

❑スピーカーごとにチャンネルレベルを調節する

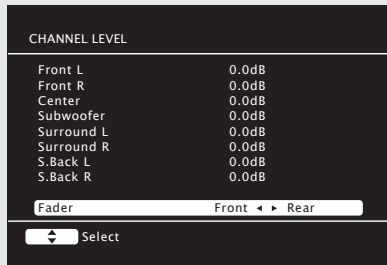
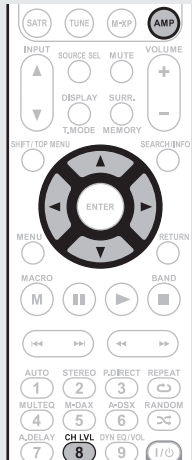
1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **CH LVL を押す。**

3 **△▽ を押して、調節するスピーカーを選ぶ。**

- ボタンを押すたびに、チャンネルが切り替わります。

4 **◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。**

- サブウーハーのチャンネルレベルを調節する場合、"–12dB" のときに ◁ を押すと、"OFF" の設定になります。

- PHONES 端子にヘッドホンプラグを挿入しているときは、ヘッドホン用のチャンネルレベルを調節できます。
- 入力モードの設定が"7.1CH IN" のときは、7.1CH INPUT 端子使用時のチャンネルレベルの調節ができます。この場合、画面上部に"7.1CH IN Level"を表示します。

❑チャンネルレベルをまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / フロントハイトスピーカー / フロントワイドスピーカー / センタースピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のスピーカーのチャンネルレベルをまとめて調節（減衰）します。

1 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

2 **CH LVL を押す。**

3 **▽ を押して"Fader" を選び、◁ ▷ を押して調節するチャンネル（"Front"または"Rear"）を選ぶ。**

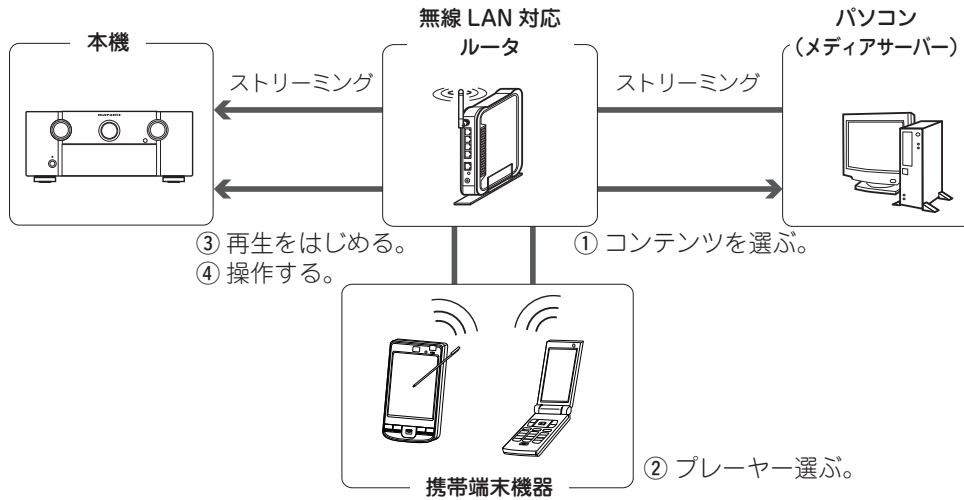
4 **◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。**
（◁：フロント側、▷：リア側）

- 一番小さい値に調節されているチャンネルレベルが、–12dB になるまで調節できます。

フェーダー機能は、サブウーハーチャンネルにははたらきません。

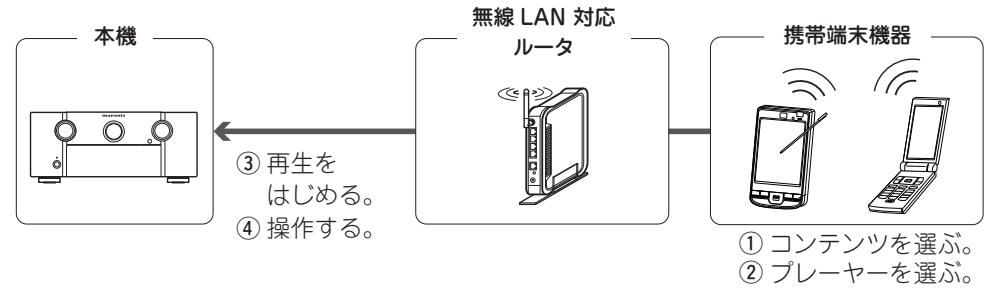
無線 LAN 対応の携帯端末機器を操作して音楽や静止画像などを再生する

- DLNA（Digital Living Network Alliance）に準拠した無線 LAN 対応の携帯端末機器を使用します。
- 携帯端末機器を操作して、同じネットワーク上のパソコン（メディアサーバー）や携帯端末機器内のコンテンツを再生することができます。
- 携帯端末機器での操作には、2 種類の方法があります。

❑パソコン（メディアサーバー）内のコンテンツを再生する

1 **携帯端末機器から、同じネットワーク内にあるメディアサーバーをブラウズして、再生したいコンテンツを選ぶ。**

2 **携帯端末機器から、ネットワーク内にある製品の中から本機を選ぶ。**
手順 1 で選んだコンテンツの再生をはじめます。

- 携帯端末機器から本機を選択する際に、本機の名称を “Friendly Name” で表示します（☞80 ページ “Friendly Name Edit”）。
- 携帯端末機器からは以下の操作ができます。
  - ファイル操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）
  - 再生モード設定（リピート / ランダム）
  - 音量操作

❑携帯端末機器内のコンテンツを再生する

1 **携帯端末機器の中から再生したいコンテンツを選ぶ。**

2 **携帯端末機器から、ネットワーク内にある製品の中から本機を選ぶ。**
手順 1 で選んだコンテンツの再生をはじめます。

- 携帯端末機器から本機を選択する際に、本機の名称を “Friendly Name” で表示します（☞80 ページ “Friendly Name Edit”）。
- 携帯端末機器からは以下の操作ができます。
  - ファイル操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）
  - 再生モード設定（リピート / ランダム）
  - 音量操作

- 携帯端末機器から操作中は、メニュー画面に を表示します。
- 各設定や操作方法については、ご使用になる携帯端末機器の取扱説明書をご覧ください。
- 携帯端末機器から本機を選択する際に、本機の名称を “Friendly Name” で表示します。“Friendly Name” は、他の機器と区別しやすいように、“Friendly Name Edit”（☞80 ページ）でお好みの名前に編集することができます。
- 携帯端末機器から再生を開始する際に、本機は自動的に入力ソースを “NET/USB” に切り替えます。また、“Network Standby” の設定（☞80 ページ）が “ON” のときは、自動的に電源が入ります。

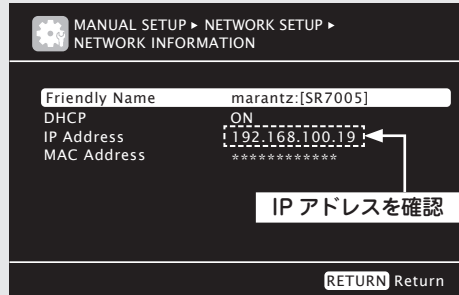
ご注意

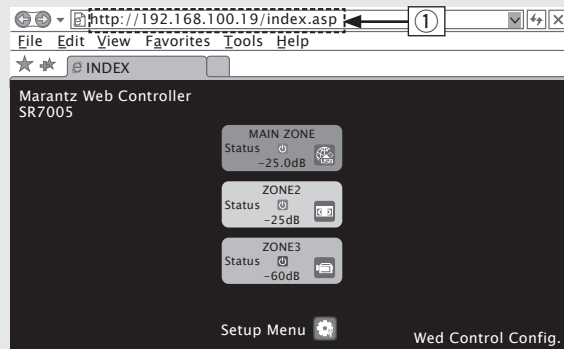
携帯端末機器から操作中に、本機でブラウズや再生に関する操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）をおこなうと、携帯端末機器との接続が切断されます。

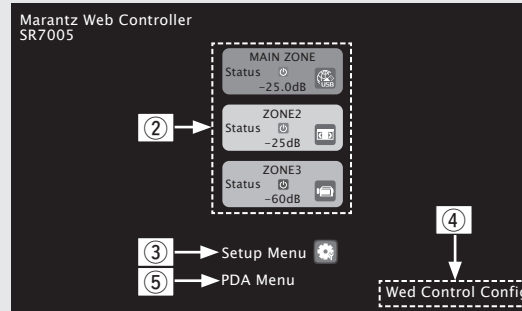
ウェブコントロール機能

ブラウザを使用して、本機を操作することができます。

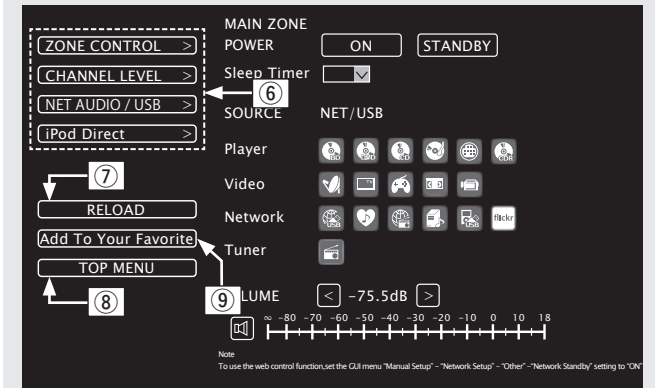
1 “Network Standby”の設定を“ON”にする（☞80ページ）。

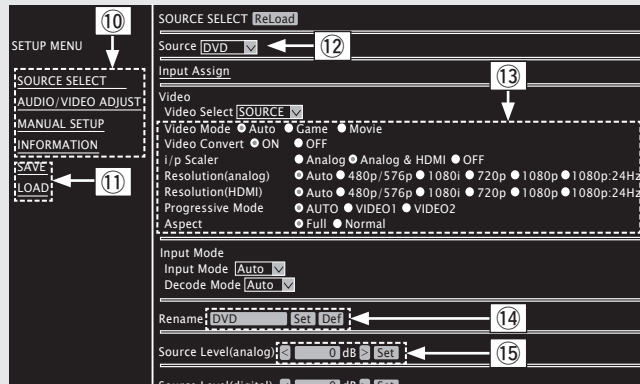
2 “Network Information”で、本機のIPアドレスを確認する（☞81ページ）。

3 ブラウザのアドレスに、本機のIPアドレスを入力する。

例えば、本機のIPアドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19”と入力してください。

① IPアドレスを入力

4 トップメニューが表示されたら、操作したいメニューをクリックする。

② 各ゾーンを操作するときにクリックします（☞【例1】）。
③ セットアップメニューを操作するときにクリックします（☞【例2】）。
④ ウェブコントロール画面の設定を変更するときにクリックします（☞【例3】）。
⑤ PDA端末など小画面で操作するときにクリックします（☞【例4】）。

5 操作する。

【例1】メインゾーンコントロール画面

⑥ 各操作をおこなうときにクリックします。
各操作画面になります（☞【例5】）。
⑦ 最新の情報に更新するときにクリックします。
通常は操作するたびに、最新の情報に切り替わります。本体側で操作された場合は、画面は更新されませんので、クリックしてください。
⑧ トップメニューに戻るときにクリックします。
【例3】で“Top Menu Link Setup”を“ON”に設定すると、表示されます。
⑨ ブラウザの「お気に入り」に登録するときにクリックします。
誤って、操作していないゾーンのメニュー操作をおこなわないように、ゾーンごとに設定画面をブラウザのお気に入りなどに登録することをおすすめします。

【例 2】セットアップメニュー画面

⑩ 設定したいメニューをクリックします。
右側の表示が各設定画面になります。

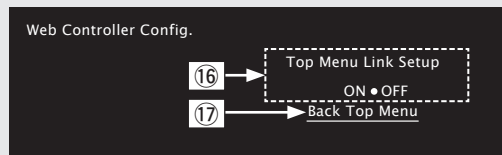
⑪ 設定を保存するときには“SAVE”、設定を呼び出すときには“LOAD”をクリックします。
各操作画面になります。

⑫ “ v ”をクリックして表示される項目から選びます。

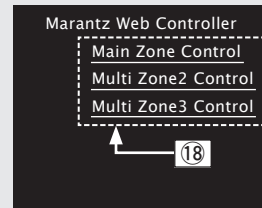
⑬ 設定項目をクリックして確定します。

⑭ 文字を入力した後、確定するときに“Set”、初期設定に戻すときに“Def”をクリックします。

⑮ 数値を入力するか、“<”または“>”をクリックして設定後、“Set”をクリックします。

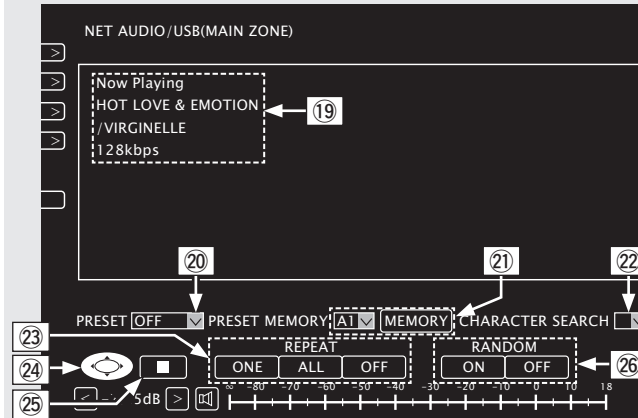
【例 3】ウェブ構成画面

⑯ トップメニューのリンク設定をするときに“ON”をクリックします。
設定すると、各操作画面からトップメニューに戻れます。
（お買い上げ時の設定：“OFF”）

⑰ トップメニューに戻るときに、クリックします。

【例 4】PDA メニュー画面

⑱ 各ゾーンを操作するときに選ぶ。

ご注意

PDA メニュー画面では、セットアップメニュー操作やゾーン名の変更はできません。

【例 5】ネットワークオーディオ操作画面

⑲ 操作したいメニューをクリックします。

⑳ “ v ”をクリックして、再生したいプリセットチャンネルを選びます。

㉑ プリセット登録する場合に、“ v ”をクリックして登録したいチャンネルを選択し、“MEMORY”をクリックします。

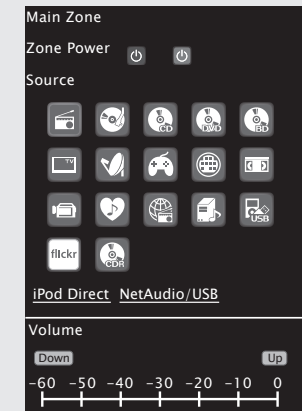
㉒ 頭文字で検索する場合に、“ v ”をクリックして表示される文字から選びます。

㉓ リピート再生時にクリックします。

㉔ メニューを選択するときにクリックします。

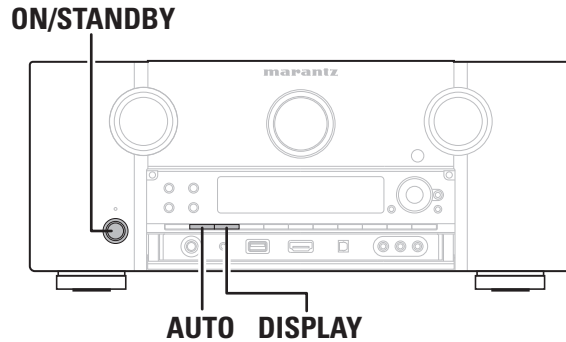
㉕ 再生を停止するときにクリックします。

㉖ ランダム再生時にクリックします。

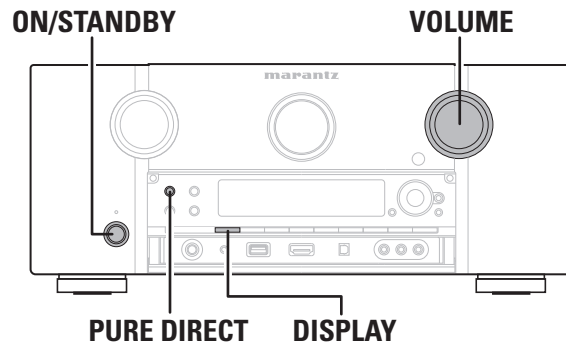
【例 6】iPod Touch 専用画面

• iPod Touch のブラウザからアクセスすると、最適化された操作画面が表示されます。

フロントキーロック機能

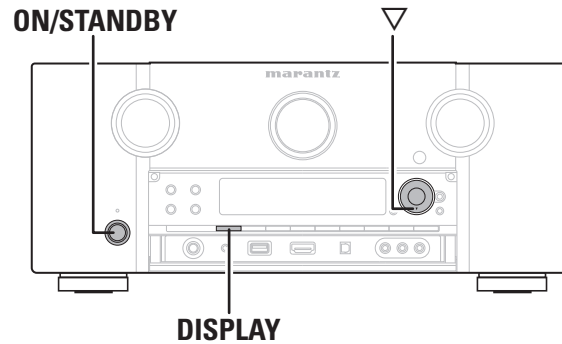
本機を誤って操作してしまうことを防ぐために、フロントパネルのボタン操作を無効にすることができます。

❑すべてのボタン操作を無効にする

本機の電源がスタンバイ状態のときに、AUTO と DISPLAY を押しながら、ON/STANDBY を押す。

ディスプレイに"Panel Lock:ON" を表示し、**ON/STANDBY** 以外のボタン操作が無効になります。

❑VOLUME 以外のすべてのボタン操作を無効にする

本機の電源がスタンバイ状態のときに、PURE DIRECT と DISPLAY を押しながら、ON/STANDBY を押す。

ディスプレイに"Panel Lock:ON" を表示し、**ON/STANDBY** および **VOLUME** 以外の操作が無効になります。

❑フロントキーロック機能を解除する

本機の電源がスタンバイ状態のときに、▽ と DISPLAY を押しながら、ON/STANDBY を押す。

フロントキーロック機能を解除します。

フロントキーロック機能の設定が有効でも、リモコンによる操作は可能です。

各種メモリー機能

❑パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容（入力モード、HDMI 出力モード、サラウンドモード、MultEQ® XT、Dynamic EQ®、Dynamic Volume® やオーディオディレイなど）を入力ソースごとに記憶します。

サラウンドパラメーター、トーンコントロールの設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

❑ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。

再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

ゾーン 2/ ゾーン 3（別の部屋）での再生

- 本機を操作してメインゾーン（本機のある部屋）以外の部屋（ゾーン 2、ゾーン 3）で、音声を楽しむことができます。
- メインゾーンとゾーン 2 およびゾーン 3 で同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。

音声出力

マルチチャンネル再生をおこなうメインゾーン以外の他の部屋で 2 チャンネルの音声を再生することができます。次の 2 通りの方法があります。いずれかを選んでください。
① スピーカー出力によるゾーン再生
② 音声出力によるゾーン再生（PRE OUT）
　外部アンプを使用します。

① スピーカー出力によるゾーン再生

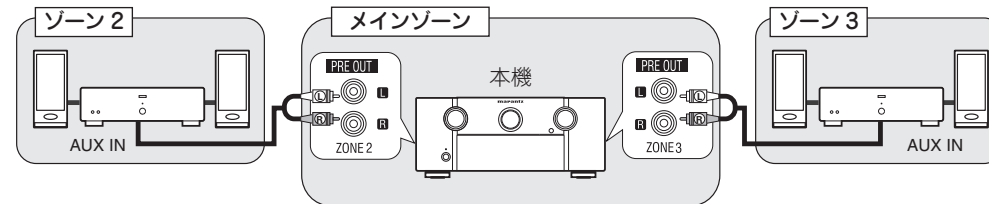
アンプアサイン機能により、本機の SURR. BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子からゾーン 2 およびゾーン 3 の音声を出力します。

❑スピーカーの接続と設定

	"Amp Assign"の設定（☞75 ページ）と出力する音声信号		スピーカーを接続する
ゾーン 2	ZONE2	出力信号： ステレオ（L/R）	SURR. BACK/AMP ASSIGN ZONE2 (L) (R)
ゾーン 3	ZONE3	出力信号： ステレオ（L/R）	SURR. BACK/AMP ASSIGN ZONE3 (L) (R)

② 音声出力によるゾーン再生 (PRE OUT)

❑音声接続（ゾーン 2、ゾーン 3）

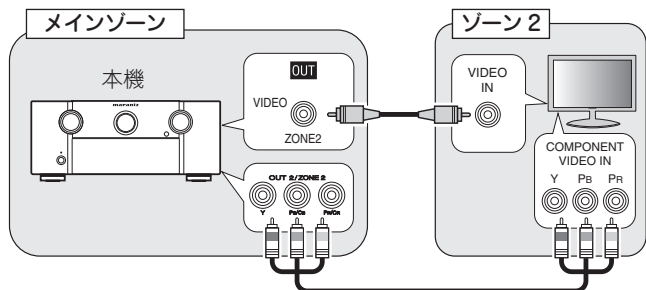
本機のゾーン 2 およびゾーン 3 の音声出力端子の音声をゾーン 2 およびゾーン 3 のアンプに出力し、そのアンプで再生します。

音声の接続については、雑音が発生しないように高品質のピンプラグケーブルのご使用をおすすめします。

ご注意

- デジタル入力端子（OPTICAL/COAXIAL）を割り当てた入力ソースをゾーン 2 またはゾーン 3 で選択した場合、入力されたデジタル信号が PCM（2 チャンネル）のときだけ再生します。
- ゾーン 2、ゾーン 3 では、HDMI 端子から入力されたデジタル音声信号は再生できません。ゾーン 2 およびゾーン 3 再生はアナログ接続をしてください。
- デジタル信号が入力されている場合、ゾーン 2 とゾーン 3 のオーディオ出力端子から雑音が出力されることがあります。
- メニュー画面は出力されません。

ビデオ出力

映像接続

本機のゾーン 2 映像出力の映像をゾーン 2 のテレビで再生します。

ご注意

- HDMI 端子から入力した映像をゾーン 2 に出力することはできません。
- コンポーネント出力端子 2 をゾーン 2 のビデオ信号出力用としてご使用の場合は、メニューの"Manual Setup" ⇨ "Option Setup"⇨"Component2 Output"(☞83 ページ)を"ZONE2"に設定してください。
- メニュー画面は出力しません。

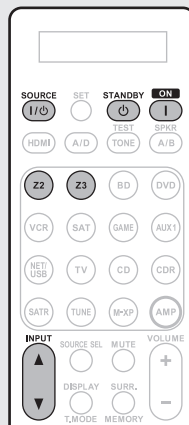
再生のしかた

1 Z2 または Z3 を押して、ゾーン操作モードを"ZONE2" または"ZONE3"に切り替える。

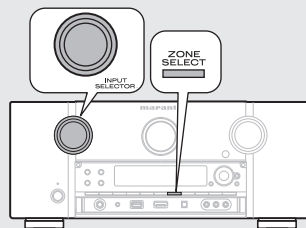
リモコンの操作モードがゾーン 2 またはゾーン 3 に切り替わります。

2 ON を押して、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源を入れる。

Z2 または Z3 表示が点灯します。

- **STANDBY** を押すと、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源がオフになります。
- **SOURCE** を押しても、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオン / オフすることができます。

3 INPUT ▲▼ を押して、再生する入力ソースを選ぶ。

選択した入力ソースの音声を、ゾーン 2 またはゾーン 3 より出力します。

- 本体の **ZONE SELECT** を押した後に **INPUT SELECTOR** を回しても、入力ソースの選択ができます。

メインゾーンとゾーン 2 またはメインゾーンとゾーン 3 の両方の電源がオンのときにメインゾーンの電源だけをオフにすることができます。手順 1 の操作で"AMP" を選んでから **STANDBY** を押してください。

音量の調節

VOLUME を押して、音量を調節する。

【 調節できる範囲 】 – – – –80dB ~ –40dB ~ 18dB

(メニューの"Volume Display" の設定(☞82 ページ) が、"Relative"のとき)

【 調節できる範囲 】 0 ~ 41 ~ 99

(メニューの"Volume Display" の設定(☞82 ページ) が、"Absolute"のとき)

- お買い上げ時は、"Volume Limit" (☞81 ページ)を"-10dB (71)"に設定しています。

本体の **ZONE SELECT** を押した後に **VOLUME** を回しても、音量を調節することができます。

一時的に音を消す(ミューティング)

MUTE を押す。

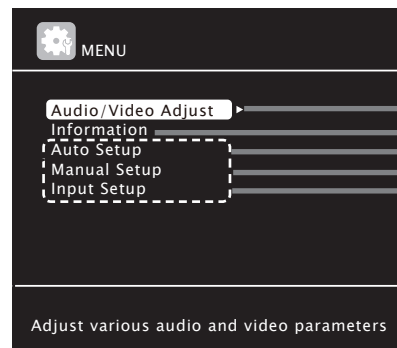
メニューの"Mute Level"(☞81 ページ)で設定したレベルまで音量が減衰します。

- ミューティングを解除するときは、もう一度 **MUTE** を押してください。
- 音量を調節したり、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオフにしても解除できます。

メニューの"Zone Setup"(☞81 ページ)の設定で、ゾーン 2 およびゾーン 3 のトーンや音量を調節することができます。

詳細設定のしかた

メニュー一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
メニューの操作のしかたは、右記の参照ページをご覧ください。

一度だけ設定すればよい項目

お買い上げ時などに設定してください。
一度設定していただくと、接続するスピーカーやスピーカーの設置を変更しない限り、設定の必要がありません。

設定項目	詳細項目	内容	参照ページ
1. Audio/Video Adjust AUDIO/VIDEO ADJUST Audio Adjust Picture Adjust	**Audio Adjust**	音声を調節します。	70
	Picture Adjust	画質を調節します。	74
2. Information INFORMATION Status Audio Input Signal HDMI Information Preset Channel	**Status**	現在の設定状態を表示します。	85
	Audio Input Signal	音声入力信号の情報を表示します。	85
	HDMI Information	HDMI の入出力信号やテレビの情報を表示します。	85
	Preset Channel	チューナーまたはネットワークのプリセットチャンネル情報を表示します。	85
3. Auto Setup AUTO SETUP Audyssey Auto Setup Parameter Check	**Audyssey Auto Setup**	ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。	10
	Parameter Check	Audyssey Auto Setup の測定結果を確認します。 この項目は、Audyssey Auto Setup をおこなった後に表示します。	14
4. Manual Setup MANUAL SETUP Speaker Setup HDMI Setup Audio Setup Network Setup Zone Setup Option Setup	**Speaker Setup**	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	75
	HDMI Setup	HDMI の映像 / 音声出力に関する設定をします。	78
	Audio Setup	音声の再生に関する設定をします。	79
	Network Setup	ネットワークに関する設定をします。	79
	Zone Setup	ゾーン2 / ゾーン 3 で再生する音声の設定をします。	81
	Option Setup	その他の設定をします。	82
5. Input Setup （例：TUNER） INPUT SETUP Auto Preset Preset Skip Preset Name Video Input Mode Rename Source Level	**Auto Preset**	自動で FM 放送局をプリセットします。	65
	Preset Skip	選局するとき、スキップしたい放送局をあらかじめ設定します。	65
	Preset Name	プリセットした放送局の表示名を変更します。	65
	Input Assign	入力端子の割り当てを変更します。	66
	Video	映像の設定をします。	67
	Input Mode	入力モードとデコードモードを設定します。	68
	Rename	選択した入力ソースの表示名を変更します。	68
	Source Level	音声入力の再生レベルを補正します。	68
	Playback Mode	iPod や USB メモリー、ネットワークソースの再生に関する設定をします。	69
	Still Picture	静止画像の再生に関する設定をします。	69

"Input Setup" メニューは、選択している入力ソースによって、表示内容が異なります。

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について、代表的な例を説明します。

	テレビ画面	ディスプレイ	説　明
トップメニューの表示	MENU Audio/Video Adjust Information Auto Setup Manual Setup Input Setup Adjust various audio and video parameters	*MENU A/V Adjust	❶ メニュー項目を表示します。 ❷ テレビ画面：選択中の行を示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 •テレビ画面で、設定した項目に移動させるときは、△▽を押します。
設定を変更するときの表示	INPUT SETUP ▸ INPUT ASSIGN Change HDMI input connector assignment **ENTER** を押す。 INPUT SETUP ▸ INPUT ASSIGN Assign HDMI 1 input connector	*Input Assign BD [HDMI1] **ENTER** を押す。 *Input Assign BD ◀HDMI1 ▶	❶ △▽◁ ▷を押すと、設定したい項目に移動します。 ❷ **ENTER**を押して、設定したい項目を選びます。 ❸ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に ◀ ▶ を表示します。◁ ▷を押して、設定を変更します。
文字を入力するときの表示	INPUT SETUP ▸ RENAME DVD Default	*Rename:DVD DVD	❶ ◁ ▷を押すと、カーソルが左右に移動します。 ❷ 入力したい位置で△▽を押すと、文字の入力ができます。 キーボード画面での文字入力や、リモコンの数字ボタンでの文字入力方法は、63 ページをご覧ください。
お買い上げ時の設定に戻すときの表示	INPUT SETUP ▸ RENAME DVD Default	*Rename Default **ENTER** を押す。 *Rename Default? :◀No	❶ ▽を押して“Default”を選び、**ENTER**を押して設定します。 ❷ ◁を押して“Yes”を選び、**ENTER**を押します。

文字入力について

本機は、以下の画面表示名をお好みに合わせて変更することができます。

- “Preset Name”（☞65 ページ）
- “Rename”（☞68 ページ）
- “Zone Rename”（☞83 ページ）

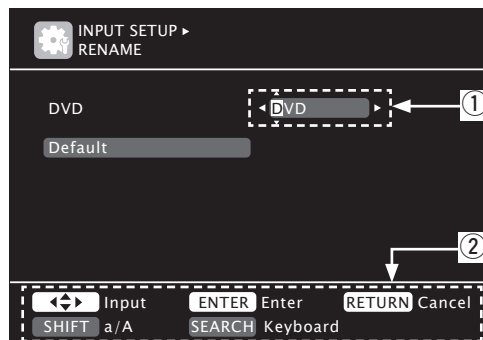
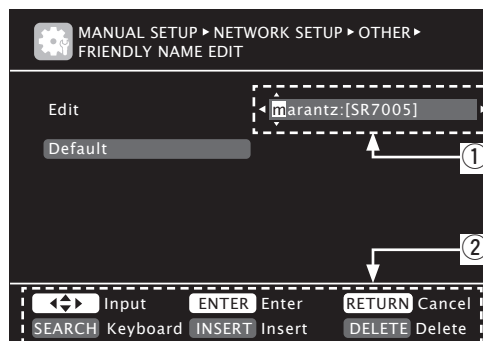
文字の入力には、次の3通りの方法があります。

文字入力方式の種類

入力方式	操作の概要
カーソルボタンで入力する（ノーマル画面）	• リモコンまたは本体で操作します。 • △▽◁ ▷と **ENTER** で文字を入力します。
キーボード画面で入力する	• リモコンで操作します。 • テレビ画面に表示される文字を選んで、文字を入力します。

ノーマル画面入力方式

❑ノーマル入力画面の表示

【Rename / Zone Rename】

【テキスト検索 /Proxy Name/Friendly Name Edit】

① 文字入力部
② 操作ボタンガイド

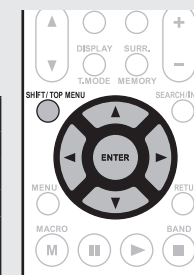
カーソルボタンで入力する

1 文字の入力をおこなう画面を表示する（☞61 ページ「メニュー 一覧」）。

2 ◁ ▷ を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。

3 △▽ を押して文字を変更し、**ENTER** を押す。

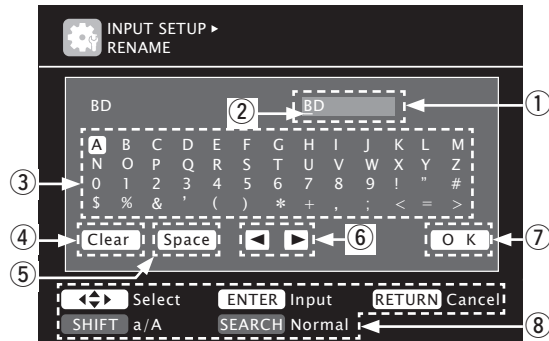
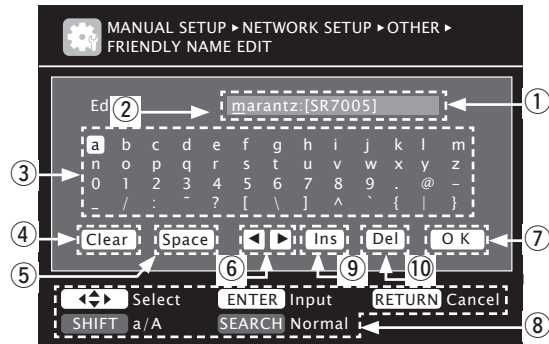
• 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字】	ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
【英小文字】	abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
【記号】	! “ # $ % & ‘ ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` {	} ˜
【数字】	0123456789（空白）

• 文字を入力中に **SHIFT/TOP MENU** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

4 手順 2、3 をくり返して名前を変更し、**ENTER** を押して **ENTER** を押して入力した文字を確定する。

キーボード画面入力方式

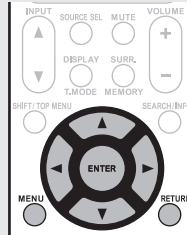
❏キーボード入力画面の表示

【Rename / Zone Rename】

【テキスト検索 /Proxy Name/Friendly Name Edit】

① 文字入力部
② カーソル
③ キーボード部
④ クリアーキー
⑤ スペース入力キー
⑥ カーソル移動キー
⑦ OKキー
⑧ 操作ボタンガイド
⑨ 挿入キー
⑩ 削除キー

1 文字の入力をおこなう画面を表示する（☞61 ページ「メニュー 一覧」）。

2 ノーマル入力画面表示中に、**SEARCH/INFO** を押す。
キーボード入力画面に切り替わります。

3 変更したい文字を選ぶ。

① △▽◁ ▷ を押して ◀ または ▶ を選ぶ。
② **ENTER** を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。
ENTER を押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ移動します。

4 △▽◁ ▷ を押して、入力したい文字を選び、**ENTER** を押す。

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字 / 数字 / 記号】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
0123456789
! “ # $ % & ’ ( ) * + , ; < = >
【英小文字 / 数字 / 記号】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
0123456789
. @ - _ / : ˜ ? [\ ] ^ ` { l }

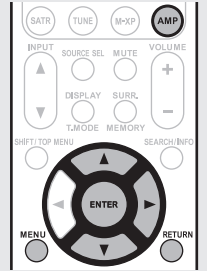
- 文字を入力中に **SHIFT/TOP MENU** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

5 手順 3、4 をくり返して、名前を変更する。

6 △▽◁ ▷ を押して O K を選び、**ENTER** を押す。

入力の設定（Input Setup）

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
- 設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

2 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

知っておいてほしいこと

❏本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。

BD **DVD** **VCR** **SAT** **GAME** **AUX1** **NET/USB** **TV**
CD **CDR** **PHONO** **TUNER** **M-XPort**

ご注意

メニューの“Source Delete”（☞82 ページ）で、“Delete”に設定した入力ソースは選べません。

“Input Setup”でできること

Auto Preset（☞65 ページ） Preset Skip（☞65 ページ） Preset Name（☞65 ページ）

Input Assign（☞66 ページ） Video（☞67 ページ） Input Mode（☞68 ページ）

INPUT SETUP ▸
INPUT ASSIGN

Default	[HDMI]	[DIGITAL]	[COMP]
BD	HDMI1	None	1-RCA
DVD	HDMI2	Coax1	2-RCA
VCR	HDMI4	None	4-RCA
SAT	HDMI3	Coax2	3-RCA
GAME	HDMI5	None	None
AUX1	HDMI6	Opt3	None
TV	None	Opt1	None

Select ENTER Enter RETURN Return
Change HDMI input connector assignment

INPUT SETUP ▸
VIDEO

Video Select	◂ Source ▸
Video Mode	Auto
Video Convert	ON
i/p Scaler	Analog & HDMI
Resolution(Analog)	Auto
Resolution(HDMI)	Auto
Progressive Mode	Auto
Aspect	Full

RETURN Return
Select desired video input source

INPUT SETUP ▸
INPUT MODE

Input Mode	◂ Auto ▸
Decode Mode	Auto

RETURN Return
Automatically detect input signal and playback

Rename（☞68 ページ） Source Level（☞68 ページ） Playback Mode（☞69ページ）

Still Picture（☞69 ページ）

Auto Preset

自動で FM 放送を選局し、プリセットします。

設定項目	設定内容
Start FM 放送の選局をはじめます。 **TUNER**	“Auto Preset” でお好みの FM 放送を選局できない場合は、「手動でラジオ放送を選局しプリセットする（マニュアルプリセット）」（☞33 ページ）でお好みの放送を選局してください。

Preset Skip

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選局するとき、スキップしたい放送局をあらかじめ設定します。

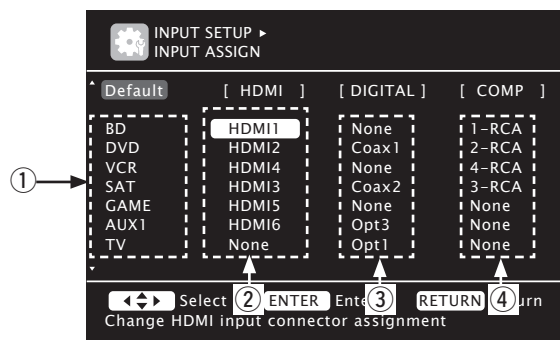
設定項目	設定内容
A～G プリセットしたブロックの中から、スキップしたいブロック（A～G）を選びます。 **TUNER**	**1～8**：選択したブロックの中で、スキップしたいチャンネルを設定します。 • **<u>ON</u>**：選択したチャンネルを表示します。 • **Skip**：選択したチャンネルを表示しません。 選択したブロックを “Skip” に設定すると、ブロック（A～G）ごとにスキップすることができます。

Preset Name

プリセットした放送局の表示名を変更します。

設定項目	設定内容
A1～G8 選択したチャンネルの表示名を変更します。 **TUNER**	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、63 ページをご覧ください。
Default 変更されたプリセット名を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

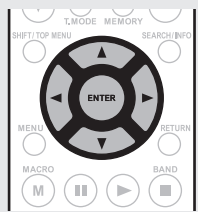
Input Assign

“Input Assign”メニュー画面の表示例

① 入力ソース
② HDMI入力
③ デジタル音声入力
④ コンポーネントビデオ入力

“Input Assign”メニューの操作のしかた

1 △▽◁ ▷ を押して、設定したい項目へカーソルを移動させ、**ENTER** を押す。

2 ◁ ▷ を押して、入力端子を割り当てる。

3 **ENTER** を押して、設定を確定する。

ご注意

Game ソースの“HDMI”、“Digital” および“Component” の割り当てをすべて“None” に設定すると、入力ソースの切り替えで Game ソースが選べなくなります。

設定項目	設定内容
HDMI 入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。 BD / DVD / VCR / SAT / GAME / AUX1 / TV	**HDMI 1**/**HDMI 2**/**HDMI 3**/**HDMI 4**/**HDMI 5**/**HDMI 6**：選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	VCR	SAT	GAME	AUX1	TV
お買い上げ時の設定	HDMI 1	HDMI 2	HDMI 4	HDMI 3	HDMI 5	HDMI 6	None

設定項目	設定内容
HDMI （つづき）	✎ • HDMI 入力端子の割り当てができない入力ソースには、“---” を表示します。 • “HDMI” で割り当てた映像信号と、メニューの“Input Assign” ⇨ “Digital” で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、“Input Mode”（☞68 ページ）を “Digital”に設定してください。 • アナログ端子およびデジタル端子から入力された音声信号は、テレビに出力しません。 • メニューの“HDMI Control”（☞78ページ）を“ON”に設定している場合は、“TV”に“HDMI”を割り当てることはできません。
Digital 入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。 BD / DVD / VCR / SAT / GAME / AUX1 / TV / CD / CDR	**Coax1～2**（同軸デジタル入力端子）/**Opt1～3**（光デジタル入力端子）：選択した入力ソースに、いずれかのデジタル入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	VCR	SAT	GAME
お買い上げ時の設定	None	Coax 1	None	Coax 2	None

入力ソース	AUX1	TV	CD	CDR
お買い上げ時の設定	Opt 3	Opt 1	Opt 2	None

設定項目	設定内容
Component 入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ入力端子を変更するときに設定します。 BD / DVD / VCR / SAT / GAME / AUX1 / TV	**1-RCA**/**2-RCA**/**3-RCA**/**4-RCA**（コンポーネントビデオ入力端子）：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	VCR	SAT	GAME	AUX1	TV
お買い上げ時の設定	1-RCA	2-RCA	4-RCA	3-RCA	None	None	None

✎
コンポーネントビデオ入力端子の割り当てができない入力ソースには、“– – –”を表示します。

設定項目	設定内容
Default “Input Assign”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 ✎ “Default”を選んで **ENTER** を押すと“, Default Setting?” というメッセージが表示されますので、“Yes” または“No” を選び、**ENTER** を押してください。

Video

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像に関する設定をします。

＊ “TV”および“GAME”は、各入力ソースに“HDMI”（☞66ページ）または“Component”（☞66ページ）を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容
Video Select 今聞いている音声に、好きな映像を組み合わせて再生します。	**<u>Source</u>**：入力ソースの映像と音声を再生します。 **BD** / **DVD** / **VCR** / **SAT** / **GAME** / **AUX1** / **TV**：見たい映像の入力ソースを選びます。今聞いている音声に、選択した入力ソースの映像を組み合わせて再生します。入力ソースごとに設定できます。 “TV”および“GAME”は、各入力ソースに“Component”を割り当てているときのみ選べます。 ご注意 • HDMI 入力信号は選べません。 • メニューの“Source Delete”（☞82 ページ）で、“Delete”に設定した入力ソースは選べません。 • リモコンの **V.SEL** を押しても操作できます。
Video Mode 映像処理の設定をします。 BD DVD VCR SAT GAME＊ AUX1 TV＊	**<u>Auto</u>**：HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。 **Movie**：通常の映像処理をおこないます。 **Game**：ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。 • “Video Mode”の設定が“Auto”の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。 • 同じ部屋でメインゾーン（音声と映像）とゾーン 2（音声のみ）の両方を使用して同じソースを再生すると、メインゾーンの音声とゾーン 2 の音声の出力のタイミングがずれて聞こえることがありますが、故障ではありません。このような場合は、“Game” モードに設定すると、タイミングのずれを少なく抑えることができます。
Video Convert 入力された映像信号を、接続されたテレビに合わせて自動的に変換します（☞17ページ「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」）。 BD DVD VCR SAT GAME＊ AUX1 TV＊	**<u>ON</u>**：入力された映像信号を変換します。 **OFF**：入力された映像信号を変換しません。 • ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このような場合は、“Video Convert”を“OFF”に設定してください。 • “Video Convert”を“OFF”に設定すると、ビデオコンバージョン機能ははたらきませんので、本機とテレビの接続に同じ種類の映像ケーブルを使用してください。

設定項目	設定内容
i/p Scaler 入力ソースの解像度を、設定した解像度に変換します。 BD DVD VCR SAT GAME＊ AUX1 NET/USB TV＊	**<u>Analog</u>**：アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **Analog & HDMI**：アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号の両方に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **HDMI**：HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。 **OFF**：i/p スケーラー機能を使用しません。 • “Analog & HDMI”および“HDMI”は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。 • 各入力端子が割り当てられている入力ソースによって、設定項目が異なります。 • i/p スケーラー機能は、入力された信号が x.v.Color、3D、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601 color およびコンピュータ解像度のときは効果がありません。
Resolution 出力する解像度を設定します。 Resolution（Analog）：アナログ映像の解像度 Resolution（HDMI）：HDMI 映像の解像度 BD DVD VCR SAT GAME＊ AUX1 NET/USB TV＊	**<u>Auto</u>**：HDMI 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。 **480p**/**576p**/**1080i**/**720p**/**1080p**/**1080p:24Hz**：出力したい解像度を選びます。 • “i/p Scaler”の設定が“OFF”以外のときに設定できます。 • “i/p Scaler”の設定が“Analog & HDMI”のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。 • 1080p/24Hz の映像をお楽しみいただくときは、1080p/24Hz の映像信号に対応しているテレビを使用してください。 • “1080p:24Hz”に設定すると、フィルムソース（24Hz）のときに、フィルムライクな映像を楽しむことができます。ビデオソースやミックスソースの場合は、“1080p”に設定することをおすすめします。 • 50Hz の信号を 1080p/24Hz へ変換することはできません。1080p/50Hz の解像度で出力します。
Progressive Mode 映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。 BD DVD VCR SAT GAME＊ AUX1 TV＊	**<u>Auto</u>**：映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。 **Video1**：ビデオ素材の再生に適しています。 **Video2**：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。 “i/p Scaler”の設定が“OFF”以外のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Aspect HDMI 端子へ出力する、映像信号のアスペクト比（縦横比）を設定します。 BD DVD VCR SAT GAME* AUX1 NET/USB TV*	**Full**：16：9 のアスペクト比で出力します。 **Normal**：4：3 のアスペクト比で出力します。 i/p Scaler"の設定が"OFF"以外のときに設定できます。

＊ "TV"および"GAME"は、各入力ソースに"HDMI"（☞66 ページ）または"Component"（☞66 ページ）を割り当てているときに設定できます。

Input Mode

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目	設定内容
Input Mode 各入力ソースの音声入力モードを設定します。	**Auto**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI**：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Digital**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Analog**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 **7.1CHI IN**：7.1CH INPUT 端子から入力された信号のみ再生します。 • リモコンの **A/D** を押しても操作できます。 • **A/D** を押すたびに、次のように切り替わります。 Auto → HDMI → Digital → Analog → 7.1CH IN • "HDMI"は、メニューの"Input Assign"（☞66 ページ）で"HDMI"を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • "Digital"は、メニューの"Input Assign"（☞66 ページ）で"Digital"を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 入力ソースが"TV"および"Game"のときは、"Analog"に設定できません。 • デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの DIG. 表示が点灯します。DIG. 表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当て（"Input Assign"（☞66 ページ））や接続を確認してください。 • 入力モードで"7.1CH IN"を選択すると、サラウンドモードの設定はできません。 • メニューの"HDMI Control"の設定が"ON"で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソース"TV"の入力モードは ARC 固定になります。

設定項目	設定内容
Decode Mode 各入力ソースのデコードモードを設定します。 BD DVD VCR SAT GAME AUX1 TV CD CDR	**Auto**：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 • メニューの"Input Assign"（☞66、66 ページ）で"HDMI"または"Digital"に割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 通常は、"Auto"に設定してください。"PCM"や"DTS"は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

Rename

選択した入力ソースの表示名を変更します。

設定項目	設定内容
Rename 選択した入力ソースの表示名を変更します。	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、63 ページをご覧ください。
Default 変更した入力ソース名を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

Source Level

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容
-12dB～+12dB（0dB）

メニューの"Input Assign"の設定（☞66 ページ）で、"HDMI"または"Digital"を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。

Playback Mode

リピート再生やランダム再生の設定をします。

設定項目	設定内容
Repeat リピート再生モードを設定します。 NET/USB	**All**：すべての曲をリピート再生します。 **One**：再生中の曲をリピート再生します。 **Folder**：再生中のフォルダの中の曲をリピート再生します。
Random ランダム再生モードを設定します。 NET/USB	**ON**：ランダム再生モードを有効にします。 **OFF**：ランダム再生モードをキャンセルします。

Still Picture

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

静止画像の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Slide Show スライドショーの設定をします。 NET/USB	**ON**：静止画像を順番に表示します。 **OFF**：選択した静止画像のみを表示します。
Interval 画像 1 枚あたりの再生時間を設定します。 NET/USB	**5sec～60sec（5sec）**

音声や映像を調整する（Audio/Video Adjust）

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目（パラメーター）は、再生している信号や選択しているサラウンドモードによって異なります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞100ページ）をご覧ください。

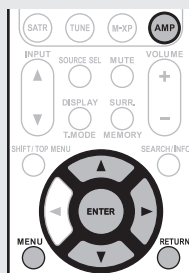
メニューの操作のしかた

1 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

2 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

"Audio/Video Adjust"でできること

Audio Adjust

調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞100ページ）をご覧ください。

❏Surround Parameter

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音場効果を調節します。入力信号によっては、本設定ができない場合があります。

設定項目	設定内容
HT-EQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	**ON**：“HT-EQ”を使用します。 **OFF**：“HT-EQ”を使用しません。
DRC ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**Auto**：再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。ドルビーTrueHDソースのときに設定できます。 **Low**/**Mid**/**High**：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **OFF**：ダイナミックレンジを圧縮しません。
D.Comp ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**Low**/**Mid**/**High**：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **OFF**：ダイナミックレンジを圧縮しません。
LFE 低域信号（LFE）レベルを調節します。	**-10dB～0dB** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • ドルビーデジタルソース：“0dB” • DTSの映画ソース：“0dB” • DTSの音楽ソース：“–10dB”
C.Image センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0.0～1.0（0.3）**
Panorama フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。	**ON**：設定します。 **OFF**：設定しません。
Dimension 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。	**0～6（3）**

設定項目	設定内容
C.Width センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0～7（<u>3</u>）**
Height Gain フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。	**Low**：フロントハイトチャンネルの音量を小さくします。 **<u>Mid</u>**：フロントハイトチャンネルを標準音量で出力します。 **High**：フロントハイトチャンネルの音量を大きくします。 ご注意 “Height Gain”は、以下の設定のときに表示します。 • メニューの“Amp Assign”設定（☞75 ページ）が“Normal”のとき • メニューの“Speaker Config.” ⇨“F.Height” の設定（☞76 ページ）が“None”以外のとき • サラウンドモードが“PLIIz” または PLIIz のデコーダーを使用しているとき
Default “Surround Parameter”で設定された内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **<u>No</u>**：お買い上げ時の設定に戻しません。

❑Tone

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
Tone Control トーンコントロール機能のオン / オフを設定します。	**ON**：低音や高音のトーンを調節できます。 **<u>OFF</u>**：トーンを調節せずに再生します。 メニューの“Dynamic EQ”設定（☞72 ページ）が“OFF”のときに設定できます。 ご注意 • “Tone Control”の設定は、ゾーン 2 およびゾーン 3 には反映しません。 • サラウンドモードが“DIRECT” モードのとき、トーンの調節はできません。
Bass 低音を調節します。	**-6dB～+6dB（<u>0dB</u>）** メニューの“Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
Treble 高音を調節します。	**-6dB～+6dB（<u>0dB</u>）** メニューの“Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。

❑Audyssey Settings

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MultEQ® XT、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の設定をします。
これらの設定は、Audyssey® Auto Setup をおこなった後に設定できます。
Audyssey 技術に関する詳細な情報については、105 ページをご覧ください。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなっていない場合、または Audyssey Auto Setup をおこなった後にスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ/Dynamic Volume を選択できず、“Run Audyssey”を表示します。
このような場合は、再度 Audyssey Auto Setup をおこなうか、“Restore”（☞14 ページ）をおこなって Audyssey Auto Setup 実行後の設定に戻してください。

設定項目	設定内容
MultEQ XT MultEQ XT は、Audyssey Auto Setup の測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。 ３種類の補正カーブから選択します。“Audyssey”に設定することをおすすめします。 MultEQ XT の設定は、Dynamic EQ や Dynamic Volume を動作させるために必要です。	**<u>Audyssey</u>**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **Manual**：メニューの“Manual EQ”（☞73 ページ）で調節された周波数特性を適用します。 **OFF**：“MultEQ XT”を使用しません。 • Audyssey Auto Setup をおこなうと、“Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R”および“Audyssey Flat”が選択できます。 • Audyssey Auto Setup 後は自動的に“Audyssey”になります。 • “Audyssey”、“Audyssey Byp. L/R” または“Audyssey Flat” が選ばれたときは、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ XT 表示が点灯します。 • Audyssey Auto Setup をおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ XT 表示が点灯します。 • **MULTEQ** を押しても、MultEQ XT の設定ができます。 ご注意 • メニューの“EQ Customize”（☞79 ページ）で、“Not Used”に設定したイコライザーは選択できません。 • ヘッドホン使用時、“MultEQ XT”の設定は自動的に“OFF”になります。

設定項目	設定内容
Dynamic EQ® 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 Dynamic EQ は MultEQ XT と連動して動作します。	**ON**：“Dynamic EQ”を使用します。 **OFF**：“Dynamic EQ”を使用しません。 • “ON” に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ XT DYN EQ 表示が点灯します。 • リモコンや本体のボタンでも、Dynamic EQ の設定ができます。 **DYN EQ/VOL** を押す。 **DYN EQ/VOL** を押すたびに、以下の順序で設定が切り替わります。
Reference Level Offset Audyssey Dynamic EQ は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB/10dB/15dB）が可能です。右記が推奨の設定レベルになります。	**0dB**（フィルムリファレンス）：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 This setting should also be selected for TV content as that is usually mixed at 10 dB below film reference. **15dB**：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルでリスニングしたり、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 メニューの“Dynamic EQ”設定（☞72 ページ）が“ON”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Dynamic Volume® テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をお好みの音量設定値に自動的に調整します。	**Heavy**：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 **Medium**：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **Light**：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **OFF**：“Dynamic Volume”を使用しません。 • “Dynamic Volume”を“ON”に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ XT DYN VOL 表示が点灯します。 • Audyssey Auto Setup（☞10 ページ）で“Dynamic Volume”を“Yes”に設定した場合は、自動的に“Heavy”になります。 • リモコンや本体のボタンでも、Dynamic Volume の設定ができます。 **DYN EQ/VOL** を押す。 **DYN EQ/VOL** を押すたびに、以下の順序で設定が切り替わります。 Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : Heavy → Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : Medium → Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : Light → Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : OFF → Dynamic EQ : OFF / Dynamic Volume : OFF

❑A-DSX Soundstage

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

Audyssey DSX™ の設定とサウンドステージのパラメーターを調節します。

設定項目	設定内容
Audyssey DSX 新たなチャンネルを追加し、包み込むようなサラウンドサウンドを提供します。	**ON-Height-**：フロントハイトチャンネルを生成する Audyssey DSX を設定します。 **ON-Wide-**：フロントワイドチャンネルを生成する Audyssey DSX を設定します。 **OFF**：Audyssey DSX を設定しません。 • “Audyssey DSX” は、リモコンおよび本体の **A-DSX** でも操作できます。 • ディスプレイの DSX AUDYSSEY 表示が点灯します。 Audyssey DSX : ON -Height- → Audyssey DSX : ON -Wide- → OFF

リモコンの操作ボタン　カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）　 設定を確定する　RETURN ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
Stage Width フロントワイドスピーカー使用時にサウンドステージの広がりを調節します。	**-10～+10（0）**
Stage Height フロントハイトスピーカー使用時サウンドステージの高さを調節します。	**-10～+10（0）** • “Audyssey DSX” は、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーをご使用のときに設定できます。 • “Audyssey DSX”は、センタースピーカーを使用しているときに有効です。 • “Audyssey DSX”はサラウンドモードがPLⅡz Height以外のスタンダードモードのときに有効です。 • 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルやフロントワイドチャンネルが含まれている場合は、“A-DSX Soundstage” は使用できません。この場合、入力信号のままそれぞれのチャンネルを再生します。 **Audyssey Dynamic Surround Expansion (A-DSX)について** Audyssey DSX は、既存の 5.1ch システムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンド効果・印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現する新しいサラウンド拡張技術です。人間の聴覚特性の研究で、サラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントがあげられます。最も重要なポイントは臨場感のあるサラウンド空間の構成にはフロント（前方向）部分に横の広がり（ワイドチャンネル）を作ることです。次に重要なポイントとしてはサラウンド空間に奥行き感を作る為には認知（聴くことが）出来る音響信号でフロント（前方向）部分に高さの広がり（ハイトチャンネル）を作ることとされています Audyssey DSX はこの２つの重要な要素からワイドチャンネル（Wide channel）、ハイトチャンネル（Height channel）それぞれペアで作り出します。また Audyssey DSX は単純にチャンネルを追加するだけではなく、既存のフロントやサラウンド、サラウンドバックとの組み合わせることで更に効果を高める” Surround Envelopment Processing”（サラウンド・エンベロープメント・プロセッシング）という技術を開発し Audyssey DSX の中に取り入れています。

❑Manual EQ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。
“Manual EQ”は、“MultEQ XT”の設定（☞71 ページ）が“Manual”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Adjust CH 各スピーカーの音色を調節します。	① スピーカーの音色の調節方法を選択する。 **All**：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **L/R**：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **Each**：スピーカーごとに音色を調節します。 ② スピーカーを選択する。 ③ 調節する周波数帯を選択する。 **63Hz/125Hz/250Hz/500Hz/1kHz/2kHz/4kHz/8kHz/16kHz** • “L/R” や“Each” を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 ④ レベルを調節する。 **-20.0dB～+6.0dB（0.0dB）**
Base Curve Copy MultEQ® XT の“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。	**Yes**：コピーします。 **No**：コピーしません。 “Base Curve Copy”は、Audyssey® Auto Setup をおこなった後に表示します。
Default “Manual EQ”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

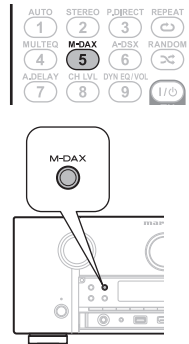
❑M-DAX

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。M-DAX は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定内容

OFF：M-DAX を使用しません。
LOW：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。
MID：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。
HIGH：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

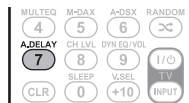
- アナログ信号や PCM 信号（fs ＝ 44.1/48kHz）が入力されたときに、設定することができます。
- サラウンドモードが“DIRECT” および“PURE DIRECT” モードのときは設定できません。
- お買い上げ時の設定は、“OFF”です。
- “OFF”以外に設定すると、M-DAX 表示が点灯します。
- リモコンの **M-DAX** を押しても、M-DAX の設定ができます。
  M-DAX を押すたびに、以下の順序でモードが切り替わります。

❑Audio Delay

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容

0ms～**200ms**

- メニューの“Auto Lip Sync”の設定が“ON”のとき、および Auto Lip Sync 対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
- “Audio Delay”の設定は、入力ソースごとに記憶させることができます。
- メニューの“Video Mode”（☞67 ページ）が“Auto”または“Game”モードのときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定することができます。
- リモコンの **A.DELAY** を押しても操作できます。

Picture Adjust

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

- 入力ソースが BD DVD VCR SAT GAME AUX1 NET/USB TV のときに設定できます。
- 上記以外の入力ソースでは、“Video Select” を選択しているときに設定できます。この場合、元の入力ソースの設定が呼び出されます。
- “Video Convert”の設定（☞67 ページ）が“ON”のときに設定できます。
- “TV”および“GAME”は、“HDMI”（☞66 ページ）または“Component”（☞66 ページ）を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容
Contrast 映像の明暗の差を調節します。	**-6～+6 (0)**
Brightness 映像の明るさを調節します。	**0～+12**
Chroma Level 色の濃さを調節します。	**-6～+6 (0)**
Hue 緑色と赤色のバランスを調節します。	**-6～+6 (0)**
DNR 映像全体のノイズを軽減します。	**OFF / Low / Mid / High**
Enhancer 映像の輪郭を強調します。	**0～+12**

- “DNR”および“Enhancer”は、HDMI 出力に効果があります。
- “Picture Adjust”で設定した値は、入力ソースごとに記憶します。

詳細な設定をする（Manual Setup）

Audyssey® Auto Setup の設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更するときに設定します。

- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
- Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ® XT、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の選択ができなくなります（☞71、72 ページ）。

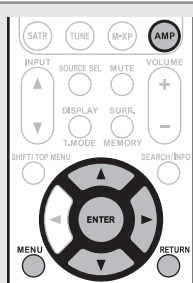
メニューの操作のしかた

1 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

2 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

3 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

4 **ENTER** または ▷ を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

“Manual Setup”でできること

Speaker Setup（☞75ページ）　HDMI Setup（☞78 ページ）　Audio Setup（☞79 ページ）

Network Setup（☞79ページ）　Zone Setup（☞81 ページ）　Option Setup（☞82 ページ）

Speaker Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey Auto Setup で測定した内容を変更するときにおこなってください。

設定項目	設定内容
Amp Assign 本機に接続したスピーカーの設定をします。	**Normal**：サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを使用するときに設定します。 **ZONE2**：SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子にゾーン 2 用スピーカーを接続して使用するときに設定します。 **ZONE 3**：SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子にゾーン 3 用スピーカーを接続して使用するときに設定します。 **SPKR-C**：SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子にフロントスピーカーのツィーター部を接続し、FRONT 端子にフロントスピーカーのウーハー部を接続して使用するときに設定します。
Speaker Config. スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 ご注意 “Large”と“Small”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、メニューの“Crossover Frequency”（☞77 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**Front**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • “Subwoofer” の設定が “No” の場合、“Front” の設定は自動的に “Large” になります。 • “Front” の設定が “Small” の場合、“Center”、“Surround”、“S.Back”、“F.Height” および “F.Wide” を “Large” に設定することはできません。
	Center：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：センタースピーカーを使用しません。 “Front” の設定が “Small” の場合、“Large” は表示しません。
	Subwoofer：サブウーハーの有無を設定します。 • **Yes**：サブウーハーを使用します。 • **No**：サブウーハーを使用しません。 “Front” の設定が “Small” の場合、“Subwoofer” の設定は自動的に “Yes” になります。

設定項目	設定内容
Speaker Config. （つづき）	**Surround**：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドスピーカーを使用しません。 • “Surround” の設定が“Large” のとき“、“S.Back”、“F.Height” および “F.Wide”を“Large”に設定できます。 • “Surround” の設定が“None” のとき“、“S.Back”、“F.Height” および “F.Wide”の設定は自動的に“None”になります。
	S.Back：サラウンドバックスピーカーの有無や大きさ、本数を設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2spkrs**：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1spkr**：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときは、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 “S.Back” を “None” 以外に設定しても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。 ご注意 メニューの“Amp Assign” 設定（☞75 ページ）が“Normal” 以外のとき、“S.Back”の設定はできません。
	F.Height：フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 ご注意 メニューの“Amp Assign” 設定（☞75 ページ）が“Normal” 以外のとき、“F.Height”の設定はできません。
	F.Wide：フロントワイドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：フロントワイドスピーカーを使用しません。 ご注意 メニューの“Amp Assign” 設定（☞75 ページ）が“Normal” 以外のとき、“F.Wide”の設定はできません。

設定項目	設定内容
Bass Setting サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**Subwoofer Mode**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“Small” に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+Main**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • “Subwoofer Mode”は、“Speaker Config.”⇨“Subwoofer”（☞75 ページ）の設定が“Yes”のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+Main”に設定してください。 ご注意 メニューの“Speaker Config.” の“Front”、“Center” の設定が“Large” で、なおかつ“Subwoofer Mode”の設定が“LFE” の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。
	LPF for LFE：LFE 信号の再生帯域を設定します。 • **80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz**
Distance リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**Unit**：距離の単位を設定します。 • **Meters** / **Feet**
	Step：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m** / **0.01m** • **1ft** / **0.1ft**
	Front L/Front R/Center/Subwoofer/Surround L/Surround R/S.Back L*/S.Back R*/F.Height L/F.Height R/F.Wide L/F.Wide R：距離を設定するスピーカーを選びます。 ＊ メニューの“Speaker Config.” ⇨“S.Back” 設定（☞76 ページ）が “1spkr”のときは、“S.Back”を表示します。 • **0.00m～18.00m / 0.0ft～60.0ft**：距離を設定します。 • メニューの“Amp Assign”（☞75 ページ）および“Speaker Config.”（☞75 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： Front L/Front R/Center/Subwoofer/F.Height L/F.Height R/F.Wide L/F.Wide R：3.6 メートル（12.0 フィート） Surround L/Surround R/S.Back L/S.Back R：3.0 メートル（10.0 フィート） • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.0 メートル（20 フィート）以下になるように設定してください。

設定項目	設定内容
Distance （つづき）	ご注意 メニューの“Speaker Config.”（☞75ページ）で、“None”に設定したスピーカーは表示しません。
	Default：“Distance”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。
Channel Level 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**Test Tone Start**：テストトーンを出力します。 • **Front L**/**F.Height L**/**Center**/**F.Height R**/**Front R**/**F.Wide R**/**Surround R**/**S.Back R***/**S.Back L***/**Surround L**/**F.Wide L**/**Subwoofer**：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。 * メニューの“Speaker Config.” ⇨“S.Back” 設定（☞76ページ）が“1spkr”のときは、“S.Back”を表示します。 • **-12.0dB～+12.0dB (0.0dB)**：音量を調節します。 • サブウーハーの音量が“-12dB”のときに ◁ を押すと、“Subwoofer”の設定は“OFF”になります。 • “Channel Level”を調節すると、調節した値をすべてのサラウンドモードに対して設定します。サラウンドモードごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、54ページをご覧ください。 • リモコンの **TEST TONE** を押すと、直接この設定項目に入ることができます。 ご注意 • メニューの“Speaker Config.”設定（☞75ページ）で、“None”に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンが挿入されている場合は、“Channel Level”を表示しません。
	Default：“Channel Level”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。

設定項目	設定内容

Crossover Frequency
各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。
	Crossover：すべてのスピーカーに対して、クロスオーバー周波数を設定します。
	• **40Hz**/**60Hz**/**80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz**
	Advanced：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。
	• **Front**/**Center**/**Surround**/**S.Back**/**F.Height**/**F.Wide**：クロスオーバー周波数を設定するスピーカーを選びます。
	• **40Hz**/**60Hz**/**80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。
	• “Crossover Frequency”は、メニューの“Bass Setting”⇨“Subwoofer Mode”設定（☞76ページ）が“LFE+Main”のとき、または“Small”に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。
	• クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。
	• “Small”に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。
	• メニューの“Subwoofer Mode”（☞76ページ）の設定により、“Advanced”で設定できるスピーカーが異なります。
	  • “LFE”の場合は“、“Speaker Config.”で“Small”に設定しているスピーカーの設定ができます。“Large”に設定しているスピーカーのときは、“Full Band”が表示され、設定できません。
	  • “LFE+Main”の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。

HDMI Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

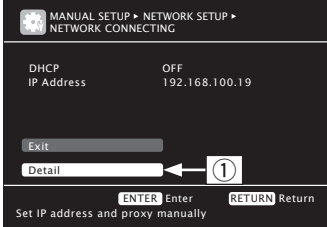
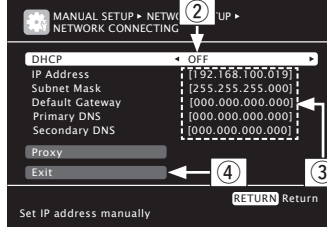
HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
RGB Range HDMI 端子から出力する映像信号の方式を設定します。	**Normal**：RGB の映像方式（16（黒）～235（白））で出力します。 **Enhanced**：RGB の映像方式（0（黒）～255（白））で出力します。 DVI 端子付きのテレビを使用時に有効です。
Auto Lip Sync 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**ON**：補正します。 **OFF**：補正しません。
HDMI Audio Out HDMI の音声の出力先を設定します。	**AMP**：本機に接続したスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続したテレビで再生します。 HDMI コントロール機能がはたらいているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します（52 ページ「HDMI コントロール機能」）。
Monitor Out HDMI のモニター出力を設定します。	**Monitor 1**：MONITOR 1 端子に接続されたテレビを常に使用します。 **Monitor 2**：MONITOR 2 端子に接続されたテレビを常に使用します。 • "Resolution" の設定（67 ページ）が"Auto"以外のときは、"HDMI Information" ⇨"HDMI Monitor 1 Information" および"HDMI Monitor 2 Information"（85 ページ）で、ご使用のテレビが対応している解像度を確認してください。 • "Monitor Out"は、**HDMI** を押しても設定できます。 SOURCE SET STANDBY ON TEST SPKR HDMI A/D TONE A/B Z2 Z3 BD DVD VCR SAT GAME AUX1

設定項目	設定内容
HDMI Control HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	**ON**：HDMI コントロール機能を使用します。 **OFF**：HDMI コントロール機能を使用しません。 • HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、"HDMI Control"を"OFF"に設定してください。 • 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、52 ページ「HDMI コントロール機能」をご覧ください。 ご注意 • **"HDMI Control"を"ON"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 • HDMI コントロール機能は、電源をオンにするか、スタンバイ状態の時に動作します。 • HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 • "HDMI Control" の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
Standby Source 電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	**Last**：電源を入れたとき、前回使用していた入力ソースでスタンバイします。 **HDMI1**/**HDMI2**/**HDMI3**/**HDMI4**/**HDMI 5**/**HDMI6**：電源を入れたとき、それぞれの入力端子を割り当てた入力ソースでスタンバイします。 "Standby Source" は"HDMI Control" の設定が"ON" のときに設定できます。
Power Off Control 本機と外部機器の電源オフを連動します。	**All**：入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **Video**：入力ソースが BD / DVD / VCR / SAT / GAME / AUX1 / TV のときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **OFF**：本機はテレビの電源に連動しません。 "Power Off Control"は、"HDMI Control" の設定が"ON" のときに設定できます。

リモコンの操作ボタン | カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右） | ENTER 設定を確定する | RETURN ひとつ前のメニューに戻る

Audio Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
7.1ch IN SW Level 7.1CH INPUT 端子から入力されたアナログ信号の再生方法を設定します。	**Subwoofer Level**：7.1CH INPUT 端子から入力されたサブウーハー信号の再生レベルを設定します。 • **+10dB**：推奨レベルです。 • **+15dB/+5dB/0dB**：ご使用になるプレーヤーに合わせて設定します。
EQ Customize リモコンの **MULTEQ** を押したときに、使用しないイコライザーを表示しないように設定します。 	**Audyssey Byp. L/R**：“Audyssey Byp L/R” イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。 “Audyssey® Auto Setup” をおこなった後に、“Audyssey Byp. L/R” の設定ができます。
	Audyssey Flat：“Audyssey Flat” イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。 “Audyssey Auto Setup” をおこなった後に、“Audyssey Flat” の設定ができます。
	Manual：“Manual” イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。
Bilingual Mode AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	**Main**：主音声のみ出力します。 **Sub**：副音声のみ出力します。 **Main/Sub**：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 **Main+Sub**：主音声と副音声をミックスして出力します。 このモードは、二重音声のソースを再生中に設定できます。

Network Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

ネットワークに関する設定をします。

設定項目	設定内容
Network Connecting 有線 LAN の設定をします。	**1.** LANケーブルを接続する（☞27ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。 **2.** 本機の電源を入れる（☞10 ページ「電源を入れる」）。 本機は、DHCP 機能によりネットワークの設定を自動的におこないます。DHCP 機能のないネットワークに接続する場合のみ、手順 3 の設定をおこなってください。 **3.** “Network Connecting” で IP アドレスを設定する。 ① メニューの “Network Connecting” で “Detail” を選び、**ENTER** を押す。 ② ◁ ▷ で “DHCP” を “OFF” に設定し、▽ を押す。 DHCP 機能を無効にします。 ③ △▽▷ でアドレスを入力し、**ENTER** を押す。 • **IP Address**：入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外の IP アドレスではネットワークオーディオ機能を使用することができません。 CLASS A：10.0.0.0～10.255.255.255 CLASS B：172.16.0.0～172.31.255.255 CLASS C：192.168.0.0～192.168.255.255 • **Subnet Mask**：xDSL モデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は 255.255.255.0 が入ります。 • **Default Gateway**：ゲートウェイ（ルータ）に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。 • **Primary DNS、Secondary DNS**：プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスが 1 つの場合は、“Primary DNS” に入力してください。2 つ以上の場合は、1 つを “Secondary DNS” に入力してください。 ④ ▽ で “Exit” を選び、**ENTER** を押す。 設定が完了します。 • プロキシ経由でネットワークに接続している場合は、“Proxy” を選び、**ENTER** を押してください（☞80 ページ “Proxy settings”）。

設定項目	設定内容

Network Connecting
（つづき）

- ブロードバンドルータ（DHCP 機能）をお使いの方は、本機の初期設定で DHCP 機能が“ON”になっていますので、“IP Address”と“Proxy”の設定は必要ありません。
- DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してお使いになるときには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。この場合、ネットワークに関する知識が必要となります。詳しくは、ネットワーク管理者などにお問い合わせください。
- インターネットに接続できない場合は、もう一度接続や設定を確認してください（☞27 ページ）。
- インターネットの接続について分からない場合は、ISP（インターネット・サービスプロバイダ）またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- IP アドレスの入力中に設定をキャンセルしたいときは、**RETURN** を押してください。

Proxy settings：インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。

① メニューの“Network Connecting”で“Detail”を選び、**ENTER** を押す。
② △▽ で“Proxy”を選び、**ENTER** を押す。
③ ◁ ▷ で“Proxy”を“ON”に設定し、▽ を押す。
プロキシサーバーを有効にします。
④ ◁ ▷ でプロキシサーバーの入力方法を選び、▽ を押す。
Address：アドレスで入力する場合に選びます。
Name：ドメイン名で入力する場合に選びます。
⑤ △▽◁ ▷ でプロキシサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力し、**ENTER** を押す。
手順 ④ で“Address”を選んだ場合：アドレスを入力します。
手順 ④ で“Name”を選んだ場合：ドメイン名を入力します。
- 文字入力の方法については 63 ページをご覧ください。

⑥ △▽◁ ▷ でプロキシサーバーのポート番号を入力し、**ENTER** を押す。
⑦ ▽ で“Exit”を選び、**ENTER** を押す。
設定が完了します。

Other
スタンバイ時のネットワークのオン / オフ設定やパソコンの言語を設定します。

Network Standby：スタンバイ時のネットワーク機能のオン / オフを設定します。
- **ON**：スタンバイ時に、ネットワーク機能をオンします。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。
- **OFF**：スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。

ウェブコントロール機能（☞56 ページ）をご使用になるときは“ON”に設定してください。

PC Language：パソコンの言語を選びます。
- **ara** / **chi (smpl)** / **chi (trad)** / **cze** / **dan** / **dut** / **eng** / **fin** / **fre** / **ger** / **gre** / **heb** / **hun** / **ita** / **jpn** / **kor** / **nor** / **pol** / **por** / **por(BR)** / **rus** / **spa** / **swe** / **tur**

Friendly Name Edit：“Friendly Name”とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。63 文字まで入力できます。お買い上げ時のフレンドリーネームは、“marantz:[SR7005]”です。
- 文字入力の方法については 63 ページをご覧ください。

Default：編集した“Friendly Name”をお買い上げ時の設定に戻します。
- **Yes**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。
- **No**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。

“Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。

Update Notification：“Firmware Update”で最新のファームウェアがリリースされている場合に、本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください（☞27 ページ）。
- **ON**：アップデートの通知を表示します。
- **OFF**：アップデートの通知を表示しません。

- 通知メッセージが表示されている間に **ENTER** を押すと、“Check for Update”画面が表示されます。（“Firmware Update”の詳細は、84 ページをご覧ください。）
- 通知メッセージを閉じるには、**RETURN** を押してください。

リモコンの操作ボタン
カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）
ENTER 設定を確定する
RETURN ひとつ前のメニューに戻る

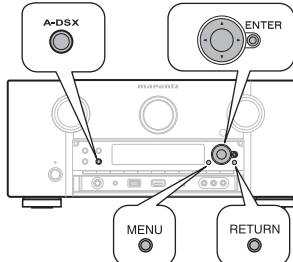
設定項目	設定内容
Other （つづき）	**Upgrade Notification**：“Add New Feature”でダウンロード可能なファームウェアがリリースされている場合に、本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。通知メッセージは、電源オン時に約20秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください（☞27ページ）。 • **ON**：アップグレードの通知を表示します。 • **OFF**：アップグレードの通知を表示しません。 ✎ • 通知メッセージが表示されている間に **ENTER** を押すと、“Add New Feature”画面が表示されます。（“Add New Feature”の詳細は、84ページをご覧ください。） • 通知メッセージを閉じるには、**RETURN** を押してください。
Network Information ネットワークの情報を表示します。	**Friendly Name** / **DHCP= ON/OFF** / **IP Address** / **MAC Address**

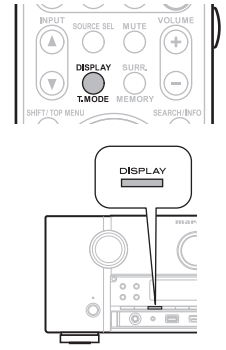
Zone Setup

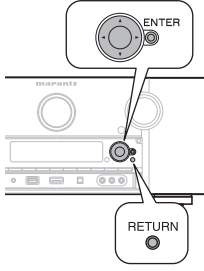
お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

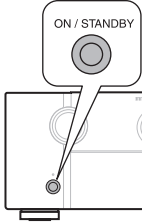
マルチゾーン（ゾーン2、ゾーン3）で再生する音声の設定をします。

設定項目	設定内容
Bass 低音のトーンを調節します。	**-10dB～+10dB（0dB）**
Treble 高音のトーンを調節します。	**-10dB～+10dB（0dB）**
HPF 低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。	**ON**：低域成分をカットして出力します。 **OFF**：低域成分をカットしません。
Level Lch 左チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB～+12dB（0dB）** ✎ “Level Lch”は、“Channel”の設定（☞81ページ）が“Stereo”のときに設定できます。
Level Rch 右チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB～+12dB（0dB）** ✎ “Level Rch”は、“Channel”の設定（☞81ページ）が“Stereo”のときに設定できます。
Channel マルチゾーンから出力する信号を設定します。	**Stereo**：ステレオ信号を出力します。 **Mono**：モノラル信号を出力します。

設定項目	設定内容
Volume Level 音量出力レベルを設定します。	**Variable**：本機やリモコンで音量の調節ができます。 **-40dB（41）**：音量は常に-40dBになります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 **0dB（81）**：音量は常に0dBになります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 ✎ “Amp Assign”の設定（☞75ページ）が“ZONE2”または“ZONE3”のとき、“Volume Level”は“Variable”になります。
Volume Limit 音量の上限を設定します。	**OFF**：設定しません。 **-20dB（61）/-10dB（71）/0dB（81）** ✎ • ゾーン2またはゾーン3の“Volume Level”設定（☞81ページ）が“Variable”のときに設定できます。 • メニューの“Volume Display”設定（☞82ページ）が“Absolute”のときは、0～99の範囲で表示します。
Power On Level ゾーン2またはゾーン3の電源を入れたときの音量を設定します。	**Last**：記憶している音量になります。 **- - -（0）**：常に電源を入れたときは消音状態になります。 **-80dB～18dB（1～99）**：設定した音量になります。 ✎ • ゾーン2またはゾーン3の“Volume Level”設定（☞81ページ）が“Variable”のときに設定できます。 • メニューの“Volume Display”設定（☞82ページ）が“Absolute”のときは、0～99の範囲で表示します。
Mute Level ミューティング時の音量の減衰量を設定します。	**Full**：消音状態になります。 **-40dB**：現在の音量から40dB下げて再生します。 **-20dB**：現在の音量から20dB下げて再生します。

Option Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

その他の設定をします。

設定項目	設定内容
Volume Control メインゾーン（本機のある部屋）の音量に関する設定をします。	**Volume Display**：音量の表示方法を設定します。 • **Relative**：- - -dB（最小）、–80.5dB ～ 18dB の範囲で表示します。 • **Absolute**：0（最小）～ 99 の範囲で表示します。 ✎ • “Volume Display”を設定すると、“Volume Limit”や“Power On Level”の表示方法も切り替わります。 • “Volume Display”の設定は、すべてのゾーンに対して適用します。
	Volume Limit：音量の上限を設定します。 • **OFF**：音量の上限を設定しません。 • **–20dB (61)**/**–10dB (71)**/**0dB (81)**
	Power On Level：電源をオンにしたときの音量を設定します。 • **Last**：前回使用したときの音量になります。 • **- - - (0)**：常に消音状態になります。 • **–80dB ～ 18dB (1 ～ 99)**：設定した音量になります。
	Mute Level：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **Full**：消音状態になります。 • **–40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **–20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。
Source Delete 使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	**BD** / **DVD** / **VCR** / **SAT** / **GAME** / **AUX1** / **NET/USB** / **TV** / **CD** / **CDR** / **PHONO** / **TUNER** / **M-XPort**：使用しない入力ソースを選びます。 • **ON**：使用します。 • **Delete**：使用しません。 ご注意 • 各ゾーンで使用中の入力ソースの設定はできません。 • “Delete”に設定した入力ソースは、**SOURCE SEL** を操作しても選択できません。
GUI テレビ画面の表示に関する設定をします。	**Screensaver**：スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **ON**：メニューの表示中、NET/USB、iPod および TUNER 画面を表示中に何も操作をしない状態が 3 分以上続くとスクリーンセーバー画面に切り替わります。△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、スクリーンセーバー表示前の画面を表示します。 • **OFF**：使用しません。
	Wall Paper：再生停止中などに背景に表示する壁紙を設定します。 • **Picture**：背景をピクチャー画面（Marantz ロゴ）にします。 • **Black**：背景を黒色にします。

設定項目	設定内容
GUI （つづき）	**Format**：ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。 • **NTSC**：NTSC 方式で出力します。 • **PAL**：PAL 方式で出力します。 ✎ “Format” は、以下の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面は表示されません。 1. 本体の **A-DSX** と **RETURN** を 3 秒以上長押しする。 ディスプレイに“Video Format” を表示します。 2. ◁ ▷ を押して映像信号方式を設定する。 3. 本体の **ENTER**、**MENU** または **RETURN** を押して、設定を終了する。 ご注意 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。
	Text：サラウンドモードや入力モード切り替えなどの操作時に、各状態を表示します。 • **ON**：表示します。 • **OFF**：表示しません。
	Master Volume：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **Bottom**：画面下に表示します。 • **Top**：画面上に表示します。 • **OFF**：表示しません。 ✎ 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、“Top”に設定してください。
	NET/USB：入力ソースが“NET/USB”のときに、NET/USB 画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **30sec**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。

設定項目	設定内容
GUI （つづき）	**TUNER**：入力ソースが“TUNER” のときに、チューナー画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **<u>30sec</u>**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。
	iPod：入力ソースが“NET/USB” のときに、iPod 画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **<u>30sec</u>**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。
Component 2 Output コンポーネント 2 出力端子をメインゾーンで使用するかゾーン 2 で使用するかを設定します。	**<u>MAIN ZONE</u>**：コンポーネント 2 出力端子をメインゾーン用のモニター出力として使用します。 **ZONE2**：コンポーネント 2 出力端子をゾーン 2 用のモニター出力として使用します。
Zone Rename 画面に表示されるゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。	• 10 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、63 ページをご覧ください。
Trigger Out 入力ソースやサラウンドモードなどに対して、トリガーアウト 1/2 を動作させる条件を選びます。 トリガーアウトについては、「DC OUT（トリガー出力）端子」（☞51 ページ）をご覧ください。	**Trigger Out 1 / Trigger Out 2** ❑ **ゾーン（MAIN ZONE/ZONE2/ZONE3）に対して設定するとき** “ON” に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。 ❑ **入力ソースに対して設定するとき** “ON” に設定された入力ソースが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 「ゾーンに対して設定するとき」で“ON” に設定されたゾーンに対して有効です。 ❑ **HDMI モニターに対して設定するとき** “ON” に設定された HDMI モニターが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 「ゾーンに対して設定するとき」で“MAIN ZONE” が“ON”、「入力ソースに対して設定するとき」で“ON” に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。 • ON：出力の条件にします。 • - - -：条件にしません。

設定項目	設定内容
Trigger Out （つづき）	**Default**：“Trigger Out” で設定された内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：設定を初期値に戻します。 • **No**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。
Display 本体のディスプレイの点灯または消灯を設定します。	**ON**：ディスプレイを常に点灯します。 **Display Auto OFF**：状態表示以外はディスプレイを消灯します。 **Display OFF**：ディスプレイを常に消灯します。 リモコンまたは本体の **DISPLAY** を押しても操作できます。 **DISPLAY** を押すたびに、次のように切り替わります。 → ON → Display Auto Off → Display OFF
Setup Lock 設定した内容を変更できないようにロックします。	**ON**：設定した内容をロックします。 **<u>OFF</u>**：設定した内容をロックしません。 設定を解除するときは、“Setup Lock”を“OFF”に設定してください。 **ご注意** “Setup Lock” を“ON” に設定すると、以下の設定が変更できなくなります。また、以下の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“SETUP LOCKED!”を表示します。 ・メニュー操作　・Dynamic EQ® ・M-DAX　・Dynamic Volume® ・MultEQ® XT　・Channel Level
Maintenance Mode マランツのサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに使用します。	**ご注意** マランツのサービスエンジニアやカスタムインストーラーから指示があった場合のみご使用ください。

設定項目	設定内容
Firmware Update ファームウェアをアップデートします。	**Check for Update**：ファームアップウェアが最新かどうかの確認ができます。また、アップデートする場合のおよそのアップデート時間を確認できます。 **Start**：アップデートを実行します。 アップデートを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、メニュー画面はシャットダウンします。 アップデート中は、ディスプレイに経過時間を表示します。 アップデートが完了すると、電源表示が消灯し、通常の状態に戻ります。 • アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。それでもアップデートできない場合は、下記のいずれかのメッセージがディスプレイに表示されます。このような場合は、設定やネットワーク環境の確認をおこなった上で、再度アップデートしてください。

ディスプレイ表示	説　明
Updating fail	アップデートに失敗しました。
Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。
Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。
Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。
Download fail	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。

設定項目	設定内容
Add New Feature 本機にダウンロード可能な新機能を表示し、アップグレードします。	**Upgrade**：アップグレードを実行します。 アップグレードを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、メニュー画面はシャットダウンします。 アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。 アップグレードが完了すると、電源表示が消灯し、通常の状態に戻ります。 • アップグレードができなかった場合は、ディスプレイに“Firmware Update”と同様のメッセージが表示されます。この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。 **Upgrade Status**：アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。

アップグレードをご利用になる場合の詳細については、弊社ホームページをご覧ください。

お手続きが完了すると、このメニューに“Registered”と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、“Not Registered”が表示されます。

お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。

本体の ◁ と **RETURN** を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることもできます。

“Firmware Update”および“Add New Feature”をおこなったときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットブロードバンドに接続できる環境と設定が必要です(☞27 ページ)。
- アップデート / アップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデート / アップグレードが完了するまでに、ブロードバンド接続でも 1 時間程度の時間がかかります。
- 一旦アップデート / アップグレードを開始すると、本機は完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータが初期化される場合があります。
- アップデートやアップグレード後に、以下のバックアップデータが消去されることがあります。
  - インターネットラジオのプリセットチャンネル
  - 最近再生したインターネットラジオ局のデータ
  - Flickr Contact で登録している“Username”
  - インターネットラジオ、メディアサーバーと USB メモリーのデータ
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の **ON/STANDBY** を 5 秒以上長押しするか、電源コードを再度挿入し直してください。ディスプレイに“Update Retry”が表示され、失敗したところから更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。

- “Firmware Update”および“Add New Feature”に関する情報は、その計画が明らかになるたびに当社ホームページなどで告知する予定です。
- “Firmware Update”や“Add New Feature”で利用可能な新しいファームウェアがリリースされるとメニュー画面に通知メッセージを表示します。表示させたくない場合は、“Update Notification”(☞80 ページ)および“Upgrade Notification”(☞81 ページ)を“OFF”に設定してください。

情報（Information）

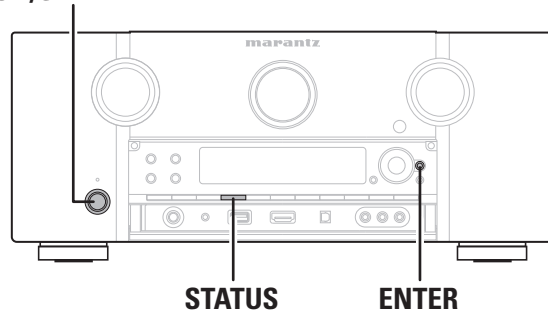
本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

項目	設定内容
Status 現在の設定状態を表示します。 ご注意 表示する内容は、入力ソースによって異なります。	❑ **MAIN ZONE** メインゾーンの設定状態を表示します。 **Select Source**（入力ソース選択） **Name**（ネーム） **Surround Mode**（サラウンドモード） **Input Mode**（入力モード） **Decode Mode**（デコードモード） **HDMI** **Digital**（デジタル） **Component**（コンポーネント） **Video Select**（ビデオセレクト機能） **Video Mode**（ビデオモード） **Content Type**（コンテンツタイプ） **Video Convert**（ビデオコンバート） **i/p Scaler**（i/p スケーラー） **Resolution**（解像度） **Progressive Mode**（プログレッシブモード） **Aspect**（アスペクト比）など
	❑ **ZONE2** ゾーン 2 の設定状態を表示します。 **Power**（電源） **Select Source**（入力ソース選択） **Volume Level**（音量レベル）
	❑ **ZONE3** ゾーン 3 の設定状態を表示します。 **Power**（電源） **Select Source**（入力ソース選択） **Volume Level**（音量レベル）

項目	設定内容
Audio Input Signal 音声入力信号の情報を表示します。	**Surround Mode**：設定しているサラウンドモード **Signal**：入力信号の種類 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **Format**：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **Offset**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **Flag**：サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が Dolby Digital EX、DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。 **ダイアログノーマライゼーション機能について** Dolby Digital ソースの再生中、自動的に動作します。 この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。 補正値は、本体の **STATUS** でも確認できます。 STATUS Dial.Norm Offset　－ 4dB 数字は補正値です。変更できません。
HDMI Information HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**HDMI Signal Information**（HDMI 信号情報） • **Resolution**（解像度） **Color Space**（色空間方式） **Pixel Depth**（ビット数）
	HDMI Monitor 1 Information（HDMI モニター 1 情報） **HDMI Monitor 2 Information**（HDMI モニター 2 情報） • **Interface**（インターフェース） **Suport Resolution**（対応解像度） “HDMI Monitor 1 Information” または“HDMI Monitor 2 Information”は、ご使用中のテレビの情報を表示します。
Preset Channel プリセットチャンネルの情報を表示します。 TUNER　NET/USB	**A**/**B**/**C**/**D**/**E**/**F**/**G** **A1 ～ A8**/**B1 ～ B8**/**C1 ～ C8**/**D1 ～ D8**/**E1 ～ E8**/**F1 ～ F8**/**G1～G8**

リモコンの操作ボタン　カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）　 設定を確定する　RETURN ひとつ前のメニューに戻る

リモートコントロールの設定

- 本機の REMOTE CONTROL IN 端子にリモコン受光ユニットを接続するときは、必ず以下の操作で本機のリモコン信号の受光機能を無効にしてください。
- お買い上げ時のリモコン信号の受光機能は有効に設定しています。

❑リモコン信号の受光機能を無効にする

本機の電源がスタンバイ状態のときに、本体の STATUS and ENTER を押しながら ON/STANDBY を押す。

ディスプレイに“Remote Lock:ON”を表示し、赤外線受光機能が無効になります。

❑リモコン信号の受光機能を有効にする

本機の電源がスタンバイ状態のときに、本体の STATUS and ENTER を押しながら ON/STANDBY を押す。

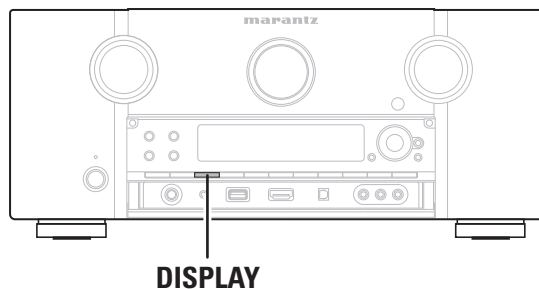
本機の赤外線受光機能が有効になります。

ご注意

リモコン受光ユニットを接続していないときは、この設定はおこなわないでください。本機をリモコンで操作できなくなります。

イルミネーションランプを点灯 / 消灯させる

メインディスプレイの周囲の照明を点灯または消灯させることができます。

- お買い上げ時の設定は“ON”です。

本体の DISPLAY を約 3 秒間押す。

- 再度設定を変更したい場合は、同じ操作を再度おこなってください。

リモコンで機器を操作する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。

AV 機器を操作する

1 入力ソース選択ボタンを押して、入力ソースを選ぶ(☞28 ページ)。

リモコンの操作モードが下表のように切り替わり、リモコンのディスプレイにモード名を表示します。

ご注意

本機に付属のリモコンは、入力ソース選択ボタンを 1 回押すとリモコンの操作モードが切り替わります。
また、入力ソース選択ボタンを 2 回続けて押すとリモコンの操作モードと本機の入力ソースが切り替わります。

入力ソース選択ボタン	本機の入力ソース	リモコンで操作できる機器（操作モード）
BD *	BD	**BD** ボタンに登録している機器
DVD *	DVD	**DVD** ボタンに登録している機器
VCR	VCR	**VCR** ボタンに登録している機器
SAT *	SAT	**SAT** ボタンに登録している機器
GAME	GAME	**GAME** ボタンに登録している機器
AUX1	AUX1	**AUX1** ボタンに登録している機器
NET/USB	NET/USB	• ネットワーク機能 • USB 端子に接続した iPod、または USB メモリー
TV *	TV	**TV** ボタンに登録している機器
CD *	CD	**CD** ボタンに登録している機器
CDR	CDR	**CDR** ボタンに登録している機器
TUNE	TUNER	本機(チューナー操作)
M-XP	M-XPort	**M-XP** ボタンに登録している機器

＊ このボタンにプリセットコードを登録すると、本機のリモコンでお手持ちの機器の操作がおこなえます。

ご注意

リモコンがアンプ操作モード以外のときに、下記の動作をおこなう場合は、**AMP** を押してリモコンをアンプ操作モードに切り替えてください。

- **MENU**を押して、本機のメニュー操作をおこなうとき
- **CH LVL** を押して、本機のチャンネルレベルを設定するとき
- ダイレクト再生をするとき
- **MULTEQ**、**A-DSX** または **DYN EQ/VOL** を押して、Audyssey DSX™、MultEQ® XT、Dynamic EQ®、Dynamic Volume® の機能を切り替えるとき
- **V.SEL** を押して、Video Select 機能を使用するとき
- **SLEEP** を押して、スリープタイマー機能を使用するとき
- **SOURCE SEL** を押して、Source Select 画面を呼び出すとき
- **M-DAX** を押して、M-DAX 機能を切り替えるとき
- リスニングモードの“AUTO”と“STEREO”をダイレクトに選択したいとき

2 本機または入力ソースを切り替えた機器の操作をおこなう。

- 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。また、iPod、チューナーの操作については、以下のページをご覧ください。
  - iPod(☞31 ページ)
  - チューナー(☞34 ページ)

プリセットコードを登録する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、お手持ちの DVD プレーヤーやテレビなど各社の機器の操作ができるようになります。

ご注意

- **BD**、**DVD**、**TV**、**SAT** および **CD** 以外はプリセットコードを登録できません。
- お買い上げ時の設定は、すべてマランツ製品のリモコンコードが登録されています。

❑機器の操作に使用できる主なボタン

① **SOURCE**
各機器の電源オン / オフを切り替えます。
② △▽◁ ▷、**ENTER**
各機器のメニュー操作をします。
③ **MENU**、**SETUP**、**TOP MENU**
各機器のメニューを表示します。
④ **►**、**■**、**II**、**◄◄**、**►►**、**I◄◄**、**►►I**
⑤ 数字ボタン（**0**〜**9**、**+10**）
⑥ **PRESET +**、**PRESET –**
⑦ **TV POWER**、**TV INPUT**
テレビの操作をおこないます。
このボタンは、どのモードのときでも有効です。

各機器のリモコン操作の詳細については、31〜32、89 ページをご覧ください。

プリセットコードを登録する

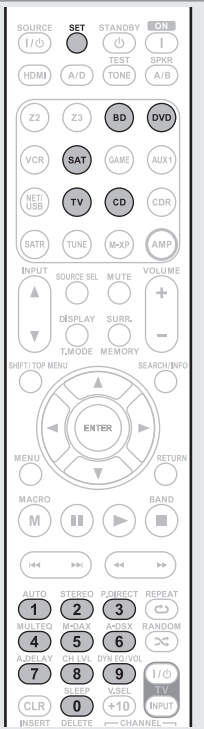
リセットコードの登録方法には、以下の 2 つの方法があります。
① 4桁のコードを入力する方法
② コード表をスキャンする方法

①4 桁のコードを入力する方法

入力するコードは、プリセットコード一覧表をご覧ください。

1 **プリセットコードを登録したい入力ソース選択ボタンと SET を表示が 2 回点滅するまで同時に長押しする。**
バックライトが点滅します。

2 **プリセットコード表(巻末)を参照して、登録する機器のメーカーの番号(4 桁)を 0 ~ 9 を押して入力する。**
- リモコンのディスプレイに 4 桁のコードを表示します。
- 設定が完了すると、リモコンのディスプレイに“OK” を表示します。

- リモコンのディスプレイに“NG” と表示された場合は、手順 1 と 2 をくり返し、同じコードをもう一度入力してください。

②コード表をスキャンする方法

1 **プリセットコードを登録したい機器の電源を入れる。**

2 **プリセットコードを登録したい入力ソース選択ボタンと SET を表示が 2 回点滅するまで同時に長押しする。**
バックライトが点滅します。

3 **リモコンを設定したい機器のリモコン受光部へ向け、INPUT ▲と SOURCE を交互にゆっくりと押します。**
リモコンのディスプレイにプリセットコードを表示します。

4 **操作したい機器の電源がオフになったらボタンを押すのをやめます。**

5 **ENTER を押すとコードの設定が完了します。**

登録したプリセットコードを確認する

1 **プリセットコードを登録した入力ソース選択ボタンと SET を表示が 2 回点滅するまで同時に長押しする。**
バックライトが点滅します。

2 **SEARCH/INFO を押す。**
表示が 2 回点滅した後、設定されたコードがリモコンのディスプレイに約 3 秒間表示します。

設定したコードをリセットする

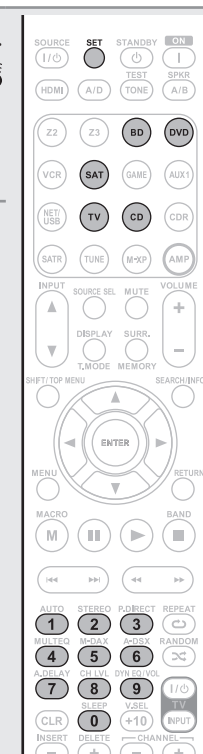
お買い上げ時の設定では、各入力ソース切り替えボタンに次の機器を登録しています。ご使用になる機器に合わせて変更できます。

1 **プリセットコードを登録した入力ソース選択ボタンと SET を表示が 2 回点滅するまで同時に長押しする。**
バックライトが点滅します。

2 **下表の中から該当するプリセットコード(4 桁)を入力する。**
表示が 2 回点滅します。

入力ソース選択ボタン	カテゴリー	プリセットコード
BD	ブルーレイディスクプレーヤー	5000
DVD	DVD プレーヤー	2000
TV	テレビ	1000
SAT	セットトップボックス	4000
CD	CD プレーヤー	3000

ご注意

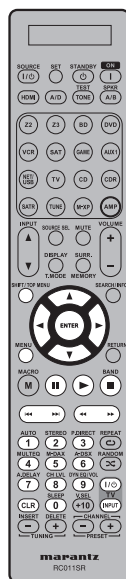
リセットが完了すると、選択した入力ソースのリモコンコードはお買い上げ時の設定に戻ります。

機器を操作する

付属のリモコンは、本機以外のコンポーネント製品も操作できます。

1 操作したい機器のプリセットコードが登録してある入力ソース選択ボタンを押す（☞87 ページ）。

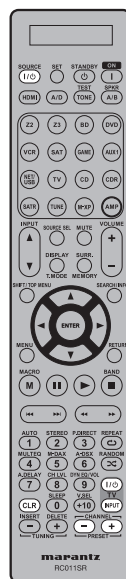
2 機器を操作する。

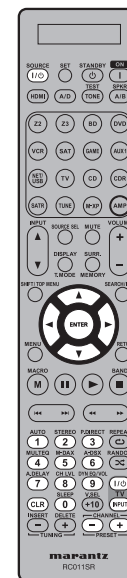
• 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❑ブルーレイディスクプレーヤー / HD DVD プレーヤー /DVD プレーヤー / DVD レコーダー

操作ボタン	機能
SOURCE	電源オン / スタンバイ
MENU	（ポップアップ）メニュー
TOP MENU	トップメニュー
△▽◁ ▷	カーソル操作
ENTER	確定
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択
CLR	入力の取り消し
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

❑CD プレーヤー /CD レコーダー

操作ボタン	機能
SOURCE	電源オンオフ
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
CLR	入力の取り消し
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

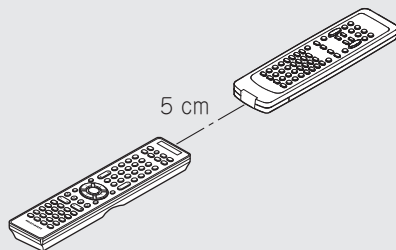
❑テレビ

操作ボタン	機能
SOURCE	電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
CHANNEL +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
CLR	入力の取り消し
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

❑衛星チューナー（セットトップボックス）（SAT）

操作ボタン	機能
SOURCE	電源オン / スタンバイ
CHANNEL +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
△▽◁ ▷	カーソル操作
ENTER	確定
0 ~ 9	チャンネルの選択
CLR	入力の取り消し
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：Marantz）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：Marantz）

学習モードで操作する

- 本機のリモコンには、他機のリモコンのリモートコードを学習・記憶させることができます。
- お手持ちの AV 機器がマランツ以外の製品の場合やプリセットコードの登録をおこなっても操作できない場合は、他機のリモートコードを本機のリモコンに記憶させてご使用ください。
- このリモコンは約 160 のリモートコードを学習させることができます。

他機のリモコンコードを記憶させる

1 **付属のリモコンと他機のリモコンのリモコン信号送信部を向かい合わせ、約 5cm 離して置く。**

2 **LEARN 表示が点滅するまで SET と SOURCE SEL を同時に長押しする。**

3 **入力ソース選択ボタンを押して入力ソースを選ぶ。**
リモコンのディスプレイに入力ソースを表示します。

4 **学習させる本機のリモコンボタンを押す。**
LEARN 表示が点灯します。

5 **リモコンのディスプレイに“OK” が表示されるまで他機リモコンの登録したいボタンを押し続ける。**

- リモコンのディスプレイに“NG” が表示された場合は、再度手順 5 をおこなってください。リモコンのディスプレイに再度“NG” が表示された場合は、正常に学習できない場合があります。このような場合は、機器専用のリモコンをご使用ください。
- リモコンのメモリーがいっぱいの場合は、リモコンのディスプレイに“FULL” を表示します。さらにリモコンコードを学習させたい場合は、すでに学習済みの他のボタンを削除してください。

6 **手順 4 と 5 を繰り返して、同じ入力ソースの他のボタンを学習させる。**

7 **手順 3 から 6 を繰り返して、他の入力ソースの他のボタンを学習させる。**

8 **リモコンのプログラムが終わったら SET を押す。**
LEARN 表示が消灯し、学習モードを完了します。

ご注意

- **SOURCE**、**MACRO** と **HDMI** には、リモートコードを学習させることはできません。
- チューナーモード、アンプモード、NET/USB モード、M-XP モードのときには、リモートコードを学習させることはできません。
- 電池の残量が少ない状態では学習手順を正しく操作できないことがあります。
- 学習モードで約 1 分間どのボタンも押さないと、自動的に学習モードを終了します。

学習させたリモートコードを削除する

リモートコードは、「ボタンごと」、「ソースごと」、「すべてのソース」の 3 つの方法で削除することができます。

❑ボタンごとにリモコンコードを削除する

1 **LEARN 表示が点滅するまで SET と SOURCE SEL を同時に長押しする**

2 **削除したい入力選択ボタンを押す。**
リモコンのディスプレイに入力ソースを表示します。

3 **HDMI を押したままの状態で、削除したい学習済みのボタンを 2 回押す。**
リモコンのディスプレイに“ERASE” を表示し、学習モードに戻ります。

- 通常モードに戻るには、**SET** を押してください。

❑入力ソースごとにリモコンコードを削除する

1 LEARN 表示が点滅するまで **SET** と **SOURCE SEL** を同時に長押しする。

2 **HDMI** を押したままの状態で、削除したい学習済みの入力ソース選択ボタンを 2 回押す。
リモコンのディスプレイに“ERASE”を表示します。

3 削除を続ける場合は **ENTER** を押す。
表示が 2 回点滅後、学習モードに戻ります。

- 削除を止める場合は、**ENTER** を押さないでください。他のボタンを押してください。
- 通常モードに戻るには、**SET** を押してください。

❑すべての入力ソースのリモコンコードを削除する

1 LEARN 表示が点滅するまで **SET** と **SOURCE SEL** を同時に長押しする。

2 **HDMI** を押したままの状態で、**ON** と **STANDBY** を同時に押す。
LEARN 表示が点灯します。

3 削除を続ける場合は **ENTER** を押す。
リモコンのディスプレイに“ERASE”を表示し、学習モードに戻ります。

- 削除を止める場合は、**ENTER** を押さないでください。他のボタンを押してください。
- 通常モードに戻るには、**SET** を押してください。

ご注意
リセットが完了すると、選択したソースボタンは初期設定に戻ります。

マクロ操作を操作する

- マクロ機能を使用すると、通常、複数回のボタン操作を必要とする複雑な一連の操作を、**MACRO** ボタンを押すだけで操作することができます。
- 本機では、6 つのマクロを記憶させることができます。
- 1 つのマクロには、最大 10 ステップの操作を記憶させることができます。

[例] DVD を再生する場合
① 本機の電源を入れる
↓
② 本機の入力ソースを DVD に切り替える
↓
③ テレビの電源を入れる
↓
④ DVD を再生する

マクロ操作を記憶させる

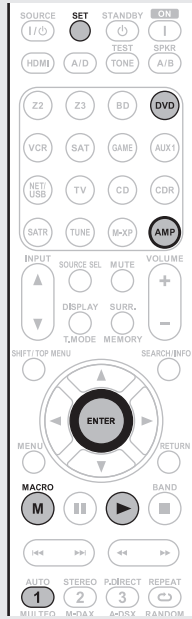
[例] 番号ボタンの“**1**”に、DVD の再生操作を記憶させる場合

1 LEARN 表示、MACRO 表示およびリモコンのディスプレイに“MACRO”が点滅表示されるまで、**SET** と **MACRO** を同時に長押しする。

2 マクロ操作を記憶させたい番号ボタン(“**1**”)を押す。
リモコンのディスプレイに“M1-01”を表示します。

- 記憶させたい番号がすでに記憶済みの場合は、記憶済みの番号が点滅表示します。

3 記憶したい操作の入力ソース切り替えボタン(“**DVD**”)とコマンドボタン(“**▶**”)を押す。
リモコンのディスプレイに、マクロ操作のステップ番号を表示します。

- アンプの入力ソースを記憶させる場合は、最初に **AMP** を押してから入力ソース切り替えボタンを押してください。

4 マクロ操作の記憶が完了したら、LEARN 表示と MACRO 表示が消灯するまで、**ENTER** を長押しする。

ご注意
マクロ操作に **RETURN**、△▽◁ ▷、**ENTER**、**VOLUME +**, **–** および **CLR** ボタンを記憶させることができません。

記憶させたマクロ操作を確認する

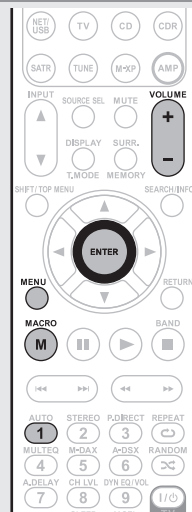
[例] 番号ボタンの“**1**”に記憶させたマクロ操作を確認する場合

1 LEARN 表示、MACRO 表示およびリモコンのディスプレイに“MACRO”が点滅表示されるまで、**SET** と **MACRO** を同時に長押しする。

2 確認したい番号ボタン(“**1**”)を押す。
LEARN 表示、MACRO 表示およびリモコンのディスプレイに“M1-01”を点滅表示します。

3 **VOLUME +, –** を押す。
- LEARN 表示が消灯し、リモコンのディスプレイに“M1-01”を表示します。
- 記憶したマクロ操作をします。

4 マクロ操作の最終番号が表示されるまで、手順 3 をくり返す。
- 手順 1 の表示に戻ります。
- マクロの操作番号を表示させると、対応するマクロ操作をおこないます。

5 マクロ操作の確認が完了したら、MACRO 表示が消灯するまで、**ENTER** を長押しする。

記憶させたマクロ操作を編集する

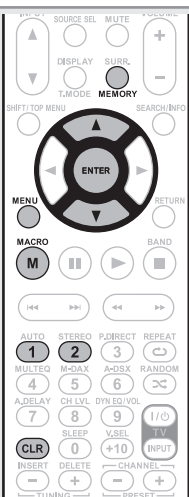
[例] 番号ボタンの“**1**”に記憶させたマクロ操作“▶”を“❚❚”に変更し、番号ボタンの“**2**”に記憶させる場合

1 LEARN 表示、MACRO 表示およびリモコンのディスプレイに“MACRO”が点滅表示されるまで、**SET** と **MACRO** を同時に長押しする。

2 変更したい番号ボタン（“**1**”）を押す。
LEARN 表示、MACRO 表示およびリモコンのディスプレイに“M1-01”を点滅表示します。

3 △▽ を押して、編集するマクロ操作の番号（“**2**”）を選ぶ。
マクロ操作の番号を表示後、記憶済みの操作おこないます。

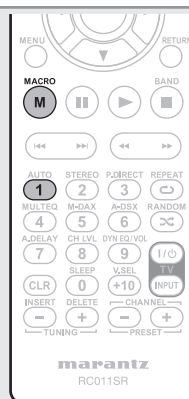
- マクロ操作を記憶済みのステップに更新する場合は、入力ソース切り替えボタンを押してから新しいステップのボタン（“**2**”）を押してください。
- 新しいマクロ操作を記憶済みのステップの間に挿入する場合は、手順 3 の後に **MEMORY** を押してから新しいステップのボタン（“**2**”）を押してください。
新しいステップを挿入する場合、記憶しているステップ合計数がすでに 10 である場合は、挿入後 10 番目のステップを削除します。
- 記憶済みのマクロ操作を削除する場合は、手順 3 の後に削除するステップ番号を呼び出し、**CLR** を押してください。
- 手順 1 に戻る場合は、**ENTER** を押してください。

4 マクロ操作の編集が完了したら、MACRO 表示が消灯するまで、**ENTER** を長押しする。

マクロ操作を使用する

[例] 番号ボタンの“**1**”に記憶させたマクロ操作を使用する場合

1 **MACRO** を押す。
MACRO 表示およびリモコンのディスプレイに“MACRO”を表示します。

2 使用する番号ボタン（“**1**”）を押す。
番号ボタンの“**1**”に記憶させたマクロ操作を 1 つずつ実行します。

- リモコンのディスプレイに表示するステップ番号は、そのステップが実行されるときに消去します。
- すべてのマクロ操作が完了すると、リモコンはアンプ操作モードに戻ります。

記憶させたマクロ操作を消去する

[例] 番号ボタンの“**2**”に記憶させたマクロ操作を消去する場合

1 LEARN 表示、MACRO 表示およびリモコンのディスプレイに“MACRO”が点滅表示されるまで、**MACRO** と **MENU** を同時に長押しする。

2 **CLR** と消去したい番号（“**2**”）を同時に約 3 秒間押す
リモコンのディスプレイに“M2-CL”を点滅表示します。

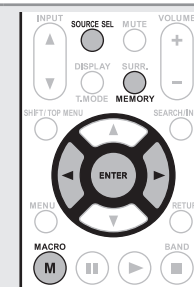
3 **ENTER** を押す。
記憶させたマクロ操作を消去し、手順 1 に戻ります。

- マクロの消去操作をキャンセルする場合は、**ENTER** を押さずに他のボタンを押してください。

4 マクロ操作の消去が完了したら、MACRO 表示が消灯するまで、**ENTER** を長押しする。

マクロ操作の送信間隔を調節する

マクロ操作の送信間隔を調節することができます。
- お買い上げ時の設定は“1 秒”です。

1 リモコンのディスプレイに“SETUP”が表示されるまで、**MACRO** と **SOURCE SEL** を同時に長押しする。
リモコンのディスプレイに“SETUP”を約 3 秒間表示後、“MCR05z”を表示します。
＊ 現在設定されている送信間隔を表します。

2 ◁ ▷ を押して、変更したい送信間隔を変更する。

- 送信間隔は、0.5 秒から 5 秒まで、0.5 秒間隔にて設定できます。

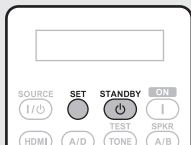
3 調節が完了したら、MACRO 表示が消灯するまで、**ENTER** を長押しする。

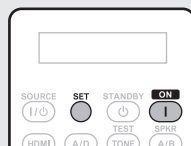
バックライトの設定

リモコンの側面にあるライトボタンを押すと、リモコンのバックライトが点灯します。点灯中に再度ボタンを押すと、バックライトがさらに 2 秒間点灯します。

• お買い上げ時の設定では、バックライトは点灯します。

❑バックライトを点灯しないように設定する

SET と **STANDBY** を 表示が 2 回点滅するまで同時に長押しします。

❑バックライトを点灯させる

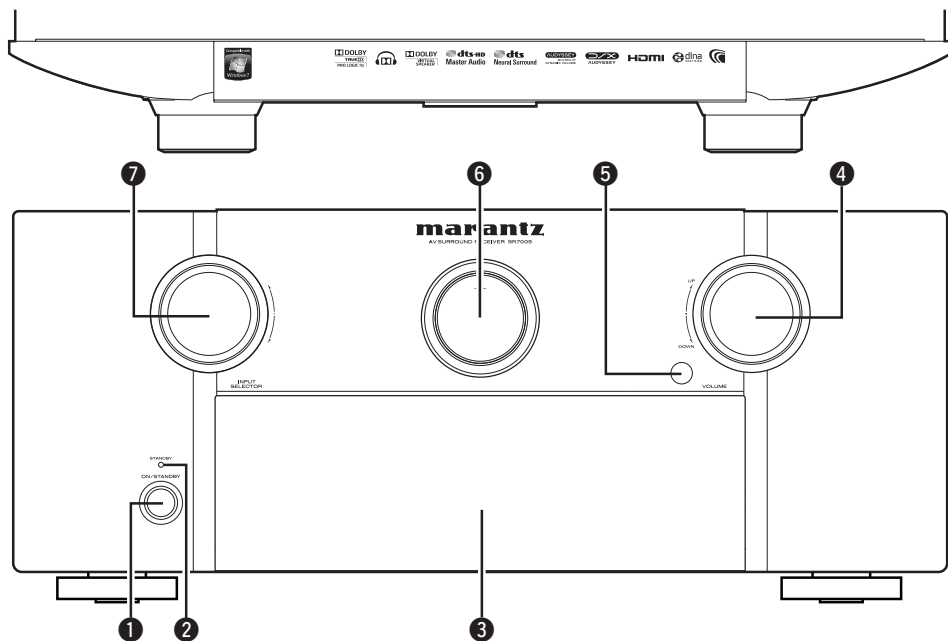
SET と **ON** を 表示が 2 回点滅するまで同時に長押しします。

Information

情報編

ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ **電源ボタン(ON/STANDBY)**……(10、15)
本機の電源をオン / スタンバイに切り替えます。

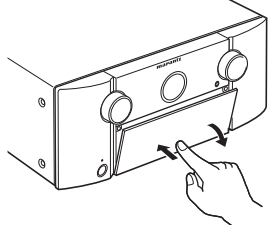
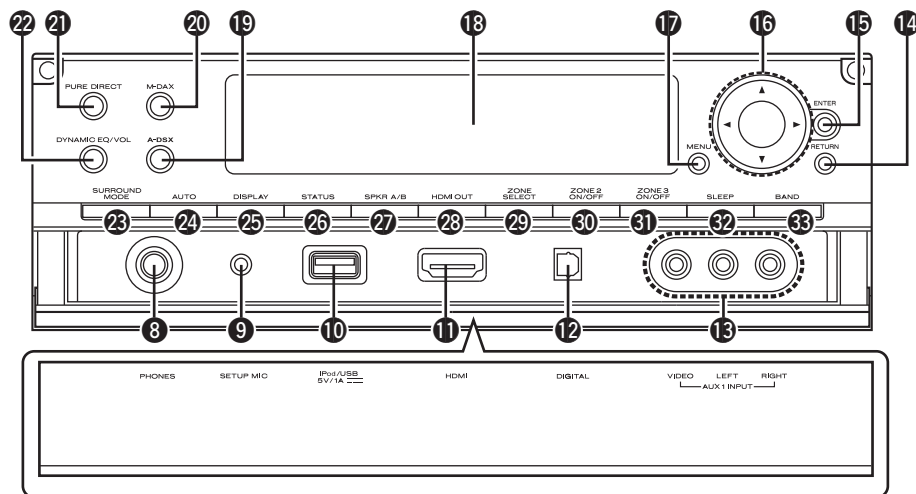
❷ **電源表示** ……(15)

❸ **ドア**
ドアの中にあるボタンや端子をご使用になるときにドアの下の部分を押すと、ドアが開きます。ドアの中にあるボタンや端子を使用しないときに、ドアを閉めておくこともできます。ドアの開閉の際に、指などを挟まないようご注意ください。

❹ **主音量調節つまみ(VOLUME)** ……(29)

❺ **リモコン受光部**……(98)

❻ **メインディスプレイ** ……(95)

❼ **入力ソース切り替えつまみ(INPUT SELECTOR)**……(28)

【 ドアを開いた状態 】

❽ **ヘッドホン端子(PHONES)**
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーから音が出なくなります。

ご注意
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

❾ **セットアップマイク端子(SETUP MIC)** ……(12、49)

❿ **USB/iPod端子**……(23)

⓫ **HDMI入力端子**……(19)

⓬ **デジタル音声入力端子(DIGITAL)**……(19)

⓭ **AUX1入力端子(AUX1 INPUT)**……(22)

⓮ **リターンボタン(RETURN)**……(62〜64)

⓯ **エンターボタン(ENTER)** ……(62〜64)

⓰ **カーソルボタン(△▽◁ ▷)**……(62〜64)

⓱ **メニューボタン(MENU)**……(64)

⓲ **サブディスプレイ** ……(95)

⓳ **AUDYSSEY DSX™ボタン(A-DSX)**……(72)

⓴ **M-DAXボタン/表示**……(74)

㉑ **ピュアダイレクトボタン/表示(PURE DIRECT)**……(42)

㉒ **Dynamic EQ®/Dynamic Volume®ボタン(DYNAMIC EQ/VOL)**……(72)

㉓ **サラウンドモードボタン(SURROUND MODE)**……(40)

㉔ **オートボタン(AUTO)**……(40、58、111)

㉕ **ディスプレイボタン(DISPLAY)** …(58、83)

㉖ **ステータスボタン(STATUS)** ……(85)

㉗ **スピーカーA/B切り替えボタン(SPKR A/B)**……(29)

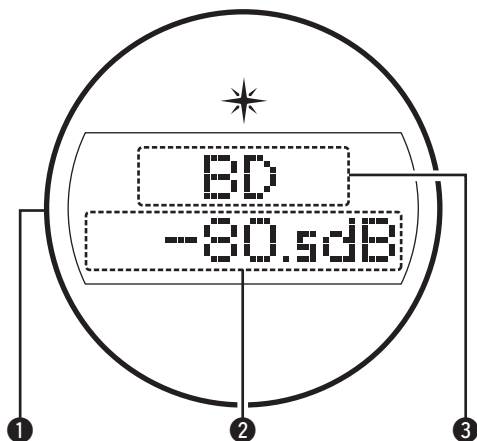
㉘ **HDMI出力ボタン(HDMI OUT)**……(19)

㉙ **ゾーン切り替えボタン(ZONE SELECT)**……(60)

㉚ **ゾーン2用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF)**……(60)

㉛ **ゾーン3用電源ボタン(ZONE3 ON/OFF)**……(60)

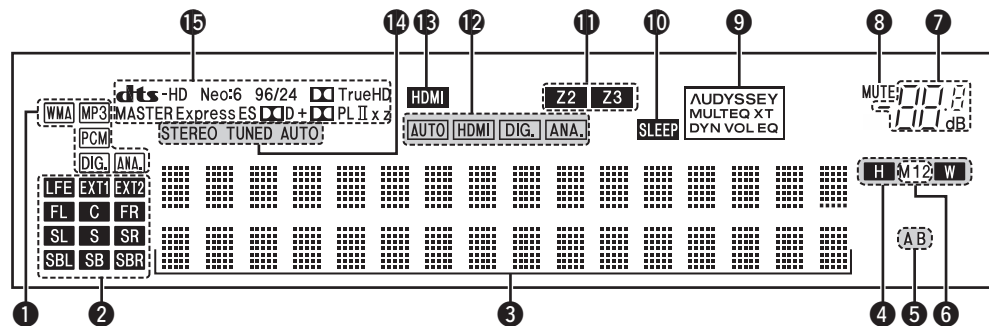
㉜ **スリープタイマーボタン(SLEEP)**……(53)

㉝ **バンド切り替えボタン(BAND)** ……(33)

ディスプレイ

メインディスプレイ

❶イルミネーションランプ
本機の電源が入っているときに、周囲が青く光ります。点灯しないように設定することもできます（☞86 ページ「メインディスプレイの照明を点灯 / 消灯させる」）。

❷主音量表示

❸入力ソース表示
現在選択されている入力ソース名を表示します。
メニューの"Input Setup"⇨"Rename"（☞68 ページ）で入力ソース名を変更している場合は、変更後の入力ソース名を表示します。

サブディスプレイ

❶入力信号表示

❷入力信号チャンネル表示
デジタル信号が入力されているときに点灯します。
再生している HD オーディオソースに拡張チャンネル（フロント / センター / サラウンド / サラウンドバック /LFE 以外のチャンネル）が含まれる場合は、EXT1 表示が点灯します。拡張チャンネルが 2 種類以上含まれる場合は、EXT1 と EXT2 表示が点灯します。

❸インフォメーションディスプレイ
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹フロントハイト/フロントワイドチャンネル表示
フロントハイトチャンネルから音声を出力しているときは"H"、フロントワイドチャンネルから音声を出力しているときは"W"が点灯します。

❺フロントスピーカー表示
フロントスピーカー A、B の設定に合わせて点灯します。

❻モニター出力表示
HDMI モニター出力の設定に合わせて点灯します。

❼主音量表示

❽ミュート表示
ミューティング中に点灯します（☞29 ページ）。

❾AUDYSSEY MULTEQ表示
"Dynamic EQ"（☞72 ページ）と"Dynamic Volume"（☞72 ページ）の設定により、次のように点灯します。

AUDYSSEY MULTEQ XT DYN VOL："Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定が"ON"のとき

AUDYSSEY MULTEQ XT DYN EQ："Dynamic EQ"の設定が"ON"、"Dynamic Volume"の設定が"OFF"のとき

AUDYSSEY MULTEQ XT："Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定が"OFF"のとき

❿スリープタイマー表示
スリープタイマーを設定しているときに点灯します（☞53 ページ）。

⓫マルチゾーン表示
ゾーン 2 またはゾーン 3（別の部屋）の電源が入って入るときに点灯します（☞60 ページ）。

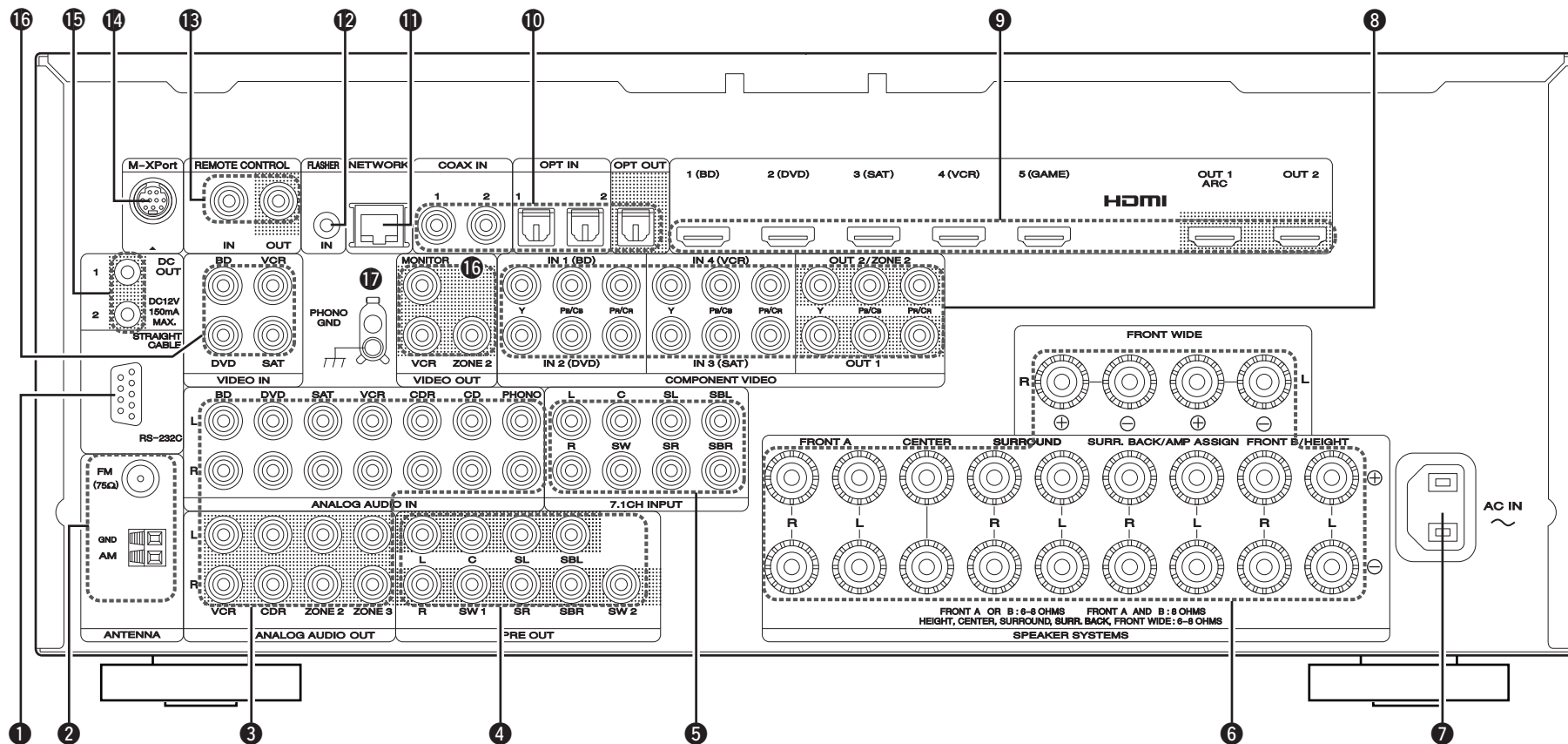
⓬入力モード表示
各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します（☞68 ページ）。

⓭HDMI表示
HDMI 接続で再生しているときに点灯します。

⓮チューナー受信モード表示
入力ソースが"TUNER"のとき、放送局の受信状態により点灯します。
STEREO: FM モードで、アナログステレオ放送を受信したときに点灯します。
TUNED: 放送を受信したときに点灯します。
AUTO: オートチューニングモードのときに点灯します（☞33 ページ）。

⓯デコーダー表示
各デコーダーが動作しているときに点灯します。

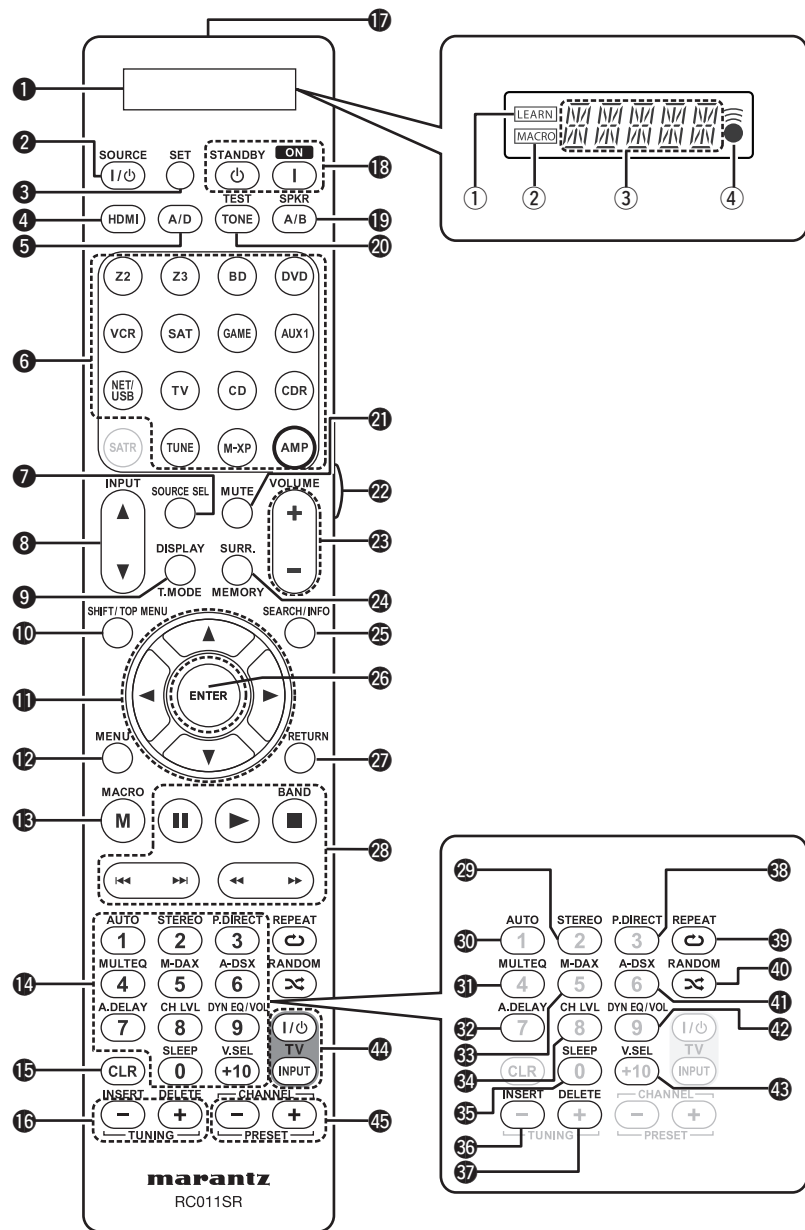
リアパネル

詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ RS-232C 端子 ·········· (51)
❷ FM/AMアンテナ端子(ANTENNA) ·········· (25)
❸ アナログ音声端子 ·········· (20〜24、26)
❹ プリアウト端子(PRE OUT) ·········· (9、26、46〜48)
❺ 7.1チャンネル入力端子(7.1CH INPUT) ·········· (26)
❻ スピーカー端子(SPEAKERS) ·········· (9、46〜48)
❼ ACインレット(AC IN) ·········· (9)
❽ コンポーネントビデオ端子(COMPONENT VIDEO) ·········· (20〜22)
❾ HDMI端子 ·········· (19)
❿ デジタル音声端子(OPTICAL/COAXIAL) ·········· (20〜24)
⓫ ネットワーク端子(NETWORK) ·········· (27)
⓬ FLASHER IN端子
コントロール BOX やその他のコントロール機器を使って、本機をコントロールするときに使用します。
⓭ リモートコントロール端子(REMOTE CONTROL) ·········· (50)
⓮ M-XPort端子 ·········· (25)
⓯ トリガー出力端子(DC OUT) ·········· (51)
⓰ ビデオ端子(VIDEO) ·········· (20〜22)
⓱ アース端子(PHONO GND) ·········· (24)

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ ディスプレイ
①LEARN 表示 …………(90)
②MACRO 表示 …………(91)
③インフォメーションディスプレイ
④ 表示 …………(88)

❷ ソース電源ボタン
(SOURCE) …………(60、89)

❸ SETボタン …………(88、90、91)

❹ HDMIボタン …………(19、90、91)

❺ 入力モードボタン(A/D) …………(68)

❻ 入力ソース選択ボタン …………(28)

❼ ソース選択ボタン
(SOURCE SEL) …………(28)

❽ 入力ソース切り替えボタン
(INPUT▲, ▼) …………(28、60、88)

❾ ディスプレイ(DISPLAY)/
チューナーモード(T.MODE)ボタン
…………(33、83)

❿ SHIFT/トップメニュー(TOP MENU)
ボタン …………(33、36、63)

⓫ カーソルボタン(△▽◁ ▷) …………(62〜64)

⓬ メニューボタン(MENU) …………(64)

⓭ マクロボタン(MACRO) …………(91)

⓮ 数字ボタン …………(33、36、89、91)

⓯ クリアーボタン(CLR) …………(92)

⓰ 選局ボタン (TUNING +, -) …………(33)

⓱ リモコン信号送信窓

⓲ 電源ボタン(ON, STANDBY) …………(10、15)

⓳ スピーカーA/B切り替えボタン
(SPKR A/B) …………(29)

⓴ テストトーンボタン(TEST TONE) …………(77)

㉑ ミューティングボタン(MUTE) …………(29)

㉒ ライトボタン …………(93)

㉓ 主音量調節ボタン
(VOLUME +, -) …………(29)

㉔ サラウンドモード(SURR.) /メモリー
(MEMORY)ボタン …………(33、36、40)

㉕ サーチ(SEARCH)/インフォメーション
(INFO)ボタン …………(30、34、64)

㉖ エンターボタン(ENTER) …………(62〜64)

㉗ リターンボタン(RETURN) …………(62〜64)

㉘ システムボタン
…………(31、32、37〜39、89)
- ポーズボタン(❚❚)
- プレイボタン(▶)
- ストップボタン(■)
- スキップボタン(⏮、⏭)
- サーチボタン(◀◀、▶▶)

FM/AMバンド切り替えボタン
(BAND) …………(34)

㉙ ステレオボタン(STERO) …………(42)

㉚ オートボタン(AUTO) …………(40、58、111)

㉛ MULTEQ® XTボタン
(MULTEQ) …………(71、79)

㉜ オーディオディレイボタン
(A.DELAY) …………(74)

㉝ M-DAXボタン …………(74)

㉞ チャンネルレベル調節ボタン
(CH LVL) …………(54)

㉟ スリープタイマーボタン(SLEEP) …………(53)

㊱ 挿入ボタン(INSERT) …………(64)

㊲ 削除ボタン(DELETE) …………(64)

㊳ ピュアダイレクトボタン
(P.DIRECT) …………(42)

㊴ リピートボタン(REPEAT) …………(31、32)

㊵ ランダムボタン(RANDOM) …………(31、32)

㊶ Audyssey DSX™ボタン(A-DSX) …………(72)

㊷ Dynamic EQ®/Dynamic Volume®
ボタン(DYN EQ/VOL) …………(72)

㊸ ビデオセレクトボタン(V.SEL) …………(67)

㊹ テレビ操作ボタン
(TV POWER/INPUT) …………(89)

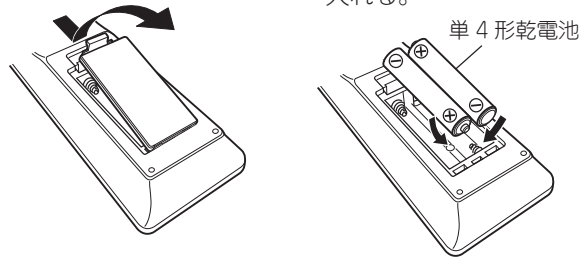
㊺ チャンネル/プリセットボタン
(CHANNEL/PRESET+, -)
…………(33、36、89)

ご注意

本機では、**SATR** ボタンは使用しません。

乾電池の入れかた

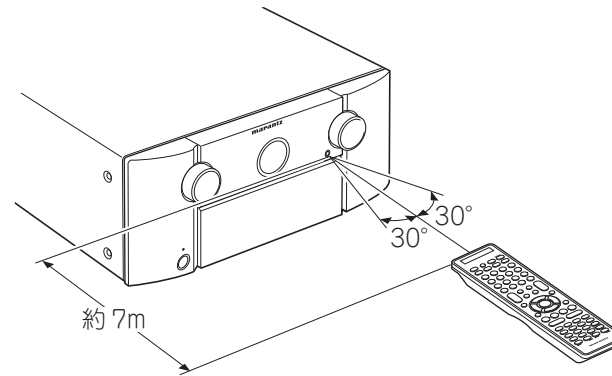
① 裏ぶたを矢印の方向へ押し上げて取り外す。

② 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元通りにする。

ご注意

- リモコンには単 4 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

その他の情報

- ❑ 登録商標について（☞99 ページ）
- ❑ サラウンド（☞100 ページ）
- ❑ 映像信号とモニター出力の関係（☞104ページ）
- ❑ 用語の解説（☞105 ページ）

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。（順不同）

	本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT、Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume®、Audyssey Dynamic Surround Expansion™ は、Audyssey Laboratories の商標です。
	DLNA®、DLNA ロゴ、および DLNA CERTIFIED® は Digital Living Network Alliance の商標、サービスマーク、または認証マークです。 製品のカテゴリー：DMP（デジタルメディアプレーヤー） DLNA Certified® 製品機能：FINDS, PLAYS コンテンツタイプ：音声、画像、映像（サポートされたメディア形式を確認してください） DLNA 顧客向けウェブサイト：www.dlna.org コンテンツによっては他の DLNA Certified® 製品と互換性を持たない場合があります（例：オプションのメディア形式）。

DOLBY PRO LOGIC IIz DOLBY VIRTUAL SPEAKER	ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
dts-HD Master Audio	本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTSHD および DTS-HDMaster Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc.©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。
	DTS Neural Surround は楽器やボーカル、残響などマスキングされてしまいがちな音のディティールを再現し、今までの CD やデジタルメディアプレーヤーなどの通常のステレオ信号やサラウンド処理された信号では得ることのできなかった素晴らしい体験をリスナーに届けます。DTS NeuralSurround はサラウンドをさらなる高いレベルに引き上げる技術です。 DTS Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS is a registered trademark & the DTS Logos and Symbol are trademarks of DTS, Inc. © 1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.

HDMI	HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。
Made for iPod iPhone	“Made for iPod” and “Made for iPhone” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle, and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. • iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="2">MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)は、MPEG(Moving Picture Experts Group)により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。
MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。
【米国におけるパテントナンバー】</td></tr>
<tr><td>08/937,950
5848391
5,291,557
5,451,954
5 400 433
5,222,189
5,357,594
5 752 225
5,394,473
5,583,962
5,274,740
5,633,981
5 297 236
4,914,701
5,235,671
07/640,550
5,579,430
08/678,666
98/03037
97/02875
97/02874
98/03036
5,227,788
5,285,498</td><td>5,481,614
5,592,584
5,781,888
08/039,478
08/211,547
5,703,999
08/557,046
08/894,844
5,299,238
5,299,239
5,299,240
5,197,087
5,490,170
5,264,846
5,268,685
5,375,189
5,581,654
05-183,988
5,548,574
08/506,729
08/576,495
5,717,821
08/392,756</td></tr>
</table>

This item incorporates copy protection technology that is protected by U.S. patents and other intellectual property rights of Rovi Corporation. Reverse engineering and disassembly are prohibited.

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サラウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サラウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サラウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、“Speaker Config.”(☞75ページ)の設定により出力するチャンネルが異なります。

サラウンドモード (☞40 ページ)	チャンネル出力							Surround Parameter(☞70 ページ)		
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンドバック 左 / 右	フロントハイト 左 / 右	フロントワイド 左 / 右	サブウーハー	HT-EQ *5 (☞70ページ)	DRC *6 (☞70ページ)	D. Comp *7 (☞70ページ)
PURE DIRECT(2 チャンネル)	○						◎*4		○	○
PURE DIRECT(マルチチャンネル)	○	◎	◎	◎*1	◎*1	◎*1	◎		○	○
DIRECT(2 チャンネル)	○						◎*4		○	○
DIRECT(マルチチャンネル)	○	◎	◎	◎*1	◎*1	◎*1	◎		○	○
STEREO	○						◎	○	○	○
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎			◎	○		
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎		◎		◎	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎			◎	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎				◎	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○	◎	◎		◎*2	◎*3	◎	○	○	○
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎			◎	○	○	○
DTS NEO:6 A-DSX	○	◎	◎		◎*2	◎*3	◎	○	○	○
Audyssey DSX	○	◎	◎		◎*2	◎*3	◎	○	○	○
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎		◎	○		○
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎		◎	○		○
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎		◎	○	○	
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎		◎	○		○
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎		◎	○		○
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎		◎	○		○
DTS Express	○	◎	◎	◎	◎		◎	○		○
MULTI CH STEREO	○	◎	◎	◎			◎	○		○
NEURAL	○	◎	◎	◎			◎	○		
DOLBY VIRTUAL SPEAKER	○						◎	○		
DOLBY HEADPHONE	○									

*1 各チャンネルの入力信号が含まれる場合に音声を出力します。
*2 メニューの“Audyssey DSX”の設定(☞72 ページ)が“ON-Height-”のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
*3 メニューの“Audyssey DSX”の設定(☞72 ページ)が“ON-Wide-”のときに、フロントワイドスピーカーから音声を出力します。
*4 メニューの“Subwoofer Mode”設定(☞76 ページ)が“LFE+Main”のときのみ、サブウーハーから音声を出力します。
*5 入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。
*6 この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。
*7 この項目は、Dolby Digital および DTS 信号を再生時に選択できます。

サラウンドモード（☞40 ページ）	Surround Parameter（☞70 ページ）						Tone ＊9（☞71 ページ）	Audyssey Settings＊10（☞71 ページ）			Audyssey DSX™ Soundstage ＊10（☞72 ページ）	M-DAX ＊13（☞74 ページ）
	LFE ＊8（☞70 ページ）	Height Gain（☞71 ページ）	PRO LOGIC II/IIx Music モードのみ			NEO:6 Music モードのみ						
			Panorama（☞70 ページ）	Dimension（☞70 ページ）	C. Width（☞71 ページ）	C. Image（☞70 ページ）		MultEQ® XT（☞71 ページ）	Dynamic EQ® ＊11（☞72 ページ）	Dynamic Volume® ＊12（☞72 ページ）		
PURE DIRECT (2 channel)	○											
PURE DIRECT (Multi-channel)												
DIRECT (2 channel)	○											
DIRECT (Multi-channel)	○											
STEREO	○						○	○	○	○		○
MULTI CH IN							○	○	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIz		○					○	○	○	○		○
DOLBY PRO LOGIC IIx			○	○	○		○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II			○	○	○		○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX			○	○	○		○	○	○	○	○	○
DTS NEO:6						○	○	○	○	○	○	○
DTS NEO:6 A-DSX	○					○	○	○	○	○	○	○
Audyssey DSX	○						○	○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL	○						○	○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus	○						○	○	○	○	○	
DOLBY TrueHD	○						○	○	○	○	○	
DTS SURROUND	○						○	○	○	○	○	
DTS 96/24	○						○	○	○	○	○	
DTS-HD	○						○	○	○	○	○	
DTS Express	○						○	○	○	○	○	
MULTI CH STEREO							○	○	○	○		○
NEURAL							○	○	○	○		○
DOLBY VIRTUAL SPEAKER							○	○	○	○		○
DOLBY HEADPHONE							○	○	○	○		○

＊8　この項目は、Dolby Digital、DTS および DVD オーディオを再生時に選択できます。
＊9　メニューの"Dynamic EQ"設定（☞72 ページ）が"ON"のとき、この項目を設定できません。
＊10　入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。
＊11　メニューの"MultEQ XT"設定（☞71 ページ）が"OFF"または"Manual"のとき、この項目を設定できません。
＊12　メニューの"Dynamic EQ"設定（☞72 ページ）が"OFF"のとき、この項目を設定できません。
＊13　この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。

❑入力信号の種類と対応するサラウンドモード

この表は、各サラウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認のうえ、サラウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

○ 選択できるサラウンドモードを示します。

サラウンドモード（☞40 ページ）	注	入力信号の種類とフォーマット																			
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC		
		ANALOG	LINEAR PCM（マルチチャンネル）	LINEAR PCM（2ch）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS（5.1ch）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4ch）	DOLBY DIGITAL（4/3ch）	DOLBY DIGITAL（2ch）	AAC（5.1ch）	AAC（2ch）	AAC（1+1ch）
DTS SURROUND																					
DTS-HD MSTR	∗5				○																
DTS-HD HI RES	∗5					○															
DTS ES DSCRT6.1	∗1∗3							○													
DTS ES MTRX6.1	∗1∗3								○												
DTS SURROUND	∗5							○	○	○											
DTS 96/24	∗5										○										
DTS (–HD) + PLⅡx MOVIE	∗2∗3				○	○	○	○	○	○	○										
DTS (–HD) + PLⅡx MUSIC	∗1∗3				○	○	○	○	○	○	○										
DTS (–HD) + PLⅡz	∗4				○	○	○	○	○	○	○										
DTS EXPRESS	∗5						○														
DTS (–HD) + NEO:6	∗1∗3				○	○	○		○	○	○										
DTS NEO:6 CINEMA	∗5	○		○														○		○	
DTS NEO:6 MUSIC	∗5	○		○														○		○	
DTS NEO:6 CINEMA A-DSX		○		○														○		○	
DTS NEO:6 MUSIC A-DSX		○		○														○		○	
Audyssey DSX					○	○	○	○	○	○	○										
DOLBY SURROUND																					
DOLBY TrueHD	∗5											○									
DOLBY DIGITAL+	∗5												○								
DOLBY DIGITAL EX	∗1∗3													○	○	○	○				
DOLBY (D+) (HD) +EX	∗1∗3											○	○								
DOLBY DIGITAL	∗5													○	○	○	○				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLⅡx MOVIE	∗2∗3											○	○	○	○	○	○				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLⅡx MUSIC	∗1∗3											○	○	○	○	○	○				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLⅡz	∗4											○	○	○	○	○	○				
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx MOVIE	∗1∗3	○		○														○		○	
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx MUSIC	∗1∗3	○		○														○		○	
DOLBY PRO LOGIC Ⅱx GAME	∗1∗3	○		○														○		○	
DOLBY PRO LOGIC Ⅱz	∗4	○		○														○		○	
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ MOVIE	∗5	○		○														○		○	
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ MUSIC	∗5	○		○														○		○	
DOLBY PRO LOGIC Ⅱ GAME	∗5	○		○														○		○	

∗1　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞76 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗2　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞76 ページ）が“1spkr”または“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗3　このサラウンドモードは、メニューの“Amp Assign”設定（☞75 ページ）が“Normal”のときに選択できます。
∗4　メニューの“Speaker Config.”⇨“F.Height”設定（☞76 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗5　“Audyssey DSX”（☞72 ページ）を“ON”に設定しているときも同様になります。

サラウンドモード（☞40 ページ）	注	入力信号の種類とフォーマット																			
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC		
		ANALOG	LINEAR PCM（マルチチャンネル）	LINEAR PCM（2ch）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS（5.1ch）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4ch）	DOLBY DIGITAL（4/3ch）	DOLBY DIGITAL（2ch）	AAC (5.1ch)	AAC (2ch)	AAC (1+1ch)
DOLBY SURROUND																					
DOLBY PRO LOGIC II MOVIE A-DSX		○		○														○		○	
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC A-DSX		○		○														○		○	
DOLBY PRO LOGIC II GAME A-DSX		○		○														○		○	
Audyssey DSX												○	○	○	○	○	○				
DOLBY VIRTUAL SPEAKER		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
DOLBY HEADPHONE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
MPEG-2 AAC																					
AAC + DOLBY EX																			○		
AAC + PLIIx MOVIE																			○		
AAC + PLIIx MUSIC																			○		
AAC + PLIIz																			○		
MPEG-2 AAC																			○		○
Audyssey DSX																			○		
MULTI CH IN																					
MULTI CH IN	∗5		○																		
MULTI CH IN + PLIIx MOVIE	∗2∗3		○																		
MULTI CH IN + PLIIx MUSIC	∗1∗3		○																		
MULTI CH IN + PLIIz	∗4		○																		
MULTI CH IN + Dolby EX	∗3		○																		
MULTI CH IN 7.1	∗3		○ (7.1)																		
Audyssey DSX			○																		
DIRECT																					
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PURE DIRECT																					
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MULTI CH STEREO		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																					
STEREO		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
NEURAL																					
NEURAL		○		○														○		○	
AUTO																					
AUTO		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

∗1　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞76 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗2　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞76 ページ）が“1spkr”または“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗3　このサラウンドモードは、メニューの“Amp Assign”設定（☞75 ページ）が“Normal”のときに選択できます。
∗4　メニューの“Speaker Config.”⇨“F.Height”設定（☞76 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗5　“Audyssey DSX“（☞72 ページ）を“ON“に設定しているときも同様になります。

映像信号とモニター出力の関係

<table>
<tr><th rowspan="3"></th><th colspan="10">メインゾーンモニター出力</th></tr>
<tr><th rowspan="2">Video Convert</th><th colspan="3">入力信号</th><th colspan="3">出力信号</th><th colspan="3">メニュー表示</th></tr>
<tr><th>HDMI</th><th>COMPONENT</th><th>VIDEO</th><th>HDMI</th><th>COMPONENT</th><th>VIDEO</th><th>HDMI</th><th>COMPONENT</th><th>VIDEO</th></tr>
<tr><td>1</td><td>ON</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>壁紙</td><td>×</td><td>×</td><td rowspan="2">メニュー表示のみ</td><td>× *2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>2</td><td>OFF</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td><td>× *2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>3</td><td>ON</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>VIDEO</td><td>VIDEO</td><td>VIDEO</td><td>○ (VIDEO)</td><td>× (VIDEO) *3</td><td>× (VIDEO)</td></tr>
<tr><td>4</td><td>ON</td><td>×</td><td>○ (1080p)</td><td>×</td><td rowspan="4">COMPONENT</td><td rowspan="7">COMPONENT</td><td>×</td><td rowspan="4">○ (COMPONENT)</td><td>× (COMPONENT) *2</td><td rowspan="3">×</td></tr>
<tr><td>5</td><td>ON</td><td>×</td><td>○ (1080i～480p)</td><td>×</td><td>×</td><td rowspan="2">× (COMPONENT) *3</td></tr>
<tr><td>6</td><td>ON</td><td>×</td><td>○ (480i/576i)</td><td>×</td><td>×</td></tr>
<tr><td>7</td><td>ON</td><td>×</td><td>○ (1080p)</td><td>○</td><td rowspan="4">VIDEO</td><td>× (COMPONENT)</td><td rowspan="4">× (VIDEO)</td></tr>
<tr><td>8</td><td>ON *1</td><td>×</td><td>○ (1080p)</td><td>○</td><td>–</td><td>–</td><td>○ (VIDEO)</td></tr>
<tr><td>9</td><td>ON</td><td>×</td><td>○ (1080i～480p)</td><td>○</td><td rowspan="2">COMPONENT</td><td rowspan="2">○ (COMPONENT)</td><td rowspan="2">× (COMPONENT) *3</td></tr>
<tr><td>10</td><td>ON</td><td>×</td><td>○ (480i/576i)</td><td>○</td></tr>
<tr><td>11</td><td>ON</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td rowspan="4">HDMI</td><td>×</td><td>×</td><td rowspan="4">○ (HDMI)</td><td rowspan="2">× *2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>12</td><td>ON</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>VIDEO</td><td>× (VIDEO)</td></tr>
<tr><td>13</td><td>ON</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td rowspan="2">COMPONENT</td><td>×</td><td rowspan="2">× (COMPONENT) *2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>14</td><td>ON</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>VIDEO</td><td>× (VIDEO)</td></tr>
<tr><td>15</td><td>OFF</td><td>×</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td>VIDEO</td><td rowspan="7">メニュー表示のみ</td><td>× *2</td><td>× (VIDEO)</td></tr>
<tr><td>16</td><td>OFF</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td rowspan="2">COMPONENT</td><td>×</td><td rowspan="2">× (COMPONENT) *2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>17</td><td>OFF</td><td>×</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td>VIDEO</td><td>× (VIDEO)</td></tr>
<tr><td>18</td><td>OFF</td><td>○</td><td>×</td><td>×</td><td rowspan="4">HDMI</td><td>×</td><td>×</td><td rowspan="2">× *2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>19</td><td>OFF</td><td>○</td><td>×</td><td>○</td><td>×</td><td>VIDEO</td><td>× (VIDEO)</td></tr>
<tr><td>20</td><td>OFF</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td><td rowspan="2">COMPONENT</td><td>×</td><td rowspan="2">× (COMPONENT) *2</td><td>×</td></tr>
<tr><td>21</td><td>OFF</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>VIDEO</td><td>× (VIDEO)</td></tr>
</table>

○　映像入力あり
×　映像入力なし
*1　HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないとき

× 映像出力なし

○ ( ) ( ) 内の映像にスーパーインポーズ
× ( ) ( ) 内の映像のみ出力
×　映像、メニューともに出力なし
*2　HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないときに、メニューのみ表示されます。
*3　HDMI モニターが接続されていないとき、または HDMI モニターの電源が入っていないときは、( ) の映像にスーパーインポーズします。

	ゾーン 2 モニター出力			
	入力信号		出力信号	
	COMPONENT	VIDEO	COMPONENT	VIDEO
1	×	×	×	×
2	×	○	×	○
3	○	×	○	×
4	○	○	○	○

x.v.Color信号およびコンピューター解像度（例：VGA）が入力された場合は、メニュー表示をスーパーインポーズできません。

ご注意

- 3Dビデオ信号を再生中にメニューの操作をおこなうと、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。このとき、メニューの背景に再生映像を表示しません。
- 3Dビデオ信号の再生中は、状態表示画面を表示しません。

用語の解説

A

A2DP 規格
A2DP は、ケーブルの代わりに無線通信を使用する Bluetooth の車載機器向けや AV 機器向けに定められたプロファイルの 1 つです。

Adobe RGB color / Adobe YCC601 color
x.v.Color 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

Audyssey Dynamic Surround Expansion™ (Audyssey DSX)
臨場感のあるサラウンドシステムの構築はオーディオシステムがどのように人間の聴覚特性に適した環境を再現するかという再現能力に依存しています。現在考えられる３つの重要な要素は(1) 周波数特性、(2) ダイナミックレンジ、(3) 正確な空間の再現があげられます。(1) 周波数特性については既に人間の聴覚特性を超えているような高いサンプリングレート(96kHz や 192kHz など)で実現されており、(2)のダイナミックレンジについても 120dB に達するような信号レベルを再生させるオーディオシステムで実現されています。しかし、(3) 正確な空間の再現については既存の 5.1ch システムによって実現している環境では人間の聴覚特性の限界にはまだ到達しておらず、リスナーはまだまだ多くのオーディオ信号の指向性を感じることが可能です。
Audyssey DSX はこれまでの 5.1ch サラウンドフォーマットで限界だと思われていた空間再現能力の限界を打ち破るべく開発されました。
ITU による 5.1ch 規格では 3 つのフロントスピーカーと 2 つのリアスピーカーの設置を推奨しています。フロント(L/R) スピーカーはそれぞれ視聴ポイントから見て± 30°の位置に、センター(C) スピーカーは± 0°の位置に、サラウンド(LS/RS) スピーカーはリスニングポイントから見て± 100～120°の間に設置されることが推奨されています。このようなすべてのスピーカーはリスニングポイントから等距離に配置されるか、もし等距離が不可能な場合はタイムディレイ(時間遅延)によって相殺されるような配置に設置されなければならないとされています。また低周波数帯域に対する効果(LFE)は低域成分を再現するチャンネルとしてサブウーハーが使用されます。
2ch のステレオシステムと比較すると 5.1ch のサラウンドシステムでは確実にサラウンド環境は高まります。例えば前方を流れるように行き来するような信号やリスナーの背面に対する効果音などを作り出すことにおいて十分効果を生み出しています。しかし 5.1ch システムはリスナーを違和感なく包み込むような音場・サラウンド空間を作り出す為に必要とされる反射信号を生み出すには不十分なシステムです。残念ながら既に利用されているサラウンドバックを追加したような 7.1ch のシステムは正しい位置にスピーカーが配置されておらず、サラウンド空間を聴覚特性を生かした上で十分に向上させているシステムとは言えません。
Audyssey DSX がチャンネルを追加すると言っても特別なエフェクトや疑似的効果をかけるようなものではありません。正確な臨場感のあるサラウンド空間の構築には直接耳に入る音声信号の流れと間接的に耳に入る信号の流れの２つが必要となります。壁などへの反射を経由して耳に届く音声信号は、直接耳に入った後に伝達しサラウンド空間に広さと奥行きを実現する為に非常に重要な役割を担っています。また、5.1ch が作り出すサラウンド空間・効果よりも更に大きな効果を生み出す為には、追加されたサラウンドチャンネルが耳に入る際のオーディオ信号の流れや耳への信号到達時間、正確な周波数特性の制御が重要です。
横(ワイド) 方向のオーディオ信号源に対する聴覚特性の研究において、サラウンド空間の横(ワイド) 方向への広がりやサラウンド空間そのものに広がりを認知する力と反射信号には強いつながりがあることが分かっており、最も重要な信号は± 60° で横の壁などから作りだされる反射信号です。Audyssey DSX はこの± 60° の場所にワイドチャンネル(LW/RW) を作り出し、リスニングに必要とされる正しい聴覚特性への補正と周波数補正を併せ持ちます。事実として、このワイドチャンネルはより臨場感のあるサラウンド空間を実現する上で 7.1ch システムの持つサラウンドバックチャンネルよりも非常に重要な要素です。
包み込まれるようなサラウンド空間を作る為には 7.1ch システムではサラウンドバックの代わりにワイドチャンネルを使用したシステムの方がはるかに効果的です。サラウンド空間を作る上では、リスナーの背面にサラウンドチャンネルを追加することによる効果は、ワイドチャンネルによって生み出される効果よりもずっと小さなものです。
この横方向からの信号の次に重要な要素は前方の上方向(高さ方向)から届く聴覚信号です。Audyssey DSX はリスニングポイントから水平方向± 45° の位置で、さらに垂直方向に 45° の角度をつけたハイトチャンネル(LH/RH) を作り出します。
また、Audyssey DSX は今まで述べた最適なサラウンド空間を作り出す際に既存のサラウンドに対しても効果を高める" サラウンドプロセッシング" を行います。Audyssey DSX の" サラウンドプロセッシング " はサラウンドシステムで使用されるそれぞれのスピーカーの関連性や、サラウンド空間に対する聴覚特性を高める為、周波数特性・タイムドメイン(時間軸)の観点から補正を行う処理です。Audyssey DSX はユーザーが本当に求める今までにないサラウンド環境を生み出す新しい技術です。
まとめとして、サラウンド空間・環境をより高める為には１番重要な点はワイドチャンネルを追加することであり、次にハイトチャンネルを追加することです。ワイドチャンネル・ハイトチャンネルそれぞれを追加することが実現可能であればサラウンド空間は今までに感じたことのないくらい高められます。Audyssey DSX は 5.1ch 以上のシステムを作ることが出来るスピーカーシステムをお持ちであれば今まで以上のサラウンド空間を作り出すことが可能です。

Audyssey Dynamic EQ®
Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ® XT 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®
Audyssey Dynamic Volume は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化(静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など) をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volume は、Audyssey Dynamic EQ の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ® XT
Audyssey MultEQ XT は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQ XT は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Auto Lip Sync
Auto Lip Sync 機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

B

Bluetooth
携帯情報機器などで数 m 程度の機器間接続に使われる短距離無線通信技術の一つです。ノートパソコンや PDA、携帯電話などをケーブルを使わずに接続し、音声やデータをやりとりすることができます。

D

Deep Color
従来の8ビットの色数を超える色調表現が可能な技術で、色縞のない、より自然に近い色を再現することができます。

DLNA
DLNA および DLNA CERTIFIED は Digital Living Network Alliance（デジタルリビングネットワークアライアンス）の商標 / サービスマークです。コンテンツには DLNA CERTIFIED™ 製品と適合しないものがある可能性があります。

Dolby Digital
Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント3チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド2チャンネル（SL、SR）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital EX
Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット "DOLBY DIGITAL SURROUND EX" を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した6.1チャンネルのサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた6.1チャンネルでの音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby Headphone
ドルビーラボラトリーズと豪州レイクテクノロジー社との共同開発による立体音響技術で、サラウンド音場を通常のヘッドホンで再生できる技術です。
部屋でのスピーカー再生をシュミレートしたドルビーヘッドホンは音源が前方あるいは側面にしっかり頭外定位するため、まるで映画館かホームシアターにいるような迫力のあるサウンドを聞くことが可能です。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大8チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大6チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic Ⅱ
Dolby Pro Logic Ⅱ は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は5チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性 20Hz～20kHz 以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic Ⅱx
Dolby Pro Logic Ⅱx は、Dolby Pro Logic Ⅱ をさらに改良したマトリクスデコード技術です。2チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した "Music" モードと映画再生に適した "Movie" モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な "Game" モードがあります。

Dolby Pro Logic Ⅱz
Dolby Pro Logic Ⅱz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

Dolby Virtual Speaker
ドルビーバーチャルスピーカーはドルビーラボラトリーズにより承認された技術であり、マルチチャンネルドルビーデジタルソースを2本のスピーカーから出力し、バーチャル化されたサラウンド音声体験を作り出します。
さらにドルビーバーチャルスピーカーはドルビープロロジックやドルビープロロジックⅡにより作り出されたサラウンド音響効果をシミュレートします。ドルビーバーチャルスピーカーは元のマルチチャンネルオーディオ情報をすべて保持してリスナーにスピーカーに囲まれているかのような感覚を提供します。

DTS
Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24
DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround
DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1
DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1
DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express
DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～ 256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD
ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス･オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマット

を改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS Neural Surround
Neural Surround は音楽再生のために開発された最新のサラウンド技術です。音響心理学に基づいた周波数領域処理をおこなうことにより、優れたチャンネルセパレーションと定位を実現し、より精細なサウンドステージを再現します。

DTS NEO:6™ Surround
DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した "DTSNEO:6 Cinema" と、音楽再生に適した "DTS NEO:6 Music" があります。

F

FLAC (Free Lossless Audio Codec)
フリーの可逆音声圧縮フォーマットです。

H

HDCP
機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の一つです。

HDMI
High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

L

LFE
Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz ～ 120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)
音声データ圧縮方式のひとつで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4
デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。動画の規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

MPEG-2 AAC
MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

S

sYCC601 color
x.v.Color 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

V

vTuner
インターネットラジオの有料オンラインコンテンツサービスです。
本サービスに関するお問い合せは、下記 vTuner のサイトまでお願い致します。
vTuner ホームページ：
http://www.radiomarantz.com

本製品は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、Nothing Else MattersSoftwareand BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

W

WAV (Wave)
Windows 標準の音声フォーマットです。ファイルサイズは大きくなる傾向がありますが、原音に近い音声を保持できます。

Windows Media DRM
マイクロソフト社が開発した著作権保護技術です。
コンテンツプロバイダーは、自らのコンテンツ（"セキュアコンテンツ"）の完全性を保護するために、本デバイス（"WMDRM"）に内蔵された Windows Media 用デジタル権管理技術を使用し、当該コンテンツに対する自らの知的財産権（著作権を含む）が悪用されないようにしています。
本デバイスは、セキュアコンテンツを再生するため、WMDRM ソフトウェア（"WM-DRM ソフトウェア"）を使用しています。本デバイス内の WM-DRM ソフトウェアのセキュリティがあやうくなった場合、セキュアコンテンツの所有者（"セキュアコンテンツオーナー"）は、マイクロソフト社が、セキュアコンテンツをコピー・表示・再生する新たなライセンスを得る WM-DRM ソフトウェアの権利を取り消すよう要請することができます。この取り消しは、保護されていないコンテンツを再生する WM-DRM ソフトウェアの能力には影響がありません。インターネットまたはパソコンからセキュアコンテンツのライセンスをダウンロードするときはいつも、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストがデバイスに送られます。マイクロソフト社は、セキュアコンテンツオーナーに代わって、当該ライセンスとともに、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストをデバイスにダウンロードすることができます。

Windows Media Player Ver.11
マイクロソフト社が無料で提供しているメディアプレーヤーです。
Windows Media Player ver.11 で作成されたプレイリストや WMA、DRM WMA、MP3、WAV ファイルなどが再生可能です。

WMA (Windows Media Audio)
米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。
WMA データは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XP、または Windows Media® Player 9 Series を使用してエンコード（符号化）することができます。
WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

X

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

さ行

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことでΩ（オーム）という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ゾーン 2
本機は、本機が設置されている部屋（メインゾーン）以外のひとつの部屋でも本機の再生をおこなうことができます（ゾーン 2 再生）。ゾーン 2 再生をおこなう部屋をゾーン 2 と呼びます。

ゾーン 3
本機は、本機が設置されている部屋（メインゾーン）以外のひとつの部屋でも本機の再生をおこなうことができます（ゾーン 3 再生）。ゾーン 3 再生をおこなう部屋をゾーン 3 と呼びます。

た行

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

は行

ペアリング
ペアリングとは、2 台の Bluetooth デバイスの接続設定に必要な操作です。ペアリングをおこなうことによって、Bluetooth 機器同士が互いにアクセスできるようになります。

プログレッシブ（順次走査）
映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

保護回路
何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。
本機では、異常発生時には電源表示が点滅し、スタンバイ状態になります。

ま行

メインゾーン
本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

故障かな？と思ったら

❏ 各接続は正しいですか
❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【 共通 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 • 保護回路が働いています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5 〜 10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。	9 8、108
ディスプレイの表示が消える。	• メニューの“Display”設定を“OFF”以外の設定にしてください。	83
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	– –
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどした後で、接続し直してください。	8 8
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	111

【 映像 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	9 10

【音声】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。 • スピーカーの接続を確認してください。 • 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。 • 主音量を適切な大きさに調節してください。 • ミューティング（消音）モードを解除してください。 • 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 • デジタル入力端子を割り当てた端子と入力モードを合わせてください。 • 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取り外してください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカーから音が出なくなります。	9、19～27 9、46～48 － 29、60 29、60 28、60 68 94
サラウンドスピーカーから音が出ない。	• SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。	－
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• メニューの“Amp Assign”設定が“Normal”になっているか確認してください。 • メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定が“None”以外になっているか確認してください。 • サラウンドモードが“STEREO”以外になっているか確認してください。	75 76 40
フロントハイトスピーカーから音が出ない。	• メニューの“Amp Assign”設定が“Normal”になっているか確認してください。 • メニューの“Speaker Config.”⇨“F.Height”設定が“None”以外になっているか確認してください。	75 76
フロントワイドスピーカーから音が出ない。	• メニューの“Amp Assign”設定が“Normal”になっているか確認してください。 • メニューの“Speaker Config.”⇨“F.Wide”設定が“None”以外になっているか確認してください。	75 76
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。 • サブウーハーの電源を入れてください。 • メニューの“Speaker Config.”⇨“Subwoofer”を“Yes”に設定してください。 • メニューの“Speaker Config.”の“Front.”、“Center”の設定が“Large”で、なおかつ“Subwoofer Mode”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	9、46～48 10 75 75、76
DTS 音声が出力されない。	• メニューの“Decode Mode”を“Auto”または“DTS”にしてください。	68
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI で接続してください。	19

【HDMI】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI Audio Out”の設定を“AMP”に設定してください。 • HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの“HDMI Audio Out”の設定を“TV”に設定してください。	19 78 78
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 • テレビが著作権保護（HDCP）に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	19 19、28 18
HDMI コントロール対応機器に以下の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源のオン / オフ • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• メニューの“HDMI Control”を“OFF”に設定してください。各機器の電源のオン / オフのみ操作したい場合は、メニューの“Power Off Control”を“OFF”に設定してください。	52、78

【FM/AM チューナー】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
受信できない。または、雑音や歪みが多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。 • 本機から AM ループアンテナを離してください。 • FM 屋外アンテナを使用してください。 • アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	25 25 25 25

【M-XPort】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
ワイヤレスレシーバー（RX101）を接続時、音声が出力されない。	• Bluetooth 機器とワイヤレスレシーバー（RX101）の間で、正しくペアリングされているか確認してください。	25、108

【インターネットラジオ / メディアサーバー/iPod/USB メモリー/Flickr】

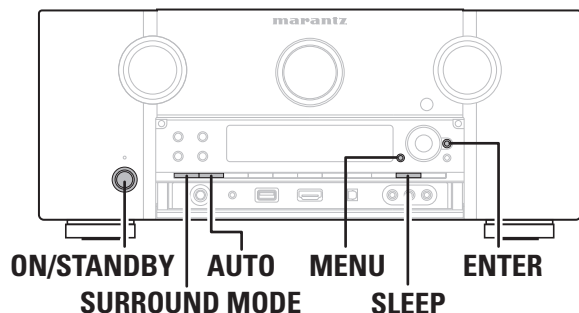
症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
USB メモリーを接続したとき、メニュー画面に"USB"が表示されない。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。接続を確認してください。 • 本機は、マスストレージクラスまたは MTP 対応の USB メモリーに対応しています。それ以外の USB メモリーは認識できません。 • 本機が認識できないデバイスを接続しています。すべての USB メモリーに対して、動作や電源の供給を保障するものではありません • USB ハブを経由した接続はできません。	23 – – –
USB メモリーのファイルを再生できない。	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。詳しくは、USB メモリーの取扱説明書をご覧ください。 • USB デバイス内が複数のパーティションに別れている場合は、第 1 パーティション以外は再生できません。 • ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	– – 31 31
ファイル名が". . ."など、正しく表示されない。	• 本機で表示できない文字は、". (ピリオド)"に置き換えて表示します。	–
インターネットラジオが再生できない。	• イーサネットケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。 • 対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるインターネットラジオのフォーマットは MP3 と WMA のみです。 • パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。 • ラジオステーションが放送を停止しています。放送中のラジオステーションを選んでください。 • IP アドレスが違っています。本機の IP アドレスを確認してください。	27 35 – 36 81
パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。	• ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。 • 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。	35 35 –

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。	• パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。 • パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。 • サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。 • 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。 • メディアサーバーの初回設定時は、接続に数分かかる場合があります。	– – – 81 –
iPod が再生できない。	• USB 端子に iPod を直接接続して使用する場合、対応していない iPod があります。	23
iPod を接続すると、"No Connection"が表示される。	• iPod のバッテリー残量が少ない状態で本機に接続した場合、"No Connection" を表示することがあります。このような場合は、iPod を充電してから本機に接続してください。	–
プリセットまたはお気に入りに登録したラジオステーションに接続できない。	• ラジオステーションが放送を休止しています。しばらく時間をおいてやり直してください。 • ラジオステーションがサービスを停止しています。放送中のラジオステーションを選んでください。	– –
"Server Full"または"Connection Down"と表示され、接続できないラジオステーションがある。	• 放送局が混雑しているか、現在放送を休止しています。しばらく時間をおいてやり直してください。	–
再生中に、音が途切れることがある。	• ネットワークの通信速度が遅いか、通信回線またはラジオステーションが混雑しています。ビットレートの高い放送データを再生している場合や、通信の状況によっては、音が途切れることがあります。	–
音質が良くない。または再生中にノイズが入る。	• 再生しているファイルのビットレートが低いです。	–

【リモコン】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 • リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 • 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 • 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 • 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)が当たっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	98 98 98 98 98

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。
本機は各種設定内容の保存と、保存した内容の再設定ができます。初期化の前に設定内容を保存しておくと、初期化した後も設定の内容を初期化前の状態に戻すことができます。

1 **電源がオンのとき、SLEEP と ENTER を 3 秒以上続けて押す。**
ディスプレイに"MEMORY SAVING"を表示したあと、"COMPLETE"を表示し、設定の保存を完了します。

2 **ON/STANDBY を押して、電源を切る。**

3 **SURROUND MODE と AUTO を同時に押しながら、ON/STANDBY を押す。**

4 **ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。**

5 **SLEEP と MENU を 3 秒以上続けて押す。**
ディスプレイに"MEMORY LOAD"を表示したあと、"COMPLETE"を表示し、手順 1 で保存した設定が復帰したことをあらわします。

- すべての設定を初期化するときは、手順 1 をおこなわずに手順 2 から 4 をおこなってください。
- 手順 4 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、手順 2 からやり直してください。

保障と修理について

❑保証書について

この製品には保証書が添付されております。
保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❑修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❑依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 ······· 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 ··· 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❑補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

❑お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑ オーディオ部

• パワーアンプ部

定格出力：	フロント： 125W+125W(負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05%) センター： 125W(負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05%) サラウンド： 125W+125W(負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05%) サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイド： 125W+125W(負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.05%)
実用最大出力：	フロント： 195W+195W(負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA) センター： 195W(負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA) サラウンド： 195W+195W(負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA) サラウンドバック 195W+195W(負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA)
出力端子：	6～8 Ω

• アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV/47k Ω
周波数特性：	10Hz～100kHz — +1、-3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	96dB（DIRECT モード時）
ひずみ率	0.008%(20Hz ～ 20kHz)(DIRECT モード時)
定格出力	1.2V

• デジタル部

D/A 出力	定格出力：2V(0dB 再生時) 全高調波ひずみ率：0.008%(1kHz、0dB) S/N 比：102dB ダイナミックレンジ：100dB
デジタル入力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

• フォノ・イコライザー部(PHONO 入力　REC OUT)

入力感度：	2.5mV
RIAA 偏差：	± 1dB(20Hz ～ 20kHz)
S/N 比：	74dB(JIS-A、5mV 入力時)
ひずみ率：	0.03%(1kHz、3V 出力時)
定格出力：	150mV

❑ ビデオ部

• 標準ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p、75 Ω
周波数特性：	5Hz～10MHz — +1、-3dB

• コンポーネントビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y(輝度)信号：1Vp-p/75 Ω PB/CB(青色)信号：0.7Vp-p/75 Ω PR/CR(赤色)信号：0.7Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz ～ 60MHz：＋ 0、-3dB(“Video Convert”が“OFF”のとき)

❑ チューナー部

• FM 部

受信周波数範囲：	76.0MHz～90.0MHz
アンテナ端子：	75 Ω
実用感度	1.2 μ V/75 Ω（12.8dBf）
S/N 比：	ステレオ：67dB モ　　ノ：72dB
ひずみ率	ステレオ：0.7%（90% 変調時） モ　　ノ：0.3%（100% 変調時）

• AM 部

受信周波数範囲	522kHz～1629kHz
アンテナ	ループアンテナ（付属）
実用感度	18 μ V

❑ 総合

電源：	AC 100V、50/60Hz
消費電力：	700W(電気用品安全法による) 0.2W(スタンバイ時) 4.0 W(CEC スタンバイ)
最大外形寸法：	440(幅)× 187(高さ)× 406(奥行き)mm
質量：	13.0kg

❑ リモコン(RC011SR)

乾電池：	R03(単 4 形)乾電池 2 本使用

＊ JEITA：(社)電子情報技術産業協会(略称：JEITA)が制定した規格です。

• 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
• 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。
• 本機は国内仕様です。
必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

☞T

☞V

☞W

☞X

☞Z

☞かな

☞い

☞う

☞え

☞お

☞か

☞け

☞こ

☞さ

☞し

☞す

☞せ

☞そ

☞た

☞ち

☞て

☞と

☞に

☞は

☞ひ

☞ふ

☞へ

☞ほ

☞ま

☞み

☞め

☞も

☞ら

☞り

プリセットコード表

機器の選択：BD

ブルーレイディスクプレーヤー

D	Denon	5034, 5035, 5036
H	Hitachi	5031, 5032, 5033
I	Integra	5013
J	JWC	5014, 5015, 5017, 5018, 5019, 5020
L	LG	5010, 5011
M	Marantz	5000, 5026, 5027
	Mitsubishi	5024, 5025
O	Onkyo	5013
P	Panasonic	5001, 5002, 5003
	Philips	5004
	Pioneer	5005
R	RCA	5012
S	Samsung	5005
	Sharp	5028, 5029, 5030
	Sony	5007, 5008, 5009, 5016
T	Toshiba	5012
Y	Yamaha	5021, 5022, 5023

機器の選択：DVD

DVDプレーヤー

A	Aiwa	2036, 2037
	Apex	2012, 2017, 2018, 2019, 2021, 2034
B	BOSE	2038, 2039, 2063
D	Denon	2047, 2048
F	Funai	2049
G	GE	2009, 2020, 2029, 2033
H	Harman Kardon	2061
	Hitachi	2008, 2012, 2031
J	JVC	2006, 2010, 2040, 2041, 2042, 2043
K	Kenwood	2053, 2054
	Koss	2058
M	Magnavox	2007, 2011, 2023, 2025
	Marantz	2025, 2065
	Marantz (Blu-ray)	2064
	Mitsubishi	2011, 0215
O	Onkyo	2062
	Oritron	2009, 2030
P	Panasonic	2003, 2015, 2016, 2055
	Philips	2007, 2011, 2058
	Pioneer	2002, 2014, 2056
	Proscan	2009, 2020, 2032
R	RCA	2005, 2009, 2020, 2035, 2057
S	Sampo	2041
	Samsung	2008, 2012, 2022, 2024, 2027
	Sanyo	2050, 2052
	Sharp	2044, 2045
	Sherwood	2051
	Sony	2001, 2013, 2059
T	Toshiba	2004, 2008, 2026, 2028
Y	Yamaha	2046, 2060
Z	Zenith	2010

機器の選択：SAT

衛星チューナー

A	Alphastar	4027
	Amstrad	4046, 4047, 4050
	Atsky	4048
B	B Sky B	4021, 4045, 4046
C	Chaparral	4039
D	DIRECTV	4001, 4016, 4044
	DISH Network	4030
	Drake	4026
E	Echostar	4007, 4017, 4018, 4019, 4020, 4062, 4063, 4064
	Eurosky	4047, 4056
	Express Vu	4017
F	Foxtel	4051
	Freesat	4056
	Fujitsu	4025
G	GE	4002, 4008, 4009
	General Instruments	4036, 4037
	Gradiente	4044, 4057
H	Hitachi	4001, 4015
	Hughes	4001, 4016
	Humax	4049, 4050, 4051, 4052, 4053
J	Janeil	4025
	JVC	4017
M	Mitsubishi	4001
N	Nokia	4058, 4059, 4060, 4061
O	Optima	4048
P	Panasonic	4004, 4010
	Philips	4031, 4035, 4044, 4057
	Proscan	4002, 4008, 4009, 4011
R	Radio Shack	4036, 4037
	RCA	4002, 4008, 4009, 4029
	Realistic	4040
	Rural Cable	4036
S	Samsung	4022, 4027, 4042, 4043, 4050, 4054, 4055
	Schneider	4041, 4043
	SKY	4044, 4045, 4057
	Skyplus	4048
	Skysat	4041, 4047, 4056
	Sony	4003, 4012, 4014, 4065, 4066, 4067
	Star Choice	4032
	Star Trak	4024
	STS	4038
	SuperDish	4028
T	Teac	4049
	Thomson	4046, 4056
	Toshiba	4001, 4034
U	Uniden	4005, 4006, 4013
	Universum	4056
V	Video Pall	4025
Z	Zenith	4023, 4025, 4033

機器の選択：TV

テレビ

A	Acer	1141
	Admiral	1002, 1009, 1089
	Aiko	1059
	Aiwa	1117, 1118
	Akai	1001
	Amtron	1023
	Anam	1113
	Anam National	1023, 1069, 1092
	AOC	1003, 1024, 1049, 1127
	Audiovox	1023
B	Bell & Howell	1009, 1025
	Benq	1104, 1142
	Broksonic	1003, 1097, 1098, 1113
C	Celebrity	1001
	Citizen	1003, 1013, 1023, 1026, 1059, 1063
	Colortype	1003, 1043
	Contec	1113
	Contec/Cony	1023, 1045, 1047
	Craig	1020, 1022, 1023, 1113
	Crown	1023, 1067
	Curtis Mathes	1003, 1013, 1025, 1026, 1062, 1103, 1110
D	Daewoo	1003, 1013, 1024, 1035, 1036, 1059, 1084, 1101
	Daytron	1003, 1013, 1016
	Dimensia	1103, 1110
	Dumont	1003, 1010, 1153
E	Electroband	1001
	Electrohome	1001, 1003, 1069, 1133
	Emerson	1003, 1013, 1015, 1020, 1021, 1022, 1023, 1025, 1038, 1044, 1045, 1048, 1055, 1061, 1094, 1096, 1099, 1101, 1113
	Envision	1003
F	Fisher	1025, 1051, 1091, 1160
	Fujitsu	1038, 1124, 1125, 1155
	Funai	1023, 1038, 1113
G	Gateway	1150
	GE	1003, 1018, 1022, 1046, 1054, 1069, 1085, 1103, 1110, 1113, 1133, 1136, 1153
	Goldstar	1003, 1013, 1024, 1030, 1045, 1080, 1100 1112, 1154
H	Hallmark	1003
	Hisense	1116
	Hitachi	1003, 1012, 1031, 1032, 1037, 1041, 1045, 1047, 1065, 1068, 1082, 1088, 1094, 1139, 1140, 1145, 1159
I	Infi nity	1067
J	Janeil	1134
	JBL	1067
	JC Penney	1003, 1013, 1018, 1019, 1024, 1026, 1046, 1047, 1054, 1063, 1083, 1085, 1100, 1103, 1110, 1112, 1133, 1154
	Jensen	1003
	JVC	1028, 1029, 1045, 1047, 1050, 1060, 1065
K	Kawasho	1001, 1003
	Kenwood	1003
	Kloss Novabeam	1023, 1056, 1057, 1134
	KTV	1013, 1023, 1033, 1034, 1073, 1099, 1113
L	LG	1024, 1030
M	M.Wards	1002, 1009, 1038
	Magnavox	1003, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1081, 1106
	Marantz	1003, 1031, 1067, 1122
	Mitsubishi	1003, 1024, 1051, 1115, 1122, 1133
	Motorola	1014, 1069
N	NEC	1003, 1012, 1024, 1043, 1069
	NET-TV	1137, 1150
O	Orion	1020, 1096
P	Panasonic	1017, 1067, 1069, 1095, 1111
	Philips	1003, 1011, 1045, 1052, 1054, 1056, 1057, 1058, 1063, 1067, 1069, 1106
	Pioneer	1003, 1018, 1037, 1070, 1071, 1094, 1145, 1147, 1149
	Plasmsync	1135
	Portland	1003, 1013, 1024, 1059
	Price Club	1026
	Prism	1018
	Proscan	1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1085, 1103, 1110
	Proton	1003, 1045
Q	Quasar	1010, 1069, 1073, 1111, 1153
R	Radio Shack	1003, 1013, 1015, 1023, 1024, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110, 1113
	RCA	1003, 1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1014, 1024, 1049, 1069, 1075, 1079, 1085, 1087, 1088, 1093, 1094, 1101, 1103, 1110, 1113, 1153
	Realistic	1013, 1015, 1023, 1025, 1045, 1100, 1103, 1110
	Runco	1010, 1153
S	Sampo	1150
	Samsung	1003, 1013, 1024, 1026, 1040, 1045, 1062, 1078, 1083, 1090, 1100, 1105, 1114, 1120, 1121, 1146, 1148, 1157
	Sansui	1119
	Sanyo	1003, 1025, 1051, 1072, 1077, 1091, 1156, 1157, 1158
	Sharp	1003, 1013, 1014, 1015, 1045, 1055, 1064, 1066, 1076, 1089, 1123
	Signature	1009
	Sony	1001, 1102, 1108
	Soundesign	1003, 1023, 1038, 1063, 1113
	Starlite	1023
	Supre-Macy	1134
	Sylvania	1003, 1039, 1042, 1052, 1053, 1056, 1057, 1063, 1067, 1089, 1151
	Symphonic	1023, 1039, 1044
T	Tandy	1014
	Tatung	1069
	Technics	1018
	Techwood	1003, 1018
	Teknika	1003, 1009, 1013, 1023, 1024, 1026, 1038, 1045, 1047, 1059, 1063, 1111, 1113
	Telecaption	1074
	Toshiba	1003, 1019, 1025, 1026, 1042, 1074, 1098, 1107, 1111, 1135, 1136
	Totevision	1013
U	Universal	1046, 1054
V	Video Concepts	1113
	Viewsonic	1006, 1022, 1109, 1128, 1129, 1130, 1131, 1138, 1143, 1145, 1150
W	Wards	1003, 1009, 1015, 1024, 1038, 1044, 1046, 1052, 1054, 1056, 1057, 1067, 1086, 1103, 1110

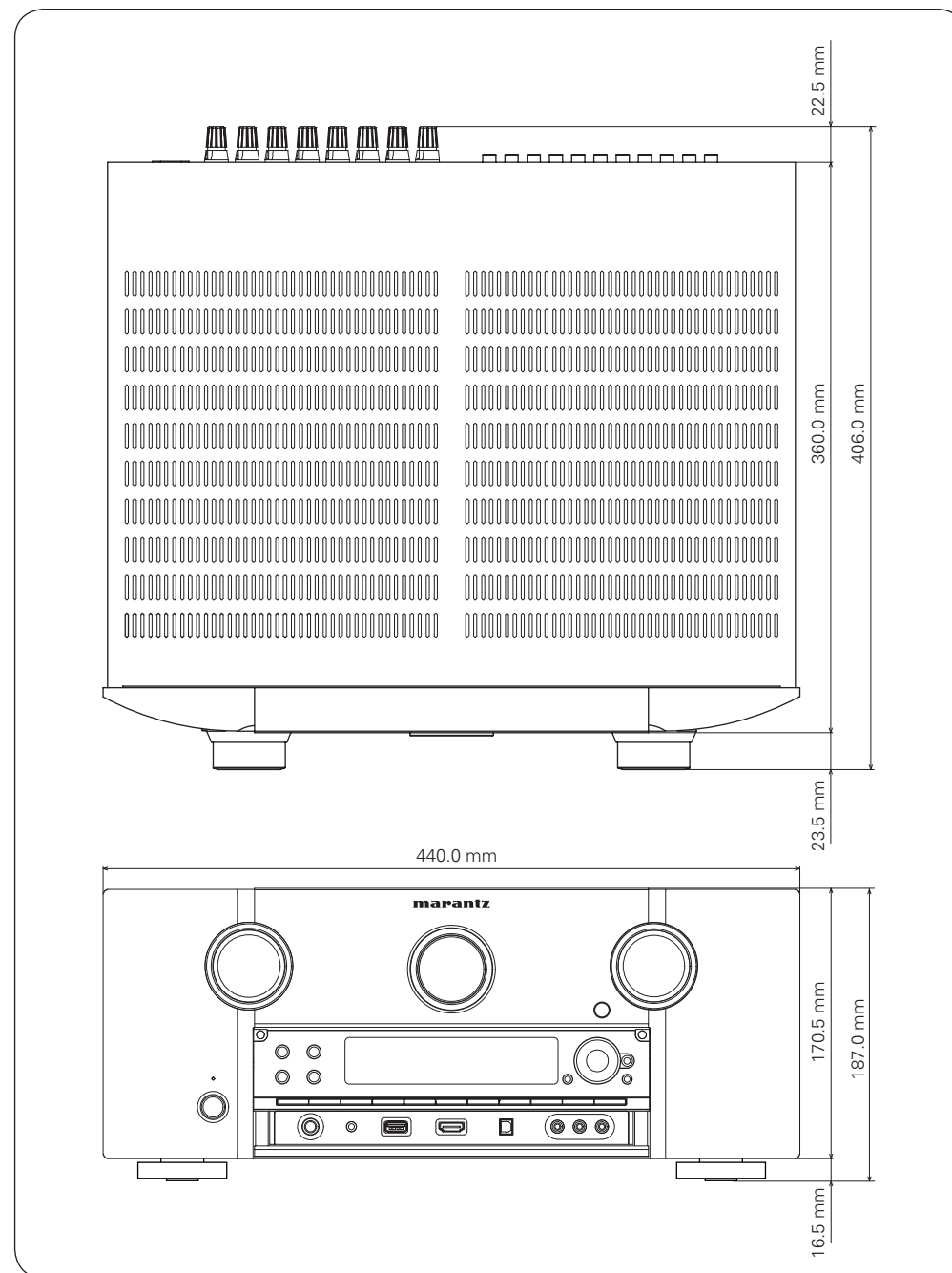
	White Westinghouse	1001, 1101
Y	Yamaha	1003, 1024
Z	Zenith	1003, 1009, 1010, 1132, 1144, 1153

機器の選択：CD

CDプレーヤー

A	AIWA	3001, 3002, 3003
	AKAI	3004, 3005, 3006
	AUDIO	3007
	AUDIO LABS	3008
C	CALIFORNIA	3008
	CARVER	3010, 3011, 3009
	CASIO	3012, 3020
	CURTIS	3020, 3012
D	DENON	3013
E	EMERSON	3014
F	FISHER	3011, 3015, 3016, 3017, 3018
G	GE	3019
	GENEXXA	3014, 3021, 3020
H	HARMON	3022, 3023, 3051
	HITACHI	3020
I	INKEL	3024
J	JC PENNEY	3012, 3020, 3025
	JVC	3026, 3027
K	KARDON	3022, 3051, 3023
	KRELL	3010
L	LUXMAN	3035, 3036, 3037, 3038
	LX I	3012, 3020, 3014
M	MAGNAVOX	3010, 3039, 3040
		3010, 3041, 3042, 3043
	MATHES	3012, 3020
	MCS	3012, 3020
	MGA	3023
	MISSION	3010
	MITSUBISHI	3023, 3044
N	NAD	3034, 3045
	NAKAMICHI	3046, 3047, 3048
	NEC MCS	3025
	NIKKO	3007, 3016
O	ONKYO	3049, 3050, 3051, 3052, 3055, 3102, 3103
	OPTIMUS	3011, 3014, 3020, 3028, 3053, 3054, 3056, 3057, 3058, 3059
P	PANASONIC	3008, 3060, 3061
	PHILIPS	3009, 3010, 3010, 3040
	PIONEER	3020, 3021, 3062, 3063, 3064
Q	QUASAR	3008
R	RCA	3011, 3014, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
	REALISTIC	3011, 3014, 3020, 3042, 3054, 3057
	ROTEL	3010
	RS ORIGINAL	3070
S	SAE	3010, 3083
	SAMSUNG	3071
	SANSUI	3014, 3068, 3072, 3073
	SANYO	3011, 3018, 3074, 3075, 3076
	SCOTT	3014
	SEARS	3012, 3014, 3020, 3028, 3042
	SHARP	3028, 3042, 3077
	SHERWOOD	3042, 3056, 3070, 3078, 3024
	SHURE	3025
	SONY	3039, 3079, 3080, 3081, 3082, 3097, 3098, 3099, 3100, 3101
	SYLVANIA	3010
	SYMPHONIC	3083
T	TEAC	3016, 3042, 3057, 3083, 3084, 3085, 3086
	TECHNICA	3007, 3008, 3061, 3087, 3088
	THETA DIGITAL	3040
	TOSHIBA	3045
V	VICTOR	3026
Y	YAMAHA	3007, 3089, 3090, 3091, 3092
Z	ZENITH	3016, 3093, 3094, 3095, 3096

❑外観寸法図（単位：mm）

22.5 mm
360.0 mm
406.0 mm
23.5 mm
440.0 mm
marantz
170.5 mm
187.0 mm
16.5 mm

marantz®

お客様ご相談センター

☎ 0570（666）112

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

IP 電話をご利用の場合など、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。その場合は 03（3570）5138 におかけください。

受付時間　9：30 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル

修理に関するお問い合わせは、
添付の**「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」**をご覧ください。

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

当社の最新情報をインターネット上でご覧ください。
http://www.marantz.jp

Printed in China　5411 10492 11BM